明治四十二年度

第八回創立記念式式辭（大要）

本校創立の當初より發起人とし、創立委員と代り、財團法人となりては評議員として十年一日の如く、本校發展の爲に最も深い同情を以てお助けになつた評議員諸君の御出席の榮を辱うし、本校教職員並びに生徒一同此の堂に集つて第八回創立記念式を擧げて、共に喜び、將來の希望を養ふ事を得るは實に欣喜に堪へざる所である。我が國の女子教育界並びに本大學が過去十年間にかくの如き進歩發達を遂げ、茲に我が國女子教育の一段階を昇る事が出來、之迄伸ばした根柢を深く養ひ內容を充實し、分量よりも實質を精選する時期に達した事は、實に我が國に功勞あり、勢力ある先輩諸君の熱誠なるお助けによる事は茲に辯ずる迄もないのである。本校が開校式を擧げてから滿八年、計畫を發表した時から十三ケ年の星霜を重ねた。當年此處に御列席の大隈伯は外務大臣、土方伯は宮內大臣、久保田男爵は衆議院議員、後に文部大臣となられ、又澁澤男、森村氏は人も知る實業界の泰斗である。其の他の方々が恰も慈母の態度を以て本校の發展を助けられたのであつた。今や殆ど小世紀を終る記念式に於て尙渝らず培ひ養はるゝは、實に感謝に堪へぬ所である。式辭に代へて一言を述ぶ。

（「家庭週報」第百八十五號）明治四十二年四月

婦人今後の發達は此の原理を實行するにあり

第六回正、准會員を迎ふ

今日は本校並びに櫻楓會に深い關係のある方々の御列席を願ひ、又第一回生より第五回生に至る各回の卒業生を始め、各地方支部代表者の方も遙々御出席になりまして、最も同情に滿ちた多くの方々の前で、本校第六回卒業生を正會員とし、第七回生を准會員として櫻楓會に御迎へする事は、實に我々一同の歡喜に堪へぬ所であります。殊に今年は從來の家政學部、文學部、英文學部の外に教育學部第一回卒業生を始めて櫻楓會に迎へました。顧みれば恰も日露戰爭が酣であつた時、森村さんから、海外貿易事業の爲に一身を捧げられた御令弟の豊さんと、令息の明六さんの記念の爲に、何か此の方々の志を顯はす途はあるまいかとの御話がありまして、私はどうしても我が國刻下の急務は教育を興すにあると申しました所が、森村さんは茲に大決心をなさいまして、遂に此の豊明館が建設され、教育部の

開設を見るに至りました。故に教育部の者は一同深く感じ、大いに覺悟する所がありましたので、實に我が國の運命の繫つて居る教育の改善進歩を計る爲に、此の同じ主義精神に滿ちて居る多數の協力者を得ました事は、我々が云ふべからざる喜びとする所であります。

我等の久しく求め居たる賢婦は生れしか

先程幹事長代理から御報告になりました所に依れば、皆さんは御自身であれ丈けの豫算案をたて、今年度の計畫、其の他の議案を作つて、一昨日和氣靄々たる裡に全く自分の力を以て御相談を御纏めになつたのであります。之は一寸考へれば左程珍しい事ではない樣であるが、深く考へると我が國婦人の爲に祝せざるを得ないのであります。今日私は此の會に臨みまして實に云ふべからざる深い感じに打たれました。深い感じとは何であるか、皆さんは今迄悉く私と同じ努力をなさり、只今又、同じ感じに打たれてお居でになるのであるから、言葉を以て詳しく申述べる迄もなくお解りになつて居るのであります。我々は如何なる熱望の爲に、如何なる努力をしたのであるか。一言で云へば、我々は今茲に全身全力を擧げて、ある新しい生命を生まんとして居り又育てんとして居る。丁度天が萬物を育てゝ居り、牝鷄が卵を抱いて外敵を防いで居る如くに、我々は何物かを生まんとして居り、育てんとして努力して居るのであります。此の努力を他の言葉を以て云ひ表せば、慈母の愛とか、天の惠みとか、人の情けとか申すので、之は實に宇宙に現れる美の頂上である。此の美に接して誠心の現れないものはあるまい、何かの感じに打たれないものはないであらうと思ひます。

そこで今育てゝ居る生命の實體は何であるか、夫れは何處にあるかと云ふと、之は容易に捉へ難いものである。故に何か表象を用ゐて云ひ表すより外はない。夫れで私は時により種々の言葉を以て云ひ表さうと試みましたが、其の內最も屢々用ひたのは賢婦と云ふ言葉であります。「誰か賢婦に遇ひしか」之は我々が生涯かゝつて追求して居るものを言ひ表して居るのである。賢婦と云へば個人を指す樣に聞こえますが、私の申す意味は左樣でない事は、皆さんは御解りになつて居るでありませう。我々は隨分長い間賢婦の現れるのを待つて居た、尋ねて歩いた、然し見出す事は出來なかつたのである。そこで我々には唯一人でもよい、眞の賢婦を作らうと決心して、三十餘年來其の爲にあらゆる困難と戰つて來ました。殊に今學期の終りに於ては、一層深く生みの苦勞を味つたのである。然るに先日來我々が長い間希望して居つた一つの生命が生れたと云ふ感じが

ある。否、啻に感じがあるのみならず、夫れを慥める多くの事實があるのであります。卽ち今年に於てはあなた方の間に社會性が大いに發達して參り、全體的の活動が段々に現れて來たのであります。社會性とは何であるか。簡單な言葉で申すならば之は全體に對する興味である。團體を愛し、國家社會を思ふ熱誠であります。之が我々の求めて居つた賢婦の全人格ではないが、慥に其の芽となるものであり、土臺となる大切な一つの精神であります。勿論此の精神は今日俄に出來たものではなくして、其の由つて來る所は數十年の以前にあり、近くは本校創立以來、本校關係者諸君、並に第一回生を始め多數の櫻楓會員が日夜苦心せられた結果である。換言すれば之は本校々風の產物であり、大きく云へば、世界の此の時代の產物であると申さなければならぬのであります。先日からあなた方は各部に別れ、或は全體一緒になつて、我々の前で決心を告白せられました。之は只空な言葉ではない感じではない、鞏固なる意志である。銘々の使命の爲には何物をも捧げて惜しまない、今後如何なる困難をも辭さない、如何なる誘惑にも克つて生涯志を一貫させます、と云ふあなた方が全體に對しての決心であり、覺悟であります。斯う云ふ經驗を持たない者は、今度のあなた方の決心をも一時的の熱情の如くに思ひ、或は子供の言葉として餘り重んじないかも知れませんが、私は自分の經驗から推しても、人の經驗から考へて見ても、之を信ぜざるを得ないのであります。今日我が國の實業界に於て內外の信賴を受け、大いなる勢力となつて居る森村組はどうして出來たのであるか。其の始めは一人の靑年と、十三歲の弟との同盟であつた。森村さんは早くから世界の大勢に目を着けられ、今後はどうしても國家の爲に貿易を盛んにしなければならぬと決心して、之を令弟の豊さんに語られた。その時豊さんは未だ十三歲の少年でありましたが、之を聞いて大いに感奮し「兄さん私の身體を貴君に差し上げます、どうか何になりと御使ひ下さい」と誓はれたと云ふ事であります。此の少年の決心は、其の後種々の困難に遇つて益々固くなり、今日豊さんは既に決心を貫いて天職にお斃れになつた後も、猶森村組を發展させる一大原動力となつて居るのであります。

そこで我々は慥に長い間求めて居つた一つの生命を今年生む事が出來たのであるが、然し之は未だ極く小さい芽に過ぎない、一ツの卵に過ぎないのであります。一寸油斷するならば、芽は直ちに氣候に負けるかも知れない、卵は敵に害はれるかも知れないのである。故に我々は之を以て安心する事は出來ない。此の生命の芽が益々成長して、偉大な賢婦と成つたのを見

なければ、決して滿足する事は出來ないのであります。然し我が國今日の境遇に於ては斯う云ふ生命を育てる事は容易でない。あなた方が今日の決心を生涯貫く事は實に困難であります。どうしたならば益々此の生命を育てゝ行く事が出來るであらうか。あなた方の決心を貫く事が出來るであらうか。之は複雜な大問題でありますが、今日迄の我々の經驗に依れば、道は只一つである。卽ち今後婦人が有機的關係の價値を解し、研究も活動も凡て有機的にする樣にならなければならない。換言すれば相互扶助、協同一致の働きに依らなければならぬのであります。

櫻楓會を我々が自己の身命よりも重んずるは何故であらうか

今申した大切な生命を育て、婦人の進步發達を計る爲に最も有機的關係の重んずべき事を一言しましたが、之は我々の獨斷ではない。長い間の人間の經驗に基づき、學術研究の結果人類が見出した所の原理であつて、今日の世界の大勢であります。

近世文明の原動力となつたものは何かと云ふと、文藝復興に於て人間が個人を見出し、次ぎに社會を見出した事であります。どうして人間が社會を見出す事が出來たかと云ふと、十九世紀に至つて科學研究が非常に盛んになり、人々が爭つて天然を研究し、生物學、心理學等に依つて社會心理の原理を見出し、遂に社會學を組立て、社會進步の原理原則を研究した結果であります。今日の文明の社會は加何して發達して來たか。又何故或國家社會は猶未開の狀態にあるか。卽ち世界各國文野の相違は如何にして生じたかと云ふと、其の主なる原因は人間の結合力の强弱である。野蠻人は結合力が非常に薄弱であつて、或社會學者の報告に依れば、僅に四十名內外の團體を作る力しかないのであるが、文明國民、例へば倫敦市の如きは、實に六百萬の人の力を結合して活動して居るのであります。二千年前ローマ大帝國が勃興して世界に覇を成したのは、畢竟ローマ國民が他の國民より善く一致協力した、統一されて居つたと云ふ事である。我々が偉人として尊敬する人は、如何なる人であつたかと云ふと、つまり此の多くの力の結合を作る事が出來、大きい有機的關係を作つた人である。小人とは其の反對に何物に對しても美はしい關係を作る事の出來ない、結合力の薄弱な人間に外ならぬのであります。此の原理を見出して之に從ひ、之を應用したものは昔も今も益々發展して居るのであるが、之に逆ふものは必ず滅亡の悲運を免れなかつたのであります。

今後我が國の婦人が覺醒して、眞に其の重大な使命を果さう

と思ふならば、どうしても此の宇宙の原理を認め、只之を知る計りでなく、實際に經驗して確信としなければならぬ。二千五百萬の婦人の世界に有機的關係が作られ、家庭に關する事も、教育の方面も、社會の改善に就いても凡てが分業的に研究實行され、夫れが互に關係を保つて、一つの有機的活動となるに至らなければ婦人の實力は發達しない。之が出來なければ婦人の境遇開拓は望む事が出來ぬのであります。

或心理學者は、我々の動機と動機とが矛盾して居る間は、未だ衝動のまゝに動いて居る時代であるが、此の矛盾して居る動機が一つに統一されるならば、其處に意志が出來人格が現れるのである、と說いて居る。丁度團體も之と同じ事であつて、多數の人數が集つて種々の活動をして居つても、其の一人一人の動機が互に矛盾して居り、之を統一する全體意志が出來て居ないならば、其の團體は未だ一つの團體的人格を現す事は出來ないのである。此の團體は眞に强固な基礎の上に立つものではない。永久の生命、限りなき發達は此處に望むべからざるものであります。我々の求めて居るものは之ではない。斯う云ふ一時的のものではない。各人の間に、各分業の間に、完全な有機的の關係が保たれ、全體が一つの意志、一つの精神に依つて活動する、生命ある、統一ある團體であります。我々の長い間渴望して居るものは、卽ち此の團體的人格である。之が我々の久しく求めて居る賢婦であります。

茲にあなた方千餘名の婦人に依つて組織せられて居る櫻楓會があります。櫻楓會は其の歷史から考へても、會員の數から申しても、亦事業の上から見ても未だ幼稚なものであるが、之は慥に或主義理想に於て全體が統一されて居り、又比の精神を宿して育てゝ行く身體の機關も、なかなかよく有機的に出來て居つて、幼稚乍らも全體が協同一致して目的に向ひ、常に計畫し活動して居るのであります。そこで我々は今申した意味から、此の團體に對して多く期待せざるを得ないのであります。假令今日は未だ幼少なものであつても、其の芽は眞の種子から生へたものであるから、今後我々の努力に依つて、無事に成長する事が出來たならば、今日迄我が國に缺けて居つた最も大切な或物を與へるであらう。將來必ず我が婦人界に新しい生命を與へ、光を導いて、我が國の運命を開拓する賢婦となるであらうと、我々は深く信ずるのであります。之は實に我々が長い間の努力に依つて、漸く育てた唯一つの芽である。之が枯れるならば、容易に代るべきものを見出す事は出來ないのである。故に我々は實に此の團體を自身の生命よりも、名譽よりも重んぜざるを得ないのである。此の幼少な者の爲には、如何なる困難と

闘ふ事をも我々は厭はないのであります。そこで如何したならば、我々は此の子を益々健全に成長させる事が出來るであらうか夫れに就いて深く考ふる所がなければならぬのであります。

櫻楓會の發達を今後如何にして計るべきか

私は今迄櫻楓會の有機的關係を、皆さんに能く御知らせする爲に、櫻楓會の肖像を植物に象つて描き、之を櫻楓樹と名付けました。多分あなた方の頭腦には深く刻み込まれてゐるであらうと思ひます。此の櫻楓樹でも宜しい、之でも間違つては居ないのであるが、有機的關係の最も發達したものは人間の生活に現れて居るのでありますから、矢張り人間の身體に倣つて櫻楓會の肖像を描いた方が一番適當であり、解り易いであらうと考へます。

先づ我々人間の生命に就いて考へて見ると、最も大切な機關が三つある。即ち第一交感神經、第二運動神經及び感覺神經、第三大腦であります。第一の交感神經は有背動物には必ず備はつて居りますが、下等な動物と人間の如き高等のものとを比較して見ると、高等に進む程其の組織が益々完全になって居る。此の交感神經は同情の組織とも云ふべきもので、此の機關の働きに依つて全身が平均の溫度を保ち、指の先きにでも苦痛があれば直ちに夫れを感ずるのであります。

交感神經の働きが最も盛んになるのは如何なる時かと云ふと、或新しい生命を生む時、又は此の生命を育てる時で、鷄の如きものでも、卵を生み之を抱いて育てる時には非常に體溫が高くなるのであります。若しも我々の交感神經が鈍つて、同情が全身に行き渡らないならば、我々の身體は成長する事が出來ないのみならず、遂には生命をも失ふに至るのである。社會の進歩、團體の成長も丁度之と同じ事で、全體の交感神經が鋭敏に働き、同情が通つて居らなければ決して新しい生命を生む事は出來ない。又團體の精神と身體とを發達させる事も出來ないのであります。

故に我々が櫻楓會の生命を發展させ、此の大切な賢婦を益々養ひたてゝ行かうと思ふならば、實に親の愛の如き、太陽の溫度や光の如き、實に暖かな、又時に熱烈なる精神が旺んにならなければならぬ。此の精神は一言で云へば前に申した同情であり、親切である。即ち今日此の堂に滿ちて居る、私心のない、實に美はしい社會的同情であります。人間の諸々の德の中で其の最も眞隨となつて居るものは此の同情仁愛である。之が人間の價値であり味である。人と人とが美はしい關係を保つには此の親切、同情を連鎖とするより外はない。最も強い團結は、必

ず此の同情親切が全體に通つて居らなければならぬのであります。若し我々の心から之を失ふたならば、世界は實に殺風景となり、人生は暗夜の如きものとなるのである。此の心が全體になければ、機關が如何に完全であつても、少しも活動は現れないのであります。而して此の同情、親切、仁愛の心は特にあなた方婦人に多く賦與せられて居るのであります。我々は少しも人を責める必要はない、又人を捨てゝはならぬのである。實に無限の仁愛を以て人を許し、人を救ひ、自らを愼しんで常に全體の事を考へるのである。今年我々櫻楓會員が一致協力して、大いに進まなければならぬ事は、此の交感神經の働きを一層鋭敏にする事であります。此の社會的同情に依つて、幼少な賢婦を成長させる事であります。

次ぎに第二には運動神經及び感覺神經の發達を計り、其の働きが現れる樣にしなければならぬ。櫻楓會の運動神經及び感覺神經は、卽ち櫻楓會の凡ての活動の機關であり、事業である。其の中でも大學擴張事業の如きは其の最も主要なるものであります。玆で我々の最も注意すべき事は、其の活動が個々別々になつて居るのでなく、矢張り此の身體の諸機關の樣に有機的の關係を以てしなければ勞しても餘り効はない。故に有機的、團體的の働きを始める事が必要であります。先程の御報告に依りますと、昨年は各地方の支部に於ても本部に於ても大學擴張の働きが大いに現れて來た樣であるが、之は實に喜ぶべき事であります。猶之等櫻楓會の運動神經及び感覺神經、卽ち各方面の事業計畫等に就いては、今日は時がありませんが、他日折を得て詳しく御相談し度いと思ふのであります。

今申しました種々の働きを統一するものは何であるか。之を身體の機關で申せば大腦であり、櫻楓會で申せば本部であります。今日櫻楓會には、我が國の各府縣を始め、淸國、韓國等に併せて五十餘の支部がありますが、此の支部と本部とが、常に連絡を保つて行かなければならぬのであります。此の支部がもう一層發達して、一種の神經中樞の働きをする樣になり、所々に指導者があつて、自動的に大學擴張の働きを益々盛んに興し、家庭にも周圍の社會にも大學生活を擴大して、社會の要求に應じ、時々其の働きを纒めて本部に報告し、互に刺戟を與へて進むならば、非常に有効な働きが出來るであらうと考へます。

最後に一層大切な事は精神である。凡ての働きが一つの意志に依つて統一される事、卽ち櫻楓會全體の意志を以て、種々の欲望衝突を支配し、全體を動かして行く働きであります。我々は何の爲に全體に仕へ、何の爲に全體を支配するのであるかと

云ふと、一言で云へばつまり我々の目的である所の第二維新を仕遂げる爲であります。婦人の境遇を開拓し、婦人の使命を全うする爲であります。此の全體の目的に感じて此の爲に服從し、貢献し、努力するのであつて、之が眞の自制であり、全體意志であります。

今年に於て我々は大いに社會的同情を旺んにし、我々の力の基であり、生命の源である櫻楓會の有機的關係を一層完全に進め、益々此の賢婦の成長を計つて行かなければならぬ。之が出來ましたならば、あなた方は眞に志を貫き使命を全うする事が出來、限りなき進歩向上を御續けになる事が出來るであらうと私は信ずるのであります。今年あなた方櫻楓會員に對して、私が最も切望する所は、實に此の有機的關係を一層完全に進めると云ふ事であります。

（「花紅葉」第七號・第六回櫻楓會總會）明治四十二年四月

婦人と國民

國運の發展と列國競爭

我帝國は第一維新に於て開國の國是を確立し、其門戸を開放して外國に對する敵意を氷釋し、和親通商の友誼を結び、世界の潮流に乘り出したのでありますが、已に門戸を開き潮流に乘出した以上はよく大勢に伴ふて推移し、國家の地位を進め、先進列國の伍班に加はらんとするの方針を立るは自然の勢であつて、之か爲には再度までも大戰鬪を敢てして、遂に列國と對等の位地を贏ち得たのである。此偉大なる事業を此短日月の間に成就した事は、列國の驚嘆する所、國民自身の基礎を固める所以である。既に對等の位地を得れば其面目を全ふし、且大勢の進歩に後れを取らないと云ふ大覺悟がなければならぬ、之は云ふまでもなく內に國力を充實して以て外列國に對する實力的經濟的競爭である。一度對等の位地に立つ上は從來後進國として誘掖指導に懇なりし列國が態度を改めて競爭者の位地に立つことは、國の發達上必然の勢で敢て怪むに足らないのである。開國の當時より特殊の交誼を保ち來りし北米合衆國の如きも、國際關係より見れば依然として好情を持續して居るけれども、經濟的競爭者としては一歩も讓らぬ態度を示して居る、之固より當然の事であつて、吾帝國も亦寸時の油斷なく自ら其競爭に對する計畫を立てねばならぬのである。

雄大なる北米合衆國の計畫

今ま米國が東洋否世界の大舞臺に立つて如何なる活動を試みんとして、如何なる準備を立てゝ居るであらうか、彼等は二十

年後に於て人口壹億幾千萬に上り、國の富力は六千億の巨額に達せしめんとして雄大なる計畫を立てゝ居るのである、彼等は軍備を擴張せんとして頻りに軍艦の建造に熱心して居る、東西洋の航路を短縮せんが爲には幾囘かの蹉跌を顧みず、パナマ運河の開鑿に巨億の資金を注入しつゝあるのである。然ども吾々の最も注目すべきは是等の計畫に比して一層的確切實なる教育の効果を實驗し之を實際に應用して世界無比の大國民を養成せんとする

教育的大計畫である

最近の報告によれば合衆國が年々教育の爲に費やす金額は九億に達し、之を同國全歳出二十八億に比すれば實に三分の一を占めて居るのである。斯の如き巨大なる費用を投じて如何なる効果を期待して居るのであらうか。第一彼等の實驗によれば九億の教育費を投じて國民の生產的實力を增進する結果は年々百億の富を加へることゝなるのみならず、印度人種を初め諸國より移住し來る下層なる勞働者は其の子女を教育して無智無能の民を轉じて、相當の働を得せしめ犯罪を減じて正實なる有用の國民を作るのである。卽ち國の生產力を增進し、犯罪を減少し、貧困を防止する經濟的効果である。次は男女貧富の區別なく國民の特權をして教育を受くる結果として均しく其品性を養ひ、人格實力を發達せしむる倫理的効果である。國家的政治的に現はるゝ効果は、國民の自由教育は國家の調和力となることである。智識の進步思想の發達、品性人格の養成は貧富の隔離若くは人種間の軋轢の原因を撤退し誤解を釋き、擧國一致協同の大目的を遂げる事が出來るのである。斯の如く彼等は確實なる教育の効果を經驗して、之を以て國家の發展、國民膨脹の原動力となし、尙進んで教育を改善し擴張し普及せんとして一日も油斷せず努力奮鬪を續けて居るのである。

斯の如き對手國の大計畫に應ずる我國の準備

は如何なる狀態であるか、如何なる計畫が立てられて居るか。吾國の富力は二十年後に果して幾千の增加を來すことが出來るか、現に國民の負へる所の二十億の借財は幾年の後に償還を了へる計算であるか、更に進んで世界的工業的大競爭に參加して對等の位地を全ふし得る確信があるであらうか、平和的戰爭の軍備費たる吾國の教育は國の歳出六億に對する四千萬圓、卽ち僅に十五分の一を教育に費やし居るのである。斯かる薄弱なる軍備金を以て果して今後の世界的工業的の活劇場裡に勝利を博すべき大國民を造ることが出來るであらうか、玆に至りて如何なる經綸家も政治家も財政家も行き詰まる問題に逢着するのである、國民の質素儉約に由りて切り拔けることが出來る

か、軍備縮少のみで此難關が越されるのであるか、決して斯の如き消極的手段のみに由て解決することは出來ないのである、何物か此に新財源、新事業計畫を見出して活動力を加ふるにあらざれば國の運命を發展することは望まれないのである。此新財源新計畫を見出す事は容易の業とは思はれないが、決して不可能の事ではない、其途も亦た一にして足らずであるが、吾々は茲に國の事業を二倍にし、國の浪費を半減し

國の勢力を二倍にする途がある

と信ずるのである、此新事業新勢力は果して何であるか、之は自然物若くは自然の力を指して云ふのではない、此力を發見し之を支配し得る人間力である、此人間力を二倍にすることが、吾國力富力を二倍にする途とするのである。然れば如何にして之を二倍にすることが出來るかと云ふに、是迄半人間であつた婦人を一人前の人間となし、半睡の婦人を覺醒して國民として國家の義務の半を負擔せしめ、吾國家に二千五百萬の新勢力新財源を加へると云ふことである、現今吾國婦人の家庭に於ける位地は稍認められて居るも未だ十分とは云はれぬ、況んや國家社會に於ける位地に至りては正當なる解釋を得て居らぬ。

未知の力、未開の荒野である

此婦人を睡りより醒まし、其人格實力を養成し之を發達せしめて、眞に國民の仲間入をする事が出來、男子界と女子界とが一致協同し相扶助して國民として活動する事を得せしむるは、卽ち未知の新勢力を發現し未開の新財源を開拓して、吾國家に二千五百萬の新勢力新財源を發現する所以であると信ずるのである。茲に國民としての婦人と云ふことは、種々の方面より種々の說明を要するのであるが竟畢するに

婦人の社會性を發揮し國民的性格を養ふ

ことである。吾國の婦人は未だ個人として充分に其性格を發揮して居らぬ。隨て各自の使命を全ふするに困難を覺えるのであるが、家庭に於て國家社會に於て、其社會的性格は遺憾ながら婦人自身に於ても自覺して居らず、社會も未だ之を認める程度に進んで居らぬのである。此文明の世に孤獨分立の生活を營み之を連合し團結する機關がない。箇々別々の範圍を脫し得ない、斯の如き狀態を以て、國民としての活動は殆んど望まれないのみならず、賢母良妻としての眞價も、婦人自身の幸福も家庭の安寧も國家社會の完成も到底出來難いことである、卽ち個人性を擴大して國家大となし、家庭を擴大して社會大となる個人性、社會性が充分に發揮して統一、組織、連絡ある有機的機關とならなければ其目的を達することは出來ないのである。然れば吾國婦人が覺醒して其個人性、社會性を發揮せしめること

は現在に於ける國家の勢力を倍加せしめる所以であるのみならず、第二國民を養成する母たり妻たる職分に於て將來の國家に新活動力を加へ、國家無窮の繁榮を翼賛する大事業と云ふことが出來るのである。吾々は眞に國家の現狀と將來の進運のために此目的を達せんことを希望すると共に、

婦人自身にも現在は將來の國家の爲に盡す大なる天職

であることを認め、且つ此目的を達するの途は教育によりて智識實力、品性を養ひ其性格を完成することは過去及現在に於ける東西の實例の證する所であることを認めて、婦人自身の爲めに、國家の爲に子孫の爲に熟慮し、反省し、大なる決心を起して國家の急務に盡されんことを切望に堪へぬのである。

（「家庭」第一卷第二號）

奮鬪の興味

登高の趣味

凡そ人間の趣味感興は人々によりて夫々異なつて居ります。或は花を見て樂しみとするもの、或は紅葉を探つて興ずるもの、或は海邊の景色を慕ひ、或は明月に興を催すもの、人々により、境遇により、性質によりて千種萬樣でありますが、其の中にあつて私の最も深き感興を覺え、少年時代より今日に至るまで少しも變らないのは登山の樂しみであります。高き山に登り、深き谷を渉る樂しみは、常に言ひ難き趣味を覺えるのであります。今や新綠滴らんばかりに青葉や若葉に裝はれて居る野山を望見して、最早今年の登山の季節の漸く近寄れるを覺えて、漫ろに感興の湧き出づるを禁じ得ないのであります。之は獨り私のみに限らず、高きに登つて廣き天地を眺めると云ふことは、何人でも一種爽快の感を起すものであります。卽ち公園を散歩する時、其處に小高き丘陵を見出せば、誰しも之に登つて四邊の景色を眺めようと云ふ心を起すのであります。吾々の庭の景色でも、階下よりは二階、二階よりは三階と云ふやうに少しでも高き所によつて眺める事を悅ぶのは何人にも通有せる興味であると思ふのであります。或は名に聞えた高山でも、亦比叡山の頂上より見る琵琶湖の水や攝、河、泉諸州の山々の眺めでも夫々云はれぬ爽快を覺えますが、富士山の高きに上りての更に廣くして大なる眺望には遙かに及ばない。卽ち一歩でも一段でも高きに就けば就く程、景色は大きくなり廣くなるのであつて、吾々は少しでも高く、少しでも廣く、少しでも大きい景色に接することを快く思ふのであります。

斯様に高きに上ることを悦ぶのは多數の人々の通有性でありますが、併しながら唯高きに上りて、廣大なる景色に接すると云ふことばかりで、吾々の興味を感じるものではない。高山に登るには必ず之に困難の伴隨することを忘れてはならぬ。例へば富士山に登ることは多くの人々が非常に興味を感ずる所でありますが、困難を伴はずしては到底頂上に登ることは出來ないのであります。即ち一歩を進め、一合を越ゆる毎に眼界は益々開けて廣くなり、景色は益々雄大になると同時に、道は愈々嶮岨となり、危險となり、脚歩は愈々艱難を加へるのであります。又單に道の嶮岨危險があるのみならず、風雨の襲來に對しても備へがなければならぬ。此の備へを忽せにする時は思はぬ危害に陷ることがあるのであります。如何に健脚を誇る人でも、充分なる旅裝を整へて急がず焦らず、杖に倚り、巖に攀ぢ、徐々として多くの困難と戰ふべき決心がなければ登山の目的は決して達することは出來ないのであります。然れば山に登るの興味と云ふことは、啻に高きに上りて大なる景色に接することのみでなく、寧ろ歩一歩困難と戰ふこと、即ち努力奮闘する所に無上の興趣を感ずるのであります。或は奮闘に對する興味が吾々を導いて、高山に登り大なる景色に接せしめるのであると云ひ得るのであります。

努力其のものゝ興味

此の奮闘の興味は吾々が向上の路に歩む上にも非常に大切なものであります。困難と戰うて高き山、嶮しき坂に攀ぢ上ることは吾々の四肢を錬り、筋肉を鍛へて身體を壯快ならしめ、健康に導くものでありますが、努力奮闘して向上の路を歩むことは吾々の知識を磨き、意志を鍛へ感情を錬り、以て其の品性を高尚ならしめ、人格を確立する上にも最も大切なる要點であります。即ち奮闘に愉快を覺ゆる所の興味は實に向上の精神の原動力となるものであります。而して吾々が高山に登らんとするには健全なる體力が必要である如く、向上の路を歩み、精神的の高山に登らんとするにも亦健全なる精神の力を要するのであります。富士や比叡には毎年登り下りすることが出來る、又時には登山を見合せることも出來るのでありますが、精神的の登山は日一日、年一年少しも歩みを止めずして生涯を通じて登り行くのであります。故に非常に堅固なる精神の力を要するのであります。即ち一歩を進め一段を登る毎に、宇内が段々廣くなると共に困難も亦加はるのであります。或は胸突八丁と云ふやうな嶮しい道を辿ることもあり、或は削れるが如き斷崖を木根に縋り、蔦蔓に縋つて攀ぢ登ることもあります。或時は暴風雨

に襲はるゝこともあります。されば是等の困難と戰ひ、之と奮闘する所の結果が吾々を導いて遂に頂上を踏むことを得しむるのであります。若し嶮岨なる山路をば吾々の境遇に擬ふれば、風雨は社會の風潮に譬へる事が出來る。吾々は四圍の境遇に順應する事が必要であると共に、之を切り開いて行かねばならぬ。社會の風潮は深く顧みなければならぬと同時に之に惑はされてはならぬ。要するに、困難と戰ひ之に堪へると云ふのみでなく、奮闘其のものに興味を覺ゆるの概がなければ、決して斯道に歩を進めることは出來ないのであります。

奮闘と用意

次ぎに吾々が此の興味深き旅路に就くには先づ旅裝を整へる必要があります。身輕な裝束が登山に必要である如く、精神の自由を得なければならぬ。我が心が何物からも束縛されぬ眞の自由を得ることで、卽ち眞理に忠實に服從して眞の自由を得るのであります。虛榮心に束縛され、目前の快樂に心を奪はれ、前途を忘れるものは既に自由を失ひ、心のまゝに路に進むことが出來ぬのであります。

今一つ忘る可からざることは血氣の勇に任せて盲進することを戒しめねばならぬ。卽ち一歩一歩急がず、焦らず、徐々に其の足を運ぶのであります。登山に經驗なきものが往々にして中途にて力竭き望み果てゝ其の志を碎き、落膽して引き返すのは此の戒しめを忘れるより起るのであります。經驗を積める人は決して急がない。けれども決して歩みを止めない。一歩一歩嶮を冒し、危きを踏むも決して落膽しない。其の志を碎かない。其の結果は所謂暴虎馮河の勢で駈け上る人の如く中道にして仆れる憂ひがないのであります。

之は卽ち嶮路の困難を豫期して困難を困難とせず、辛苦を辛苦と思はない、否寧ろ之と戰ふことを以て快とする、奮闘の興味を味ふことを得た所の結果であります。卽ち奮闘の興味は實にあらゆる困難に堪へるの覺悟を生じ、又よく頂上を踏み彼岸に達するの確信を與へ、如何なる行路難にも失望せず、落膽せず、其の志を移さずして、一歩一歩高きに向つて進む所の最大動機であり最大祕訣であると云ふことが出來るのであります。

（「家庭」第一卷第三號）明治四十二年六月

「家庭週報」と「家庭」との合併の理由

回顧すればもう五年の昔になる。明治三十七年三月我が校の

第一回卒業生が前途に大なる希望を抱き、然しながら大なる恐怖を抱いて、將に世の首途に向はうとするに當つて、三年の間喜憂を共にして漸くにして育てあげた母校の校風を慕ひ、たとへ東西に離散しても互に姉妹の關係を保ち、母校の精神を常に呼吸して、永久に向上して止まぬものとなりたい、その携はる職務は或は教育に、或は社會の事業に、或は家庭の中に、千差萬別であらうが、其の抱持する主義と、到達せんとする理想とは只一つでありたいと、かくして櫻楓會といふ團體が結ばれた。就てはその團體の空氣を何によつて傳へようか、會員互の脈搏は何によつてつながうか、併せてこの會の精神、主義を何によつて世間に紹介しようか。種々考へた末、終に一つの機關新聞が生れた。これぞこの家庭週報であつた。家庭週報は實に我が櫻楓會員の最愛なる初子である。

この初子は初めは謄寫版の極めて貧しきものであつて、僅に校内の記事を記して會員の中に頒たれて居つた。やう〳〵印刷に附して家庭週報と名づけ隔週に發行するやうになつたのは、その年の六月廿五日であつた。然しその編輯の任に當つた者は年若き會員であつて、もとより何の經驗があるのでもなかつたが、爲しつゝ學ぶ主義を以て進み、多くの失敗もあつたが、二年の後には隔週刊行を改めて名の如く週報とし、爾來五年この週報は母校及び櫻楓會の爲に忠實に其の任務を盡してくれた。而して今日は同誌經營上にも一進境を見るに至り、經濟の基礎も確立するに至つた。もしそれ同誌の必要を問うたならば、多々益々多きを加ふるに至つた事は、何人も同じく感ずる所であらう。

然るに突如として今日家庭と家庭週報との合併の議が成立した。家庭は去る四月女子大學講義刊行に際して、其の機關ともなり、また一般の家庭に高尚なる讀物の缺乏して居る今日、その需要に應ぜんとして起つたものであつて、同じく櫻楓會の經營にかゝるものではあるが、家庭週報とはその歴史を異にして居る。而してこれは週刊、彼は月刊である。兩者が合併するとは云ふものゝ此の度は家庭といふ月刊の體裁を以て表れ出づるので、形の上からは週報が一時中絶の姿となるのである。經營上にも不都合なく、必要も大なる週報を中絶してまでも、何故に合併の必要があるのであらうか。之には三つの要件があるからである。

第一は週報を廢めるのではなく擴張するのである。週報の初めの意志を貫徹せんが爲の最もよい方法である。即ち週報も櫻楓會員計りの讀物たるに止まらずして、其の主義精神の存する所を成る可く廣く世間に知つて貰ふ爲に今少しく一般的になら

ねばならぬ必要がある。これには今迄のやう單に週報を堅く守り、家庭は家庭で別に經營すると云ふ樣に、多くもない力を二つに殺ぐ事は不得策である。

第二は折角大學擴張運動として起つた女子大學講義、及び家庭を今一層普及し、且有効ならしむるには、やはり今暫く櫻楓會員の全力を注いで、其の働きに堪ふるものとしなければならぬ。而して婦人の世界を開拓し、一般の家庭と家庭とが一つの大なる有機體となり得るやうに、婦人自身が經營して、十分同情ある婦人の友とならなければならぬ。

第三には婦人の世界を開拓する爲に、其の指導者たり、伴侶者たるものは、印刷物となつて表るゝ事が最も有効である。即ち女子の仕事は内で執る事が多いから、内にあつて勉强し得る工夫が必要である。それには新聞雜誌書籍等の印刷物によつて學ばなければならぬ。櫻楓會が今日家庭と家庭週報との二つのものを一つにする事は、今後大いに女子の進歩に必要なる出版事業の爲に力を出さしむる潛勢力を蓄ふる事になるのである。

かくの如く家庭と家庭週報との合併は、櫻楓會の出版事業の第二の發展を遂ぐる爲にするのである。もう一層大なる抱負を以て、新しき第二の階段に昇る爲にするのである。やがて七月この週報が家庭の裝ひを以て、再び讀者諸氏に見ゆるの日を俟たれんことを希望する。

（「家庭週報」第百九十號）明治四十二年六月

大學擴張實現に就いての相談

今日お話する事は六ケ敷い原理ではなく、又將來の大計畫でもない。寧ろ今日迄立てた計畫の實行に就いて、具體的に御相談し我々の決心を愈々實にあらはさうとするのである。即ち我々が以前から最も深く考へて居る所の、我が國目下の急務に應じ、大學擴張の計畫を實現して婦人の境遇を開き、實力を與へて我が國力を二倍にすると言ふ事は、如何なる順序、方法に依つて達し得べきであるか。之に就いて、丁度我々の力相當であらうと思ふ計畫を立てたのであるから、皆さんが悉く之を直ちに實行する事は六ケ敷いかも知れないが、其の中の或部分は、慥に今日から着手する事が出來るであらうと信ずるのである。

前に私は大學擴張の働きを三ツの要素に分け、其の各要素に就いて大體をお話して置いた。三ツの要素とは第一經濟的要素、第二教育的要素、第三精神的要素である。今日は此の大學擴張の計畫を土臺として之を直ちに實行に現す方法順序に就い

て、御相談したいと思ふのである。

經濟的方面を如何に開拓すべきか

經濟と言ふ事は、昔は、士君子の口にするさへも潔しとせぬ事であつた。「武士は食はねど高楊枝」と云つて、武士道を修むるものは經濟に疎くなければならぬ、武士道と經濟或は德と實業とは全く兩立の出來ぬものと考へ、實業に從事するものは百姓町人と云つて悉く輕蔑した。之は獨り我が國のみでなく、東洋西洋の諸國に於ても、中世紀頃までは矢張り生產事業に從事するものを賤しめ、僧侶、貴族、武士、學者等を人間の理想とした事もあつたが、然し、爾う云ふ時代は既にすぎ去つたのである。今日の世界の大勢は、一般に凡ての方面の事が事實に重きを置き、經濟と伴つて進まなければ、十分に其の價値を現す事が出來ない樣になつたのである。卽ち一言で云へば、武力時代、迷信時代、空想の時代はすぎ去つて、今日は實理時代、工業時代となつたのである。今日世界の文明國の國力を計る標準は、其の國の武力ではなくして、商工業の狀況であり、生產の力である。近代列强が密かに軍備擴張に腐心して居るのは、武力を以て國威を揚ぐる爲ではなくして、之を以て通商貿易、殖民を保護し、商工業の發達を計る手段に外ならぬのである。故に商工業の盛衰は、今日にあつては直ちに國家の興廢であると言ふ事は世界の大勢に目を注いで居る人々の等しく認める所である。

我が國の禍根は何ぞや

我が將來の國運も、亦此の商工業の發達如何に依る事は、今申した世界の大勢から推して爭ふ事の出來ぬ事實であるが、我が國目下の產業の發達を顧み、經濟狀態を考へると、我が國民は今日實に非常な危機に臨んで居ると云ふ事を自覺せざるを得ないのである。斯う云ふ事に、我が國民がもう少し深い注意を拂ふ爲に、私は本年四月、第六回卒業式の席上に於て、北米合衆國は過去五十年間我が國の友邦として、常に開發指導の親切なる態度を示して來たのであるが、今日は既に其の態度を改め、我が國に對して競爭者の位置に立つ樣になつたと云ふ事を申した。

之は國力の發展に伴ふ自然の運命であり、又我が國民が非常なる努力に依つて得た地位であるから、少しも悲しむべき事ではないのであるが、然し公平に彼我の國力を比較して見るならば、實に大なる困難を感ぜざるを得ないのである。

今日北米合衆國の富は三千億と算せられ、其の上に每年百億

の富を加へつゝある。之に對する我が國の富は二百億で、十分の一にも當らないのである。夫れのみならず、此の頃現れる種々の事實を綜合して考へる時、北米合衆國は今後二十年に於て東洋の天地に大飛躍を試みんとし、今や其の準備に忙しいのである。彼等の計畫に依れば、今後二十年に於て米國の人口は一億幾千萬に達し富力は六千億に達すべき見込みである。我が國は今後二十年の間に如何なる努力をしても二十五億の國債を償還し、其の上に猶二十五億の新財源を見出す事が出來なければ國家を維持して行く事は出來ない。之を一年に割り當てると、毎年二億五千萬の富を作り出さなければ、我が國は何時迄も危機を脱する事が出來ないのである。而して我が國の富を作る主要な働きである所の通商貿易は今日如何なる狀態であるかと言ふと、近年でも一年一億以上の輸出超過は六ケ敷い。否、稍々もすると輸入超過に傾いて來ると言ふ有樣である。此の現狀に於て毎年二億五千の新財源を開拓する事は、實に非常なる困難であると言はなければならぬ。我々は果して此の商工業の戰爭に勝算が立つであらうか。二十年間に勝算が立たないとすれば、我が國の將來は如何なる運命に陷るであらうか。我々は如何なる困難があつても我が國を、此の商工業の戰爭の優勝者としなければならぬ。大いに國民の經濟的品性を進めて此の壓迫に克たなければならぬ。之は免れる事の出來ぬ我々國民の責任である。

數年前我が國民が日露戰爭を開始したのは矢張り此の已むを得ざる奮起に出たのである。我が國と露國との戰鬪力は日露戰爭當時に於ては大差がなかつたのであるが、時期を遷延させるならば我に利はない、今後幾年かの後には到底勝算が立たぬであらうと言ふ事を悟つて、已むを得ず非常な大決心をした爲に勝利を收め得たのである。此の干戈の戰に於ては我が國民は實に善く一致團結して旺んなる忠君愛國の心を現し、犧牲の精神を以て國難と戰つたのである。然し今日の商工業の戰に於ける我が國民の態度は果して如何であらうか。國家の利益公共の利益を犧牲にしても、私腹を肥し職權を濫用して私慾を逞しうせんとするものが實に少くはないのである。干戈の戰に於て、忠勇無比であつた我が國民は、平和の戰爭に於ては實に不忠不義であり、臆病であるものが多いのである。日露戰爭當時に於ては、我が國民は老若男女の區別なく、全力を捧げ協力して戰つたのである。本校の學生も或は寄附金をなし、或は繃帶を作つて夫れ相當の働きを致したのである。然し今日は夫れよりも一層危急な場合である。婦人と雖も安逸を貪つて居るべき時ではない。殊に高等の教育を受け一個の國民たる資格を養つて幾分

我が國民の指導者とならなければならぬ責任を負うて居るあなた方は、今日如何なる態度を執るべきであるか、我が國のために如何なる働きをなすべきであるかと云ふ事を、深くお考へにならなければならぬのである。

今申した事で我が國の經濟狀態は略々お解りになつたかと思ふ。そこで次ぎに我々と最も密接の關係を有する小國家、卽ち學生及び卒業生の櫻楓會員、並びに其の他の關係者、敎職員から成り立つて居るあなた方の母校の狀態は如何であるか。あなた方櫻楓會員は我々の相續者として、將來は此の小國家を動かして行かねばならぬと言ふ責任を深く感じておいでになるのであるが、丁度之は我々日本國民が、我が將來の國運を開く爲に我が國經濟の現狀を知らなければならぬのと同じ樣に、此の小國家の國民として出來るだけ深く學んでお置きになる事が必要であらうと思ふのである。

我々は以前から我が國の敎育の根本を改め國民の元氣を旺盛ならしむるにはどうしても國民が敎育に興味を感じ、自動的に敎育を興す樣にならなければ本當の敎育は出來ない、國民の一致協力に依つて立派な私立大學が出來なければならぬ。殊に女子大學は我が國情から考へても、先進文明國に於ける女子敎育發達の經驗に鑑みても、民間から興らなければならぬと考へてゐた。然し先日評議員の土倉氏もお話になつた樣に、當時の大阪府知事內海君も、女子敎育の爲に十五萬圓を募る事は我が國情として不可能である、と云はれ、又今日では最も熱心な評議員の一人である澁澤男爵も、我々が力を協せて奔走しても、女子敎育のために夫れ程の大金は却々募れるものではないと申されてゐる。然るに國家社會の必要は益々人心を刺戟し、又我が國の御婦人が、豫想以上に向上心が旺んであつた爲に、最初我々が豫想したよりも、遙かに好結果を見ることが出來たのである。明治卅七年本校が財團法人に組織を改めた時迄に、集つた額は三十二三萬圓であつた。女子敎育の爲に各方面の有力者が一致協力し、非常なる熱心を以て私財を捧げ、自動的に一つの高等敎育の機開を經營して、女子の爲に發展の道を拓いたと云ふ事は我が國に於ては實に稀有な事である。女子敎育に熱心である歐米に於てすらも、誠に例の少い事實であるから、殆ど奇蹟が行はれた如くに深い感動を社會の人心に及ぼしたのである。其の後も段々に女子高等敎育の價値が現れ、本校の主義精神が認められる樣になつて來たので實に深い厚意を以て本校の發展を助けられた方が少くなかつたのである。そこで本校創立の當初から今日迄に集つた額を合計すると、凡そ五十一二萬圓の資產が出來たのである。此の中四十萬圓餘は地所、建物、設

備等になつて居るが、之は其の後地價等も騰貴して居るから今日の價格に換算するならば、大凡七十萬圓程の資產がある事になるのである。殘りの十萬圓は初めは基本金として保管して置く計畫であつたが、其の後已むを得ぬ必要に迫られて敷地を購入し、或は寮舍其の他の設備をした爲に、今日は基金が五萬圓になつて居るのである。然し學校の設備を完全にし、教授に適當の專門家を聘して、益々女子高等教育の進步改善を計つて行くのには、勢ひどうしても多くの費用を要するのである。

今迄我が國に起つた民間の教育事業では、眞に其の價値を認められ、國民一般から信頼され尊敬を受けるに足る所のものが甚だ乏しかつた爲に、私立學校と云へば我が國では多くは營利的のものであるかの如くに想像するのであるが、本校の如く學術研究に必要な設備を整へ、品性修養に適當な境遇を作つて、教授も各方面の人材を集める必要のある所では、到底生徒の授業料位のもので維持し得らるゝものではない。現狀を維持する丈けに、少くとも毎年一萬五千圓以上の補助を要するのである。女子高等師範の如きは、七八十名の卒業生を作る爲に、毎年十四萬圓の補助を政府から仰いで居る。本校は毎年百六十名以上の卒業生を出し、三十幾棟の建物と千餘名の學生とを有して居つて、一萬五千圓の補助を要すると云ふ事は實に已むを得ぬ事である。之だけの補助で維持する事が出來るのは、此の國家の國民が全く私心を挾まず、全體の爲に教育の目的の爲に喜んで力を捧げるからである。斯う云ふ樣に、極く少く見積つても一萬五千圓の補助が必要なのであるから、若し此の上に幾分か宛段々に設備を整へ、發展を計つて行かうと思ふならば、どうしても毎年五六萬圓の補助がなければならぬ。而して此の補助を與へないでも收支相償ふ樣にしようと思ふならば、授業料を今の三倍五倍にしても到底足りる事はないのである。然し今日女子教育の爲に多くの費用を惜しまぬと云ふ事は、我が國に於ては未だ中々考へられて居らぬ事であり、又今日の一般の經濟狀態から考へても、之は困難である。

そこで我が國婦人の爲に、益々女子教育の道を開いて行くのには、どうしても玆に必要な丈けの金がなければならぬ。現在の基金は五萬圓であるから、其の利子は年に三千圓位しか出來ない。然し之丈けの小國家を經營して行くのには、今申した樣に五萬圓の補助を要するのである。只現狀維持上に丈けでも一萬五千圓の補助がなければならぬのである。故に玆に少くとも三十萬圓の基金を作らなければならない。三十萬の基金を持つならば其の利子が一萬八千圓程になるから、兎に角之で毎年どうしても必要な丈けの經費は出るのである。そこで少くとも三

十萬圓の基金を準備して置かなければならぬと云ふ事は、前から考へて居た事であつたが、然し丁度斯う云ふ經濟的恐慌の時に當つて、此の希望を達する事は非常に困難なのである。然しどうしても本校の十年期迄には、之丈けの基金を作り度いと云ふ事を、私は過日評議員會に提出致した所が、評議員方の非常な熱心に依り、大概其の半分程の責仕を持つて下さる事を約せられたのである。夫れで其の外の半分は、他の有志家に計つて作らなければならぬ。然し我々は如何なる努力を致しても十年期迄に三十萬圓と言ふ基金を作る事が出來たならば、之は實に例のない事である。此の女子大學が生れて十年の間に、斯かる元氣が起つたと云ふ事は國家の爲に深く賀すべき事である。

此の小國家の獨立、發展の歴史、將來の運命に就いて考へるならば、我々は其所に深い意味を見出し、大いに責任を感ぜざるを得ないのである。我々の小國家は決して偶然に容易に出來たものではない。多くの愛國者の非常なる熱誠と一致協同の力に依つて出來たものである。我々が此の愛國者の意志を繼ぎ、我が國婦人の爲に益々發展の道を開いて行くのには如何したらよいであらうか、又我が國の危急を救ふ爲に此の際國民として如何なる決心をなすべきであるか、深く考へなければならぬのである。

昨年以來私も之に就いて考へ、どうしても今日の國家の危機を脱する事は男子が奮鬪する丈けでは出來ない、婦人が大いに之を扶けて我が國の現狀を解し、其の危急に應じ得る丈けの教育を授けなければならぬと決心して、大學擴張の計畫を立て、今年の卒業式にも、此の意味のことをお話したのである。二千五百萬の我が國婦人が大いに決心して奮鬪するならば、婦人の力を以て二十年の間に二十五億の國債を償還し、男子が二十五億の新財源を開拓して國家の急を救ふと云ふ事は決して出來ない事ではないのである。將來あなた方は銘々一家を經營する責任のある位置にお立ちになるのであるが、人生は常に幸福のみではない。時には天災に罹り病氣に襲はれる事もあり、財産が傾くと言ふ事もある。斯う云ふ非常な時に當つて、あなた方は女子であるから働かなくとも宜しい、病人は斃れても子女を無智文盲で終らせても、如何する事も出來ない。只男子の力に頼つて徒らに嘆息して居て宜しいであらうか。否斯う云ふ危急な場合には、女子と雖も幼少な子供と雖も全力を捧げて夫を扶け、父を助けて、共に急に應ずると言ふ事は、今迄の我が國の女子と雖もよくした所である。然らば我々は今日國家の急に際して之を救ふ爲に、又我々の小國家である所の母校の爲に深く考へるならば、女子と雖も大いに決心する所がなければなら

ぬ。之は啻に國家の要求に應ずるためのみならず、婦人自身の爲である。之に依つて婦人の仕事を遊戯の域から脱しさせ、眞に精神を鍛錬し、世界の大勢に觸れて、婦人の境遇を開き、精神的自由を得る爲にも、どうしても今日あなた方は奮起しなければならぬのである。そこで之を實行するには、どう云ふ方法に依つて着手したならばよいであらうかと云ふ事が問題になるのである。之に就いて私の考へて居る要點を簡單に申してあなた方と共に研究したいと思ふ。

經濟的教育を吾人の生活に如何に應用すべきか

經濟には積極と消極との二つの方面がある。此の二つの方面は何れを缺いても目的を達する事の出來ぬものである。消極的經濟とは何であるか、外の言葉で云ひ現すならば、勤儉貯蓄である。

勤儉貯蓄と云ふと只金錢を意味する樣であるが、私の申すのは之計りではない。金の貯蓄も必要であるが、此の外知識の貯蓄、時間の貯蓄、精力の貯蓄と云ふ事も、大いに大切である。金の勤儉貯蓄には注意しても斯う云ふ貴重なものを浪費し、少しの貯蓄も持たないで必要に出逢つた時に大いに後悔しても及ばないのである。あなた方が毎日僅の注意をなさるならば、時も金も精力も知識も、之迄よりも少し多く貯蓄する事が出來るであらうと思ふ。例へば茲に我々が毎日一錢宛の浪費を省き、之を貯蓄する事が出來るならば、一年に三圓六十五錢、二年後には七圓三十錢となるのである。千餘人の櫻楓會員が毎日一錢宛儉約をして貯蓄するならば、二年後には一萬二千圓の巨額に上るのである。我々は時は一分から、金は一錢から貯蓄しなければならぬ。此の頃櫻楓會が大いに此の貯蓄の必要を感じて、之を實行し、又他にも奬勵する爲に櫻楓會銀行部に貯蓄の機關を近き將來に於て設け、有機的關係を作つて之を行ふ計畫があると云ふ事であるが、之はよく行つたならば誠によい事であらうと思ふ。

然し茲に、我々の注意しなければならぬ似て非なる勤儉貯蓄がある。之は卽ち吝嗇である。貯蓄の目的は何であるか、浪費を節してもう一層必要な目的の爲に活用するのである。我々の貯蓄の目的、經濟の目的は、何時も修養の爲であり、進歩の爲であり、國家社會の幸福を增進する爲でなければならぬ。斯う云ふ目的を忘れて、道德に外れても、社會の害になる事でも、只自分の金を增す事を目的とするならば、實に利己的になり、吝嗇になつて、其の結果は眞に經濟の目的を達する事が出來ない樣になるのである。

次ぎに積極的經濟とは何であるか。之は勞働であり生産である。即ち茲に我々は積極的に一つの經濟的の働きを始めて行かうと云ふのである。先年櫻楓會は大仕掛のバザーを開催して、一つの經濟的の働きをなさつたのであるが、今私の考へて居る計畫は多少夫れに似て居る所もあるかも知れないが、バザーの樣に一時的のものではない。又茲善の爲にしても差支へないのであるが、終極の目的はつまり婦人に經濟的品性を養はしめ、精神的の自由を與へるのにある。即ち教育と、修養と、經濟と、此の三つの目的を達して、婦人の進歩發達を計る爲である。此の三つの方面を調和して偏する事のない樣に効果を擧げて行く事は隨分六ケ敷い事であるが、然し此の三要素が不平均になるならば、必ず我々は希望する所の効果を得る事がで出來ない。經濟の要素を缺くならば、あなた方の活動は遊戯となり、精神的、教育的の要素に貧しいならば、其の事業は如何に今日盛んであつても、進歩しない。又永續しない。永久の進歩は望まれないのである。之は我々が經濟的品性を養ふのに最も注意すべき所であらうと思ふ。そこで我々は、今日積極的に如何なる働きを始めたなら宜しいであらうか、今私の考へて居る計畫の一部分を申して見ると、

第一は茲に一つの組合組織を作り、分業の働きを盛んにするのである。本校には書籍、雜貨、牧畜、園藝其の他各種の櫻楓會の實業部があり、金融機關としては櫻楓會の銀行部もあり、又寮舍の共同購買組合等があつて、之は丁度組合組織の如きものである。然し何れも未だ芽が出來たと云ふ丈けであるし、又此の外にも未だ各種の方面の働きを有機的に、組合的にして行く必要があるのであるが、兎に角斯う云ふものを土臺にして、もう一層經濟の目的にも、教育の目的にも叶ふ樣に研究して發達させ、此の小國家の内に眞に模範的の組合を作つて、實際に斯う言ふ方面の事を研究して行く事が出來る樣な境遇を作つたならば、追々知識も得られ、經驗も出來て、獨り此の小國家の内のみならず、大いなる國家の上に應用して、遂には全國婦人の働きを有機的にし、將來婦人と雖も、國家經濟に幾分貢献して行く事が出來るであらうと思ふ。

今度五回生の方が共同して、婦人副業の道を開く爲に一つの組合を作り、先づ組合員が幾何かの資本を出して母校の人々を主なる需要者とし、實業部の注文に應じて料理の時用ゐる前掛とか足袋とか、又は手巾の樣なものを作つて居る。夫れから段々と裁縫とか、洗濯とかの分業をも起し、爾う云ふ仕事を一緒に纏めて研究的に致し、斯う言ふ事をもし少し習つて置く必要の人があるならば、指導して實習させると云ふ計畫があると

云ふ事であるが、斯う言ふ所から始めて經驗を積んで行くのも宜しいかと思ふ。然し兎に角我々の目的は茲に一つの確な土臺のある模範的の組合を作り、之を段々成長させて、廣く一般社會の需要に應ずるのみならず、外國の市場にも輸出すると云ふ樣にして、眞に婦人の副業を有効にし、婦人の經濟力を作り、境遇を開いて幾分か我が國家の經濟に貢献するのにある。我が國の婦人は今迄でも隨分働いて居つたのであるが、其の働きが有機的にならない。即ち此の組合の組織がなく、仕事が分業的、研究的になつて居らぬ爲と、もう一つは生産の働きを執る女子は多くは教育のない頭腦のないものであつて適當な指導者がなかつた爲に、婦人の副業には一向に進歩がなく、朝から夜まで努力しても餘り利益がなかつたのである。此の組合の組織、計畫に就いては、あなた方と共にもう一つ詳しく研究して進みたいと思ふ。

第二は手工教育を盛んにする事である。今日歐米の進歩した教育では、此の手工教育を大いに重んじて居る。之に就いては後に教育の方面で申す積りであるが、一言で云ふと、手工教育は只手先の教育ではない、我々の頭腦の中にある抽象的の思想を手指の助けを借りて、或具體的に現す事である。即ち發表の教育である。發表と言ふ事が印象と相俟つて、教育上に缺くべからざる要素である事は、之迄度々申したから茲に繰り返し申す必要はないであらうと思ふ。そこでもう少し詳しく申すならば、裁縫とか、編物、造花、刺繍、或は繪畫、彫刻と云ふ樣なものをもう一層專門的に研究して、各々一つの技術を習得し、之に依つて高尚な趣味思想を現し、又一方には經濟の目的をも達する樣にして行くならば、大なる効果があるであらうと思ふのである。

第三は日常生活に必要なる器具機械の發明である。茲に一々擧げる事は出來ないが、我々の食物にも亦日常用ゐる器具にも衣服にも住居にも多くの改良しなければならぬ點がある。斯う云ふものに就いて科學的に研究して、もう一層便利な經濟な方法を案出して、或は機械器具を發明して廣く販賣するならば、之に依つて利益を得るのみならず、同時に日常生活を益々便利にし、人間の健康を增進し、家庭の無意味な勞働を減じて、家庭改良の實を擧ぐる事が出來るのである。

第四は教育に必要なる、玩具標本の改良である。例へば今日子供に與へて居る玩具には、實に無意味である計りでなく、時には危險な染料等を用ゐて大いに害を及ぼすものもある。之をもう少し教育的に兒童の本性と兒童の心身の發達とを研究して、丁度其の要求に適應し、其の成長發達を助ける樣なものを

案出して製造するならば、一方に經濟の目的を達すると共に教育をも助くる事が出來るのである。之は只一つの例であるが、此の外學校で用ゐる動植物、鑛物等の標本或は家事、衛生等の教授に用ゐる標本等考へたならば其の種類は隨分澤山にあるであらうと思ふ。

第五は農藝の生産である。婦人と農藝とは密接な關係を持つて居る。之迄、我が國の農家の婦人の頭腦が進んで居らなかつた爲に、又一般の婦人が農藝の趣味を解して居らなかつた爲に、大いに農藝の進歩を遲くして居つたと云ふ事は此の前詳しくお話した所である。農藝は又婦人の副業としても誠に適當なものであり、家庭に於て子女に自然に教育を施す爲にも最も好都合な境遇である。櫻楓會は此所に目をつけて牧畜部、園藝部、養鷄部等を開き、又蜜蜂の飼養、養豚等に就いても計畫した事があつたが、何れも研究中で、牛乳の外は未だ校内の需要をも充たす迄にも至らないのである。然し將來益々此の方面に就いて熱心に研究し、經驗を重ねる人が出來たならば實に婦人に適當であり、有望な事業であらうと思ふ。

經濟の方面に就いては、未だ澤山お話致したい事があるが、時がないから只一、二の例を擧げて暗示を與へ、あなた方の自動的の研究を促すのに止めて置く。然し今申した事は決して一時の思ひ付きではなく、長い間研究も致し、我が國の現狀を顧み、世界の大勢を觀察して、如何しても今後あなた方我が國婦人は、斯うなつて行かなければなるまいと、私の信ずる所を大體申したのである。我々は先づ手近の我が小國家、卽ち本校と櫻楓會に此の運動を起し、玆に組織ある團體的の仕事を始めて、段々に其の進歩を計り、着實に證明して進みたいと考へて御相談致したのである。

如何にして我が國教育の改善を計るべきか

今後我が國の教育は如何なつて行かなければならぬであらうか。我々はどうして行かなければならぬのであるか、之は實に大問題である。然し今日の世界の教育の傾向は、先づ其の國家社會の要求に應ずる善良なる國民、市民を養成して、其の國家の危急に應ずると云ふ事に重きを置いて居るのである。それで我が國目下の困難は何であるか、何を以つて我々は、我が國の危急を救ふ事が出來るのであらうか、之は今迄經濟的方面に就いて御話致した如く、一言で申すならば、つまり經濟と云ふ事、卽ち商工業の發達を計るのにある。今日の善良なる國民、武勇なる忠臣は、經濟的品性を備へ、生産力のあるものでなければならぬのである。經濟的品性とは何であるか、卽ち信用の

力、意志の力、科學應用の力、四圍の境遇に順應し得る活動の力である。國民に經濟的品性を養はしめ、生産力ある國民を作る必要は獨り我が國のみではない、世界の文明國は何れも既に此の目的を以て、大いに教育の改善に着手して居るのである。

そこで今日世界の教育が進んで行く方向は何であるか、世界の進歩した教育の傾向を現す標語は何であるかと云ふと、自然教育と、手工教育と、此の二つの言葉を擧げても宜しいかと思ふ。本校では教育上に印象と發表との二方面を重んじて居るが、自然教育は印象の大切なる一要素であり、手工教育は發表の一要素である。手工教育とは初等教育、中等教育に於て施す程度で云ふのであつて、高等教育の程度になれば、之を生産的、經濟的、或は實業的教育と云ふ。卽ち農科大學、商科大學、工科大學、法科大學の如きは其の機關である。此の自然教育と手工教育は、互に密接なる關係を持つて居るものであるから、其の何れを缺いても、眞に教育の價値を現す事は出來ない。寧ろ此の二要素を一緒にして實業的社會的教育、或は科學的教育と云ふ樣な言葉で云ひ表しても宜しいかと思ふ。此の傾向は今日偶然に發生した一時的のものではない。長い間の歷史を持つて、段々に成長發達して來たものである。そこで此の傾向をよく消化する爲に、我々は此の傾向が起つて來た由來に就いて少しく考へて見る必要があらうと思ふ。

世界の教育が實業的社會的傾向となりし由來

今日の世界の教育が實業的社會的傾向を現すに至つた由來、卽ち手工教育、自然教育が重んぜられる樣になつたのは何故であらうかといふと、自然と云ふ言葉は今日澤山用ゐられて居つて、自然の力の如何に偉大であるかと云ふ事は教育にも、文學、科學、哲學、宗教、道德の方面に於ても益々認められて居るのである。此の自然を見出したと云ふ事は、教育にも、宗教、哲學、文學其の外各方面の事に非常に深大なる影響を與へたのである。教育に自然と云ふ事が重んぜられ夫れを研究する樣になつたのは、十七世紀の終り頃からであつて、其の先驅者とも見るべきはルーソー・ペスタロッヂ、フローベル等で、此の運動を教育上の自然的傾向と云ふ。之に丁度反對なものが形式主義、或は啓蒙主義の教育で、卽ち嚴格なる抑壓主義、極端なる干涉主義の教育である。自然的傾向の大要は、教育は兒童の本性に從つて施し、兒童を本位として施さなければならぬ。兒童の教育は自然と云ふ最良の乳母、自然と云ふ最も賢き教育家に任すのが一番宜しい。餘りに干涉して人工的、機械的に兒童を拵へ、其の本性を傷けてはならぬと云ふのである。

此の自然的傾向に土臺を置いてもう一つ研究を進めたものが心理學的傾向である。此の傾向の發達に依つて、始めて教育を兒童の年齡、身體の成長、心理發達の順序に應じて施し、體育も、知育も、德育も、其の時機に適ふ材料を選んで授け、心理學を應用して教授法を研究し、科學的に益々其の進步を計る樣になつた。例を擧げると、兒童期の始めに於ては觀察に重きを置き、話は成可實例を多く引く。夫れから十三四歲、卽ち靑年期になると悟性が追々發達して來るから、理解に重きを置き、壯年時代に近づくに從ひ推理に重きを置くのである。つまり第一期に於ては想像に重きを置き、第二期になれば構成、第三期には推理、豫想に重きを置くと云ふ樣に、心身發達の順序に從つて教育の方法及び材料を選び最も適切な教育を施さんとするのである。

自然的傾向、心理學的傾向に次いで、第三に發達したものを、科學的傾向と云ふ。卽ち實理主義、實用主義の教育である。宇宙の自然的現象を研究して其の法則を見出し、之を人生に應用して、人間及び人間社會を科學的に研究して、其の安寧幸福を增進し、發達を計る事を目的とするのである。此の傾向の實行者が、教授法及び教材に就いて注意した點は、二つに分ける事が出來る。第一は卽ち手段的知識と云ひ、例へば語學、文典、數學等である。第二は實用知識と云ひ、物理、化學、道德、政治、經濟、宗教の如き人生に必要なる知識であつて、第一の手段的知識は卽ち此の實用的知識を得る爲の手段としたのである。此の傾向が起つた爲に如何なる影響があつたかと云ふと、今迄古文學的教育に於て重んぜられた所の希臘語、拉丁語等を廢して、現代に活用されて居る語學を重んじ、實用的知識、卽ち經濟學、政治學、醫學、工學と云ふ樣な、科學的知識が重んぜらるゝ樣になつた。此の傾向の主張者はスペンサー等である。

第四に出來た傾向を社會的傾向と云ふ。之は前に申した自然的傾向、心理學的傾向、科學的傾向等と矛盾するものではなくして、之等の要素を包含して居るものである。然し之迄の傾向と異なつて居る所を述べてみると、自然的傾向、及び心理學的傾向の教育では、個人に重きを置き、個人主義に傾き易いのである。心理學的に云へば、教育は個人發現の徑路であると云ふ事が出來るのである。然し社會學的傾向から云へば、教育は社會を繼續し、發展せしむる過程でなければならぬのである。故に此の社會學的傾向の教育では、國家とか社會とかに大いに重きを置く事となる。そこで此の傾向は最も世界的で、又最も廣い意味の教育である。卽ち教育は獨り學校丈けでは出來るもの

ではない。必ず家庭、社會、宇宙と云ふ樣な周圍の境遇に依つて完全に施されるものである。故に社會の進歩、宇宙の進化は卽ち教育である。教育は社會的、宇宙的にしなければ本當のものは出來ないと云ふのである。然し社會的傾向は前に申した樣に、自然的傾向、心理學的傾向を排斥するものではないから、個人をも大いに認めるのである。つまり人間の個人性と社會性と、個人主義と社會主義との調和をつけて行くものが、此の社會的傾向である。

次ぎに之は第四の社會的傾向の內容に入れて置いても宜しいのであるが、特に注意を促す爲に第五としてお話致すのは、教育上の實業的傾向で、之は武斷的傾向と丁度反對のものである。實業的傾向の第一に强く主張する所は、社會的順應である。此の前人格教育に就いてお話致した時に、教育の目的は四圍の境遇に順應することであると云つた事があるが、此の實業的傾向の重んずる所は、もう一つ廣く社會的、經濟的に、最も早く最も適當に順應し得る性情を養ふ事である。如何となれば、今日の文明の進歩、國家の發展、個人の發達は、多くの人と多くの社會と一致協力する事に依つて出來るのである。換言すれば、國家社會の發展は、個人が速かに、機敏に、又適當に、其の四圍の境遇に順應する力に依るのである。

今迄申し述べた種々の傾向の中に含まれては居るが、特に終りに一つ、大切な要素として擧げて置きたいのは人文教育である。之は人間を人たらしむる事を目的とする教育、卽ち品性の教育、人格の教育である。

本校の教育は今申した各々の要素を調和したものである。我々は人文教育、道德的教育にも重きを置くのであるが、一方に又社會的、實業的要素をも大いに重んじ、校內に種々の機關を置き設備を設けて學校を一つの小社會となし、校風の養成に力を注いで個人の進歩、個性の發揮に努むると共に、一方に於ては此の小社會の進化に力を盡し、學生を此の境遇に順應させて一致協同の力を養はしむる事に努めるのである。卽ち本校は獨り教室內に於て教育を施すのみならず、教室以外の凡ての境遇卽ち家庭も、寮舍も、商業部も、園藝、牧畜部も、校內の自然の風景も、到る所が悉く生きた教育を施す教室となつているのである。今申した事は極く大意丈けであるが、之に暗示を受けて更に深く考へて御覽になるならば、我が國の教育は將來どうなつて行かなければならないのであるか、我々は如何なる主義精神を行つて居るのであるかと云ふ事が略々お解りになるであらうと思ふ。

櫻楓會が今後最も力を注ぐべき教室外の教育

我々は如何したならば最も有効に我が國の教育に改善を加へて行く事が出來るであらうか。此の問題を考へる前に、我々がもう一つ知つて居なければならぬ事は、目下我が國が最も速かに改めなければならない教育の缺點は何であるかと云ふ事である。然し之は前に詳しく御話した事があり、又今日は時が足りないから詳しく申すことを避けるが、我が國今日の教育を以てしては、國家の急を救ふ事は出來ない。世界の商工業の舞臺に立つ勇武の忠臣を作る事は出來ないのである。今後我が國の教育も、政治、宗教、文學、哲學も、世界の潮流から孤立して生存する事は出來ない。常に世界の大勢に注目し、大勢の赴く所を察して之に順應して行くより外はないのである。然し丁度我が國が維新前に、封建制度を以て根を固めてあつた樣に、又鎖國主義が勢力を得て居つた樣に、我が國の今日の教育界にも四十年來養ひ來つた痼疾がある、偏見があるのである。之は如何して治療したら宜しいであらうか。此の宿弊は實に長い間に養はれて來たものであるから、其の病根は實に深く、患部は大きくして容易に之を取り除くことは出來ない。此の偏見を破る爲に、我々は長い間努力奮鬪して居るのであるが、どうも之は非常なる困難で、十年、二十年を以て容易に目的を達する事は望み難いのである。然らば如何したならば宜しいか、私は思ふに、之は最早外に仕方はない、只新要素を投入する事である。澁柿は如何に肥料を與へ枝を直しても矢張り澁い果實がなるのである。然し我々が善い新要素を其所に附けるならば、卽ち甘い柿の枝を其所に接ぐならば甘い柿が出來るであらう。植物改良にしても、人種改良にしても、皆此の方法に依つて出來るのである。教育界に投入する新要素とは何であるか。一言で云へば、今迄我が國では未だ手を着けて居らない方面、卽ち家庭教育、社會教育の方面から働きを始めて行くのである。最早我が國の教育は、教室内のみでは出來なくなつて居る。之は獨り我が國のみではない、歐米各國皆然りである。今後の生きた教育は、教室以外に行はれる所の廣い意味の教育、卽ち此の大學擴張の新運動の如きものである。今後櫻楓會員が、最も力を注いで開拓して行くべき教育は之である。勿論我々は教室内の教育を重んずるのであるが、青年男女の卒業後の教育、及び人間の教育の土臺となる所の家庭教育、又事情の爲に學校へ入る事の出來ぬ人々の教育は大いに大切であり、之は殊に婦人の働きに待つ所が多いのである。故に我々は今後此の方面から着々實を擧げて行く事が最も有効であらうと信ずるのである。

教室外の教育は如何なる方法を以てすべきか

教室外の教育は、如何なる機會に於て如何云ふ方法を以て施したならば宜しいであらうか。之に就いて私の考へて居る所を二三例を引いて御話すると、

第一は本校卒業生の卒業後の進歩を計る事である。櫻楓會の研究は本校學生の卒業後の教育である。家庭部でも、教育部でも、社會部でも、幾つかの專門の部門に分かれて研究しておゐでになるのであるが、將來は益々此の研究を進め、實際に經驗試驗して有力なる材料を集め、研究の結果を研究會、發表會に於て、或は機關雜誌を以て發表して、婦人問題、家庭問題、女子教育、兒童研究の問題、其の他各方面に就いて、適當なる解決を與へ、又之を實行して一般婦人指導の任を幾分でも果さなければならぬ。

第二は一般婦人の教育及び青年女子卒業後の教育である。我が國の女子は學校に居る間は、研究も、修養も、或所迄は進歩するのであるが、一度校門を辭すると忽ち之迄の決心を忘れ、或は鈍らせられて、忽ち退歩し始め、無意味に生命のない生涯を送るものが少くない。之は實に國家の爲痛嘆すべきことである。今年櫻楓會が通信教育會を起し、女子大學講義を發行したのは此の缺點を補ふ爲である。而して今後は此の講義錄の働きを助ける爲に、櫻楓會員と講義錄の會員との會合を開き、講義錄に就いてもう一層深く研究し、或は應用の經驗を交換して、大學の門に入る事の出來ない人の爲にも、之に依つて高等教育を受け、生涯進んで行く道を開く事が出來る樣に致したい。之は先づ近き將來に於て東京市内から始める事が必要であらうと思ふ。

第三は巡回講義及び巡回圖書である。巡回講義は今度大阪と名古屋とに於て愈々開催され、巡回圖書も一部では開始されて居る樣であるが、之等は段々擴張して將來は各地方便宜の地に會員が集つて、自動的にする樣になつたならば、中々効果の多い働きであらうと思ふ。

第四は夏期學校である。只今本校に於て英語、料理、西洋裁縫等の櫻楓會の講習會が開かれて居る。又輕井澤に於ける三年生の夏期寮では、學生が自身で各方面に就いて研究した結果を講演し互に知識の交換に努めて居るが、之等は卽ち夏期學校の土臺であるから、益々發達させて、追々には櫻楓會員の自動的の働きに依つて、種々の必要なる方面に就き、丁度適當な場所に幾ケ所か夏期學校を開いて廣く一般婦人の要求に應じ、愉快に修養に努め、知識を養ひ得る境遇を作る事が出來たならば甚

だ有益であらうと思ふ。

第五は幼稚園である。然し我々が新たに始めようと云ふ幼稚園は、今迄ある幼稚園の様に遊戯室を作り、設備を整へて、其處へ子供を毎日通はせる様な仕組のもの計りではない。勿論斯う云ふやうな幼稚園も必要であらうが、猶此の外に我が國の兒童の爲に未だ開かれてない境遇がある。即ち幼稚園の教室外の兒童の世界をも悉く其の成長發達の爲に適當な境遇としなければならぬ。あなた方が少しく注意して御覽になるならば、あなたの家庭にも、亦近所にも、町の往來にも、田舍の草原にも、澤山の子供が居るであらう。彼等は澤山の質問を持つて居り、少時も靜かにして居られない程の活力を持つて居る。彼等の爲に適當な一種の幼稚園を作り、適當な誘導を與へる事は兒童の母となり姉となる婦人の責任である。教育ある婦人の働きに待つ最も興味ある仕事であらうと思ふ。家庭部の會等でも、時には會員が皆子供を連れておいでになり、其の子供を以て幼稚園を組み立て、適當な指導を與へる事も有益であらうと思ふ。

第六は音樂會或は其の他の高尚なる娯樂慰安を目的とする會を開いて、高尚なる文學、美術、音樂の力に依り、不知、不識の間に人を感化すると云ふ事が必要である。此の外例を擧ぐれば未だ澤山にあるが、大抵お解りになつたであらうと思ふから之位に止めて置く。

今迄申した事を一言で云へば、今後櫻楓會は今迄我が國に開かれて居なかつた教育上必要な境遇を開いて、其處に主義を現して行くのである。幼稚園と云つても其の内容は大いに今迄のものとは異つて居る。つまり今迄の幼稚園以外の幼稚園である。又音樂會等の如きも矢張り爾うである。先づ本校の文藝會、研究會等は其の芽の様なものであるが、之は知つて御居でになる通り、今日行はれて居る娯樂の機關とは大いに其の趣きを異にして居る。此の外講義録でも巡回講義でも、我々は今日の我が國家社會の要求に應じて、丁度夫れに適應する様に新たに計畫し實行して居るのである。之は一々申す迄もなくあなた方は知つてお居でになる事である。そこで櫻楓會員は、今後大いに此の、未だ開かれて居らない教育の世界の開拓に力を注ぎ、會員銘々が、實に品性の高い實力ある熱心を以て全體の爲に働き、社會の進歩の爲に喜んで力を捧げ得る教育家となつて我が國教育の宿弊を除き、偏見に克つて學校と家庭と社會との連絡を計り、我が國家社會の急務に應じ、一致協力して世界の潮流を善に導き、眞に導いて行く能力ある所の國民を作らなければならないのである。

精神力の發現を如何にして計るべきか

今我々は經濟の方面、教育の方面を開いて行くのに就いて其の實行の方法を研究したのであるが、此の教育の價値を現し、又經濟的の競爭に勝つと言ふ事は畢竟何の爲にするのであるか、其の終極の目的は何であるかと言ふと、一言で言へば我々の力を發現する爲である。即ち貯蓄生產の働きに依り、教育の力に依つて周圍の境遇を開拓し、精神力を發現し、理想を實現する爲に外ならぬのであつて、玆に於て經濟の目的も、教育の目的も、修養の目的も一致するのである。

精神力とは何であるか、之を客觀的に見るならば、即ち社會的勢力、團體的勢力或は神、宇宙の力とも言ふべきものである。故に神は主觀的に言へば、我々の精神に現れる力である。此の精神的生命を擴大して、客觀的に見たものを云ひ現す爲に、今迄の宗教家は神と言ふ言葉を用ゐ、近世の科學上では社會的勢力或は團體の力と云ふのである。故に精神的生命、神、或は團體の力、社會的勢力と言ふ樣なものは、ある同一の本體を異つた方面から見たのであつて、其の實質は即ち同じものである。

精神的生命を萎微せしむる病源

之迄我々は精神的生命を求めて大いに努力した事が幾度あつたか解らない。否常に此の生命を熱望して、毎年幾分か宛進んで或所迄は達する事が出來たのであるが、どうも夫れ以上もう一つ深い精神に觸れ、大なる力を得て之迄の標準から脱け出す事が六ケ敷い。之は何故であらうか。我々の精神力の發現を妨げるものは何であらうか。其の原因を究めて夫れを除かなければ我々は希望を滿足させる事は出來ないのである。之は精神上の問題であるが、今お解りになり易いため身體の事に例へてお話したいと思ふ。然し之は、只此喩として言葉を藉りる計りでなく、精神と身體とは實に分つべからざるもので、健全なる精神は多く健全なる身體に宿り、身體の不健全は必ず病的の精神を伴ふものであるから、此の兩方面の關係をつけてお話する事は必要であらうと思ふのである。

若しも我々の身體が病に犯されたならばどうしたらよいであらうか。昔ならば神に祈り、或は迷信的の種々の方法に依つて治療したのであるが、今日我々は、夫れを以て安心する事は出來ない。即ち生理、衛生、醫學其の他の知識を用ゐ、身體の法則、傾向を科學的に研究して始めて確實な治療法を見出し、之

に依つて治療するのである。精神上の問題も之と同じ事であつて、我々は何故希望する所の精神力を充分に發現する事が出來ないのであるか、其の病源は何であるか、之を事實に就いて科學的に研究しなければ、本當の事は解らない。迷信的に信仰を求め、或は只常識で其の方法を考へるだけで、確實な方法を發見する事は出來ないのである。今日は此の詳しい研究を順序立てゝお話する事は時がないから出來ないが、然し今迄に「如何にして確信の基礎を築くべきか」「婦人の境遇開拓に必要な原理に就いて」或は「思考法」等の根本の問題に就いて、我々は何時も研究的の態度を以て、考を進めて來たのであるから、此の態度はあなた方に出來ておいでになるであらうと思ふ。そこで今日は精神力を發現するのに直接必要な實行上の問題に就いて、簡單に私の考を述べ、あなた方と共に研究して進みたいと思ふ。

今から二千年前、キリストは人間の研究に生涯を捧げ、人間の生命を消磨する病源は何であるかを究め、治療法を發見して、人類の救濟に力を盡されたのである。東洋に於ても釋尊は人間を死とか、病とか云ふ樣な苦痛から、如何したならば救ふ事が出來るかと云ふ事を研究するために王宮を出で、妻子を捨てゝ遂に或一つの解決を發明し、人類に光明を與へられたのである。此の外ソクラテース、プラトーン等の希臘の哲學者、東洋では孔子、孟子を始め、其の外多くの哲學者、宗教家が其の生涯を捧げて研究した所は、つまり人間の心身の病源は何であるか、如何したならば此の病を治療して、永久の生命を得る事が出來るか、と云ふ事に外ならぬのである。而して之等の先哲は、人間の精神力を消磨する病源を如何に見出されたかと云ふと、キリスト教では之を本來の罪惡であると言ひ、佛教では前世の宿業と云ふ言葉を以て言ひ現した。即ち今日の心理學上の言葉で云へば病的心理である。人生には果して斯かる本來の罪惡があるのであらうか。人間は生れる前から病に犯されて居つて、此の病を征服する注射を施さなければ本當の健康體になり、眞の幸福を得る事は出來ないのであらうか、之は問題である。それで我々は今日自分の眼を以て社會の狀態を觀察したいと思ふ。

活眼を開いて社會の狀態を見よ

此の觀察は順序として先づ自知から始めなければならぬのであるが、あなた方には之はもうお解りになつて居る事として、今日はもう一つ大きい我、即ち社會の觀察から始める事にしたいと思ふ。

今日我が國の社會の最も恐るべき病は何であるかと言ふと、卽ち經濟的恐慌であると誰でも答へるであらう。此の社會の空氣を吸うて生活して居る各個人は矢張り此の病に感染して經濟的壓迫を受けざるを得ないのである。我が國は二十五億の借財を脊負つて此の恐慌に出逢つたのであるから實に困難は一層であつて、國債利子の支拂ひ、或は必要な事業の經營等の爲に國民は重稅を負擔して居る上に、平和の時には必要のない軍備等の爲にも少からぬ金を費して居るのである。軍備擴張が果して今日必要であるか、軍備は眞に平和の保證の意味であるか、夫れ等は玆に我々が論議せんとする問題ではない。然し今日世界の文明國は爭つて軍備擴張に努めて居る。其の一つの事實を擧げると、英國の海軍は新式舊式の軍艦を合せるならば、二百萬噸に近い戰鬪力を持つて居る上に、猶最新式の軍艦數隻の建造を躊躇せざる意向を示して居る。佛國の海軍は百幾十萬噸、獨逸は七十七萬幾千噸であるが、近來大いに海軍の擴張に力を注ぎ、近き將來に於て、世界一の誇りを長い間占めて居つた所の英國の海軍をも凌駕せんとする勢である。斯く膨大な軍艦或は其の他の軍備の爲、歐洲で每年費される費用は二十五億或は三十億にも上るのである。而して是等の國家は我が國の如き經濟的恐慌を感じて居らないからであるかと云ふと、我が國程酷くはないが、矢張り少からぬ國債を脊負つて居り、國民は重稅の負擔に苦しんで居るのである。斯く世界の文明國が國民の負擔を重くしても莫大な費用を投じて軍備擴張に苦心するのは何故であるかと言ふと、卽ち國防を安全にし、戰爭に備へる爲である。或政治家は之を平和保障の必要品であると言つて居るが、丁度相互の力が平均して居る間はさうかも知れないが、一度勢力の平均を失し、相互の利己心が募るならば、平和の保障品は忽ち平和の破壞に用ゐられて、恐るべき結果を來す事は內外の國情に照らして明らかである。此の外歐米の社會に於ては、富豪、貴族の利己專橫に反抗して起つた所の社會主義、無政府黨、虛無黨等が、何れも極端な行動を恣にして居つて、常に暗鬪が絕えないのである。

近く米國新紙の報ずる所に依れば、歐米の家庭生活の破綻は近來頓に表面に現れる樣になつて來た爲に一層酷くなつた樣に思はれると云ふ事である。其の一事實を擧ぐれば、米國の如きは此の二十年程の間に非常に離婚者の數を增し、各州の報告の割合から推すと、結婚者の十分の一は離婚する樣になるのである。我が國は十年前に於ては四分の一の離婚者を出し、其の多い事は世界で第二位を占めて居つたが、五年前の統計に依れば、少し減じて五分の一になつて居る。斯く社會の細胞である

家庭の破壞される數は今日夥しいのであるが、此の外にも表面だけは保たれて居ても、内實は破綻を生じて居る家庭が實に少くないのである。或人は社會に於ける其の名譽體面を傷つけるのを恐れ、或は宗教の制裁の爲に子の爲に法律に訴へて公然離婚する事が出來ないのであるが、其の眞相を見ると夫妻相互の間に精神的結合は破れて、夫は妻を疑ひ、妻は夫に嫉妬心を抱いて、互に心の中では地獄の苦しみをして居る家庭が、今日と雖も未だ少くはない。否一家の土臺である夫妻の間に精神的結合のある家庭は實に今日に於ても稀であると云はなければならぬのである。

今申した所の二三の事實は何を示して居るのであるか。卽ち人間がまだ〳〵利己的であり我が儘であつて、他愛的、犧牲的の精神が缺乏して居る徵候である。斯くの如き社會に道德はない、精神的の美は現れない、人間の價値は現れないのである。斯かる家庭に育ち、斯くの如き社會の空氣の中に生存する人間が、精神上に、身體上に病を感染するのは又已むを得ぬ事である。之は身體の事で申すならば、丁度其の土地に來る人間を冒し、其の命を奪ふ所の風土病の如きものである。之は人生の風土病である。我々は生れるや否や、此の風土病に冒され、精神の健全なる發達を妨害されて中々滿足する樣な働きが出來ないのである。

風土病の病源は人間自身の中にあり

以上は主に我々の境遇である社會の狀態を觀察したのであるが、もう一つ近い自分自身の態度を反省するならば、果してどうであらうか。我々の身體も時々病に苦しめられて、中々滿足な働きが出來ないのである。之は何が原因であるかと言ふと、黴菌が我々の身體を組織して居る細胞を冒すからである。然しもう一つ深い原因を探つて見ると、此の病源は我々の中に潛んで居るものであると言ふ事が解る。外から黴菌が這入つて來る事が第一の原因ではないのである。黴菌は空中にも、我々の身體にも常に充滿して居るが、氣力が旺盛であり、身體が健全であるならば、假令我々の身體の中へ這入つて來ても爲に細胞を破壞される懼れは餘りない。然し若しも我々が信仰を失ひ、氣力が衰へ、身體の抵抗力が薄弱になり、心中に失望、不平、怨恨、嫉妬の如き惡念が滿ちて居るならば、直ちに病菌は我々の細胞を冒して、破壞の働きを始めるのである。故に我々の周圍の境遇には風土病が勢を逞しうして居る計りでなく、我々自身の中にも其の病源があるのである。否、人生の風土病は、畢竟人間の中から發したものに外ならぬのである。人間は身體に少

しの缺點もない完全な人がない樣に、精神上に於ても、少しも病に冒されて居らないものはない。必ず何かの風土病に罹つて居るのである。我々が精神力を發現し、精神的生命を得たいと思ふならば、先づ此の風土病に克たなければならないのであるが、夫れは如何したならば出來るであらうか。

積極的療法を以て人生の風土病に克て

我々の病氣を治療するのに二つの方法がある。通俗の言葉で現すならば一つは積極的の療法であり、他は消極的療法とも言ふべきものである。消極的療法とは如何なる方法であるか。之は病狀に依つて種々の藥を用ゐ、其の病に冒された局部を檢めて之れを癒すのである。積極的療法は藥も多少用ゐるのであるが、藥より寧ろ全體の榮養に重きを置き、全身の健康を增進して病に克つのである。此の療法では病狀よりも其の病源の探求に意を用ゐ、根本的に病を驅逐せざれば止まないのである。

我々が眞に人生の風土病を癒し、益々心身の健康を增進しようと思ふならば、此の積極的療法を執る事が必要である。精神上の積極的療法は一言を以て現すならば順應と言ふ事である。順應とは他の言葉を以て言へば調和である。我々の凡ての身體の病氣は、身體諸機關の調和である。我々の精神力を減殺するものは我々の主義、理想の不調和、主義と實行の不調和、周圍の關係の不調和である。調和を得た身體を健康體と云ひ、心の調和を幸福、或は平和と云ひ、人と人との調和を愛と云ふ。我々は此の調和を以て愛を以て積極的に人生の風土病に克つのである。人の罪を責め、之を罰する計りで我々は人を教育する事は出來ない。之で好結果は得られないのである。キリストも釋尊も人間に罪惡を自覺させ、改悟させる方法をも執られたが、夫れと共に一方に於ては大いに積極的の態度を以て人を救はれたのである。キリストは、彼の信仰に迫害を加へて遂に十字架上の蠻刑に處した所の人民の爲にも、猶最後迄其の罪を許されん事を祈つた。「敵を愛せよ」と彼は教へたのであるが、只言葉で教へた許りでなく、眞に自ら實行したのである。釋尊は王族に生れて自分は少しも不足のない誠に幸福な境遇であつたが、人生には實に苦痛の多い病者がある事を見、不幸なる死者に逢つて愛憐の心禁じ難く、斯う樣な事が一つの誘因となつて遂に大決心をなし、救世の目的の爲には、近親に背き、王位を捨てる事をも躊躇しなかつたのである。此の犧牲的の愛、献身的の慈悲心が、二千年後の今日、猶キリストや釋尊が生きて居られる所の生命である。「愛は救主なり」と云ふ言葉があるが、我々は此の偉大なる愛の力を以て、調和の態度を以て、凡

ての敵と戰ひ困難に克つのである。然し茲に最も考へなければならぬ事は、我々の愛は常に大なる全體に向つて居り、調和は全體の大調和を目的とするものでなければならぬと云ふ事である。只部分的の愛、全體の調和を目的とするのでなく、一部分の調和を計る事例へば只夫を愛し子を愛し家庭の調和を計ると云ふ事丈けならば、我が國從來の婦人にも出來て居たのである。勿論我々は家族を愛し、家庭の調和を計ると云ふ事も重んずるのであるが、然し今日の婦人は、之丈けでは眞に夫を幸福にし家族の調和を計る事は出來ない。卽ち只自分の夫、我が子、我が家庭の利益幸福と云ふ事丈けでなく、もう一つ大なる國家社會を愛し、全體の調和を目的とし、世界の大勢に順應して行くと云ふ事が出來なければならぬ。若しも我々が全體と云ふ事を忘れ、國家社會に對しての愛を失ひ、全體は不幸にしても只夫の幸福であれば宜しい、國家社會の害になつても自分の子の利益であるならば構はないと云ふ樣になつたならば、果して其の結果は如何であらうか。成程之でも一時は夫妻の間に愛が得られるかも知れない。子供は利益を得るかも知れないが、夫れは實に一時的のものである。斯く全體の目的を忘れ、只部分的愛のみを以て家庭を作るならば早晩其の人の目的と全體の目的との間に矛盾が起り、全體の調和が破壞されるのである。斯う云ふ家庭は最早社會の健全なる細胞ではない。身體に例へて云ふならば、之は丁度癌種の樣な有害物である。斯かる愛は實に災であり、斯かる調和は卽ち全體の破滅の因である。我々は宇宙全體の關係の眞相を見て其の全體の中に我を見出し全體に生きるのである。茲に我々の安心立命があり永遠の生命がある。之が眞の順應であり、精神力の發現である。我々は患者の治療をも決して等閑にしないのであるが、常に最も力を注ぐ所は全體の調和、全體の健康と云ふ事である。此の積極の態度を以て消極の病に克つのである。此の健康なる社會を文明社會と云ひ、或は理想鄕と云ふ。昔の言葉を以て云へば、卽ち天國、極樂である。そこで此の積極的治療の爲に、我々は如何なる方法を執つたならば宜しいであらうか。之に就いて、直ちに實行が出來るであらうと思ふ方法の一、二を具體的に御話すると、

精神力の發現に必要なる方法

第一は精神的の會合である。之は例えば、キリスト教徒ならば、到る所に教會を有し、一週間に一日は必ず精神的の會合を開き、佛教を信ずる人は寺に參り、佛の前に集つて、矢張り精神上の糧を求めるのである。我々の信仰、我々の求める精神的生命は斯く一つの宗教、一つの宗派に屬するものではないが、

我々も亦精神力を益々養つて行かうと思ふならば、矢張り斯かる會合に代るべき精神的の境遇を作つて茲に精神の糧を求め、盡きざる生命の泉を汲んで行かなければならぬ。櫻楓會の支部會、本部ならば市内正會員の會、毎月の准會員の例會等は將來益々斯う云ふ目的を達する爲に開かなければならぬ。我々には一つの宗教上の固定した形式もなく、又一定の教義の束縛もない。我々キリスト教をも佛教をも儒教をも排斥するものではない。否益々其の眞髄を現して行かんとするものである。そこで我々は、丁度斯う云ふ會合の目的を達するに適當な書物を讀み、又音樂、文學、美術等の要素をも、科學、哲學の知識をも丁度適當に加へ、必要なる形式を整へて、我々の精神的生命を成長させる爲に適當なる境遇を作り此所に出席する者は實に眞面目なる態度を以て、親切なる積極的の態度を以て、全體に溫かい高尚なる雰圍氣を作り、互に深い精神上の研究をなし、經驗を交換して其の足らざる所を許し、補つて互に扶け合ふ所の實に溫かい態度を以て人の話を聽き、又自分も打ち開いたる心を以て意見を述べるのである。今後櫻楓會員が到る所に斯う云ふ會合を開き、常に全體の關係を解し、宇宙の精神に觸れて限りなくお進みになる樣に、大いに御互に努力しなければならぬと思ふ。

第二は善き暗示を受けると云ふ事である。暗示とは近頃の科學上の言葉であるが、之を宗教的に云へば即ち信仰である。キリスト、釋尊が人間の暗い心に光明を與へ、惱める人々を多く救はれたのは今日の言葉で云へば善き暗示を人間に與へたのである。之に反して常に惡い暗示を受け卑しい事を考へて居る者は墮落し易く、病氣の事計り考へて居る者は必ず病人になるのである。暗示には自分で自身に與へる暗示もあり、人から受ける暗示、書物から受ける暗示、社會或は四圍の自然から受ける暗示もある。

我々は自分で自身に善き暗示を與へる事が必要である。或人の言葉に「私には時がない、力がない、金がない、同情者がない、好機會がない、併し斯う云ふ事を思つたり、口にしたりしてはならぬ」と云ふ事がある。あなた方は折々時と力さへあれば何でも出來るが、時と力がないと嘆息する事があるが、爾う云ふ事許り考へて居るならば決して時も力も出來るものではない。なに我々は大いに集注して熱心に事をするならば、人が二日かゝる事を一日で、又半日でする事も出來る。常に全體の發展を計り、自分の使命を深く感じて努力するならば研究の道は段々に開け、經驗も積んで、必ず力が出來るのである。時と力は金である。時と力があれば直ちに金は出來るのである。我々

の目前には、毎日好機會が落ちて來る。只注意しないならば、之を逃がす恐れがあるのである。我々には澤山の同情者がある。本校の關係者、千餘名の我が櫻楓會員は唯一時的の感情に依つて同情を持つて居るのではない。我が國家を愛し、主義理想を愛する爲に自然と其の間に同情が現れるのである。如何なる誘惑中傷離間があつても、我々の愛國心を奪ひ、同情を減殺する事は出來ない。卽ち永久的同情に依つて我々は結合して居るのである。斯う考へるならば我々には少しも不滿はないのである。

次に我々は人から、書物から、周圍の境遇から善い暗示を受ける事を重んじなければならぬ。大陸に住む人間が大陸的の氣象を帶び、我が國や英國に海洋的の國民性があるのは、矢張り周圍の自然から受ける暗示が段々に品性になつたのである。又忠臣の門に孝子が出で、或地方或は學校團體から一時に多くの人物が輩出するのは決して偶然ではない。卽ち其の時代は其の社會に善い暗示が働いて居たからである。我々は人から、周圍から、善き暗示を受ける境遇を作り、時々精神上の注射をしなければ、何時も光に滿ち、善意に滿ちて居る事は六ケ敷いのである。

我々は人の惡を知り、他の罪を責める必要は少しもない。常に正しきもの、美しきもの、善きものを探ね、善き暗示を受けて、我々の精神を、希望を以て信仰を以て愛を以て滿たし、全體の健全なる一部として全體の進化を助け、限りなき成長を遂げるのである。私は今年あなた方の奮鬪に依つて人生の風土病を幾分か驅逐し、どうしても今迄我々が脫け出る事の出來なかつた標準から突き進みたいと思ふのである。

婦人の働きは今後有機的分業的に進まざるべからず

今申した樣に、各方面に大學擴張の働きを始めて、我が國婦人の發達を計ると云ふことは、決して我々一人の力で出來る事ではない。多くの人の一致協力に待たなければならぬ事は、勿論であるが、此の一致協同の働きを眞に有効にして行くには、只多くの力を集めたと云ふ事丈けではなく、夫れが能く有機的分業的に働く樣にならなければならぬのである。之は獨り大學擴張の働きに於てのみ其の必要があるのではない。婦人の生活を進步させ、眞に其の働きを有効ならしめるにはどうしても婦人が有機的關係を作り、各自何かの技能を以て、其の分業の一方面に貢獻して行く事が出來なければならぬ。卽ち今後一人の婦人として其の責任を完了して行くのには、只常識を備へて居り、日常の事が出來ると云ふ丈けでなく、其の上に何か特徵を

發揮して居る一つの專門的技能を持つて居るものでなければならぬ。否此の日常の事を完全にして行くには、矢張り專門的の知識が必要である。故に高等教育は獨り教育事業とか、或は社會事業等に生涯を捧げる婦人にのみ必要があるのではない。妻となり、母となる婦人と雖も、將來社會の進歩に後れない家庭を作り、世界の大勢に從つて生涯進歩發展して行かうと思ふならば、矢張り何か一つの專門的技能がなければ其の責任を完うする事は出來ないのである。何故かと言ふと、從來は家庭内の仕事と言へば唯常識を以てすれば事が足り、唯母から教へられた事を毎日生涯繰り返して居つても濟んだのであるが、今日は最早之で主婦の責任を完うする事は出來ない。料理にしても、洗濯にしても、經濟に且其の目的に適ふ樣にするのには深い科學的の知識がなければならぬ。子供にお伽噺を聞かせ子守歌を聞かせるのにも、丁度教育の目的に適ふ樣にするのには、專門的の知識がなければならぬのである。然し人間は凡ての方面に亘つて深い知識を持つ事は到底出來難いのであるから、何か一つ丁度自分の本性に適した方面を選んで、之を深く研究し、有機體の一分子となつて、全體の分業の一つを完うし、人を導き、人を益し、又他の方面に就いては其の專門家の力を假りて責任を完うするのである。故に專門的の技能を得ると云ふ事は、母たり妻たる事と矛盾すべきものではない。否、賢母となり、良妻となるのには、今後は何か專門的の知識があり、同時に又有機體の健全な細胞として、其の分業を完うすると云ふ相互扶持、一致協同の品性が出來て居らなければならないのである。然らば此の品性を養ひ、此の技能を得る事は、何に依つて出來るのであらうかと云ふと、之は教育の力に依るより外はない。高等教育はつまり、此の資格を人間に與へることを目的とするのである。そこで、高等教育には二つの要素がある。即ち高等普通教育と、高等專門教育とである。高等普通教育は、英語の liberal education で、直譯すれば自由教育である。即ち人間を精神上、物質上、習慣上の束縛から救つて眞の自由を與へ、自分を知り、人を知つて、其の關係を完うする事を學ばしむる處の教育である。之は男子にも必要であるが特に女子には大切である。何故ならば、つまりは一個の人として國民として、眞に人格あり實力ある婦人が、賢母となり良妻となるのである。又婦人の生涯の事業の大部分は、人を取り扱ふ事である。主婦となり、母となつた人の最も大切な務めは、人に仕へ、人を育てると云ふ事である。而して之は實に品性の高い、人として眞に價値ある婦人にして、始めて能くし得べき事である。之に就いては我が國でも異論は少いのである。

次ぎに高等專門の教育を女子に與へると云ふ事は、果して女子の天分を完うせしむるものであるかどうか、之に就いては女子の腦力上からも、身體上からも、種々議論があるが、今日は時がない爲、之に就いて詳しい事實を擧げて御話する事は出來ないが、然し女子と雖も、之を受け得る腦力もあり、體力も充分にあると云ふ事は事實に依つて、我々が確かに信じ得る事である。然し我々の云ふ女子の高等專門教育は、女子を機械的にし、學者的にするのではない。一方に女子としての德を養ひ、人間として大切な品性を修養せしむると同時に特性を益々發揮させて、何か一の專門的の知識技能を養はしめ、生涯其の研究を進め、全體の健全なる一細胞となつて家庭の生活を改善し、國家社會の發展に貢献し得る婦人を作ると云ふ事であつて、大學擴張の主眼も矢張り玆にあるのである。

家庭改良と云ふ事も、國力の發展も、社會の進歩も、畢竟其の土臺は人である。全體の爲に喜んで力を捧げる精神と、相應の實力のある人が、一人でもあつたならば、其の方面は必ず段々に拓かれて行くであらう。今迄我が國では家庭に關する仕事例へば衣食住にしても、子女の教育、家庭の消費經濟等でも、多くは女子が直接其の任に當つて來たのであるが、斯樣な事でも之を深く研究し經驗して改良を加へて行く者は多く男子であつて、女子は男子の助力に依り、指導に依つて漸く其の任に耐へて來た樣な狀態であつた。然し婦人の責任、婦人の分業は、矢張り婦人自身が努力し、研究して改善しなければ、到底眞に其の目的を達する事は出來ないのである。そこで將來は婦人が唯常識を持つて居り、日常の事を知つて居ると云ふ丈けでなく、何か一つの知識技能を以て人の爲に、全體の爲に、何か役に立つものとならなければならぬ。例へば或人は衣服の裁縫に就いて深い知識と經驗を積み、又或人は料理を究めて衛生の目的にも經濟の目的にも適ひ、人々の嗜好にも適ふ樣な料理を工夫して、獨り自分の家庭のみならず多くの人に其の利益を分つのである。此の外婦人の發明家、意匠家、農藝家、工藝家等も必要であり、又大學擴張の働きを益々旺んに興して行くのには、婦人の巡回講師、巡回圖書係、組合の指導者、美術家、技藝家、音樂家、著述家、記者、書記、夏期學校の教師等、各種の方面に分業の責任を完うし得る婦人が澤山なければならぬ。今迄も或一、二の方面には專門的の知識經驗を持つて居る婦人もあつたのであるが、婦人の世界が有機的になつて居らない爲、唯之を狹い範圍に應用するに止り、一般に其の利益を分ち、全體の進歩發達を計る事が出來なかつたのである。あなた方は先づ銘々自身が櫻楓會なる有機體の一細胞として誠に健全

であり、又何かの分業を完うして行く事の出來る者となり、自分が先づ起つて追々に夫れを周圍に及ぼし、全國に及ぼす樣にしなければならぬ。あなた方に之が出來ないならば、到底我々の希望が達せられる見込みはないのである。我々は大いに決心して今日から何かの實行に着手し、大學擴張の働きを益々實際に現はして、各方面から婦人の境遇を開拓し、我が國の危急に應じて、婦人と雖も國家社會の進歩に何等かの貢献をなし得る樣にせねばならぬ。

（「櫻楓會通信」第二十四號）明治四十二年七月

我と云ふものゝ研究

過去十年間に於ける女子高等教育の結果如何

今から我々は總がゝりで一つの大論文を作り上げたいと思ひます。此の大論文とは何でありませうか、即ち我が國に於て最初に試みられた女子高等教育の結果を調査して、其の正確なる結果を自覺したいのである。現狀を明らかにし、之に鑑みて第二次の發展を計らんとするのであります。

三十年前我々は女子教育に對して一の要求假定を作りました。之は幸に我が國に於ける有力なる人々の熱心なる賛助を得て、遂に本校の開校を見るに至り、爾來此の要求假定を實際に證明する爲に、今日まで九年の間全力を注いで來たのであります。近く明後年は本校開校第十周年に相當し、本校の第一期も最早剩す所僅であります。故に我々は今日から材料を集めて此の第一期の結論を求めても、決して早過ぎる事はないのであります。否此の結論に鑑みて、我々は次ぎに迎へんとする第二期發展の計畫を立て、其の準備に急がなければならないのであるから、今日此の論文を作らなければ、もはや時機を失する恐れがあるのであります。

此の論文は唯文字や、繪畫等で現されるのみではなくして、直接あなた方の母校の校風となりあなた方の生命である櫻楓會の將來を定めるものである。深く考へれば、我が國の女子の運命に大なる關係を有するものであります。そこで此の大論文を作り、結論をつける事は私一人では出來ない、あなた方櫻楓會員及び本校學生の協力に待たなければならぬのであります。否此の論文の有力な材料はあなた方である。我々の三十年間苦心した要求假定の證明は、あなた方を措いて外に見出す事は出來ないのであります。

之は今日此所に御居でになる會員許りでなく、遠く地方に御

ゐでになる會員も、自分の事として此の際大いに此の問題に就いて考へ、協力して有力なる生きた證明を與へられん事を希望するのであります。

我々が此の現狀を取調べるのには、二つの方面から材料を集めなければならぬ。卽ち內面と、外面とであります。此の兩方面を公平に觀察して判斷を下さなければ本當の事は解らないのでありますが、其の中でも何れを先きにすべきかと云へば、內面の反省を第一にしなければならぬのであります。卽ち果して自分には人格が出來て居るかどうか、自分は卒業後益々生涯の天職と信ずる事に向つて忠實に研究し、働いて居るかどうか。正直に自分の心の聲に耳を傾けて見なければならぬ。第二は外面の觀察である。卽ち自分の負うて居る責任は盡されて居るか。自分の家庭に對し、學校に對し、隣り人に對し、櫻楓會に對し、國家に對して、自分は每日何か有益な働きをして居るかどうか、人と交り、仕事をして行く上に、丁度適當な判斷を下して行く技倆が出來たかどうか、眞面目に考へて見なければならぬ。反省の結果、もしも少しでも不安に思ひ、薄弱だと思ふ點があるならば、我々は今日深く其の原因を追及して、根本的に之を改めなければならぬ。もう一度生れ變るといふ經驗をしなければならぬのであります。

此の間の、三年生及び二年生の告白によると、まだどうも不滿足である、自分達の生涯を捧げなければならぬ所は解つて居り、すべき事も解つて居るが、もう一つそれに感情が加はつて、非常に自分をも人をも動かす樣な力が出ない、燃える樣な信仰を以て每日統一のある生活を續け、境遇に支配されずに生涯境遇に克つて行く事が出來るかどうか、少し不安である、と云ふ事であります。之は何故でありませうか。あなた方は信仰の薄弱、決斷力の不足、知識の不足、實行の不足等種々と其の原因と思はるゝものをお擧げになりました。思ふに夫れは、何れも間違ひではない。しかし其の主な原因となつて居るものは何であるか。我が國の婦人に人格の出來難い、婦人が眞に價値ある生涯を送る事が六ケ敷いのは何故でありませうか。我々は今其の障害の根を深く尋ねて之を除かなければならぬのであります。婦人の病の根本は何であるか、何が出來たならば此の我々を惱ますものに克つ事が出來るであらうか。テニソンは此の問に對して、自知、自制、自重といふ言葉を以て答へて居る。孔子の云はれる自彊と云ふ言葉、それから英語で云ふ自助と云ふ事 self-culture といふ、本校で自修自奮と云ふのも、矢張りテニソンのいはれる所と同じやうな意味であります。之は實に大切な事である。自分を知り、自分を制し、自ら尊ぶ事が

出來るならば必ず人を解し、社會を知り、境遇を支配して行く事も出來るのであります。故に凡ての問題の根柢に共通してゐるものは、自己といふ事である。我々は第一に自己とは何か、自己は如何して行かなければならぬか、自己を全然棄てゝ他の犧牲になるのがよいのであるか、自己の進歩を計つて志を貫くのが善であるか、かう云ふ根本の問題に就いて、誤らざる解決を下して置く事が大切であると思ふのであります。

我とは何であるか

我とは何であるか。之は廣い意味にも、亦自我の眞髓といふ意味にも、考へられるのであります。廣い意味で云ふならば、自我は獨り我々の身體精神のみならず、我々の愛するもの、我々の興味を持つものも、矢張り自我の一部分である。心理學者のゼームスは誠に巧な言葉で、此の關係を云ひ現して居ります。曰く「自我とは彼の物であると云ひ得る凡ての物の總稱である。獨り彼の身體、或は彼の心力のみならず、彼の衣服、彼の妻子、彼の土地、彼の馬車、彼の遊山船、或は銀行の貯蓄金等も、皆含めていふのである。凡て之等のものは、彼に同樣の情緒を與へるのである。之等の物が若し增大し、繁昌するならば、彼自分の勝利を感ずるのであるが、もしも彼の物が衰へ、或は滅亡して仕舞ふならば、彼は必ず失望煩悶を感ずるのである。必ずしも同じ程度ではないけれども、必ず同じ種類の情緒を感ずるに相違ない」と。

そこで人に依り自我の內容に非常な差異がある。ある人は自分の身體の快樂に非常に興味を有し、又は金とか着物とかを大切に思ふのであります。斯う云ふ人の自我は、金や着物にあるのみで、之を孔子は小人と云はれたのであります。

君子或は偉人とも云ふべき人は、彼の身體、財產、着物等よりも、彼の社會、彼の國家、世界の人類を彼のものと考へ、之に對して非常に深大なる興味を有するので、今回不慮の難に遇つて國家の爲に橫死を遂げられた伊藤公爵の如きは、卽ち之であります。常に公爵を支配した考は何であるか、國家の爲、君の爲と云ふこと、東洋の開拓、世界の平和といふことである。此の考を實現する爲に公爵は生涯を擧げて、其の最も興味を感じて居らるゝ政治の方面から非常なる貢獻をせられた事は、あなた方の能く知つておゐでになる所であります。しかし公爵は獨り政治の方面のみならず、凡そ國家の爲、世界の爲に大切であると認められるならば少しも力を惜しまず直接間接、其の事業の發達を助けられたのであつて、我が日本女子大學校の如きも、創立の當初より、公爵の熱心に負ふ所が甚だ多いのであり

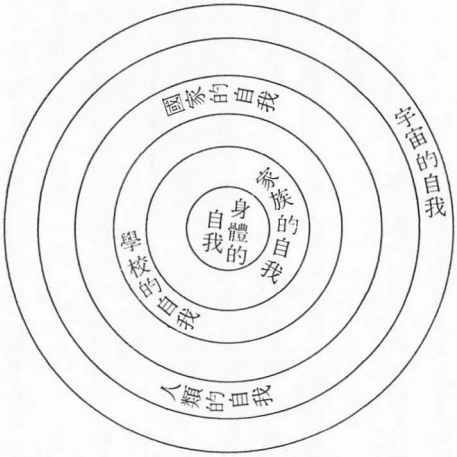
ます。想起すれば廿年前に、私は我が國の將來の爲、女子高等教育の必要を切に感じました時に第一に此の決心を告げて事を計つたのは、時の總理大臣であつた伊藤公でありました。私は最初之を三つの問題として公爵の意見を聞きました。第一は「我が國に於て、女子のために高等教育の道を開く事の急務なるを、公爵は政治家として認めらるゝや否、第二に假令急務なりとするも此の大事業が民間の事業として成立し、發展し得べきや否、第三若しも必要と認めらるゝならば公爵も亦一臂の力を假さるべきや否」と。此の時は丁度公爵は總理大臣として地方の長官を集め、一場の演說を試みられんとする數分時前で、非常に多忙な時であられたにも拘らず、公爵は立所に明らかなる快諾を與へられた「第一の事業を起す事は、我が國の爲に甚だ急務であると認める。第二は我が國は歐米とは異なり家族制であるから、廿萬、卅萬の資產を擧げて、教育の資に投ずると云ふ事は六ケ敷い樣であるが、然し我が國民には忠君愛國の精神が旺んであり、又其の事業の價値が解るならば、其の爲に力を惜しまざる義俠心があるから將來は必ず歐米の大學の如くに、民間の事業として發展して行けるであらうと信ずる。第三自分も國家の爲に出來る丈けの盡力を與へる。但し此の事業は偏してはならぬ、宜しく政黨の念を去り、又政治家も、實業家も、教育家も、一致協力する國家的の事業たらしむべきであるから、時の文相西園寺侯、大隈伯、板垣伯を始め、其の他の有識者に計つて、我が國の爲に成立せしむべし」と。有力なる助言を與へられたのであります。

之は獨り我が女子大學校のみではない、我が國女子教育の發達に、深大なる關係を有する華族女學校の如きも、創立に際しては非常に公爵の盡力を受けたのである。公爵は政治的、國家的の見地から女子教育に對して深き同情を持たれ、國家の爲に之を興されたのであります。卽ち公爵の最も大切に思はれたのは國家と云ふ事、世界の平和と云ふ事であつた。換言すれば公爵の自我は國家的、世界的であつたのであります。

そこで今申しました自我と云ふ事を、もつと明らかにする爲に、之を我々の事に當て篏めて、畫で書き現して見ますならば、（次頁の図參照）

此の小さい自我と、大なる自我との間の障壁を破つて、段々に廣くなり大きい我を作つて行く事が、內面から言へば自我實現と云ふ事である。つまり自我實現とは我が興味、我が同情、我が意志を全體に及ぼさんとする傾向であります。

廣い意味で云ふ事は、之で極く大體お解りになつたかと思ひます、然らば此の自我の眞相、或は眞髓とも云ふべきものは何



であるか、之を少しく哲學的に考へて見る事が必要でありませう。

自我と云ふ者の眞髓は何であるかと考へる時、第一に必然的に感ずるのは、我と云ふものは永續するもの、變らぬものでなければならぬと云ふ事であります。自我の價値、人間の根本の價値は實に此處にあるのである。我々には進歩もあり、退歩もあり、身體も精神も、少しも猶豫なく刻々變つて行きつゝあるが、其の中に一つの變らない所がある。死なないで永遠に生きて行くものがある。之が自我の眞髓とも云ふべきものである。或は之を人格的の同一と云つても宜しいでありませう。若しも自己と云ふものに永續する所がない、全然變つて仕舞ふものならば、人間には將來の計畫はなく、又希望もない。從つて將來の爲に現在に於て努力すると云ふ事もないであらう。例へば我々は小兒の時には身體も小さく、知識も低く誠に弱いものであつたが、段々に成長して青年となり、壯年となつて、種々肉體上にも精神上にも變化して居るが、其の中に一つの一貫して、少しも變らないものがある、之が卽ち眞の自我とも云ふべきものであります。

自我に對する哲學上の解決

此の永久的な自我、場所と時とに依つて變る事のない自我の本質は何であるかと云ふ事に就いては、昔から哲學上に種々の說がたてられてあります。之を大別すれば、自我は精神であると云ふ理想派と、物質であると言ふ實在派との二つになるのであります。

今茲に此の二つの異說を詳しく紹介する事は時が許しませぬから、極く簡單に其の批評を申して置きます。自我は物質である、萬物の根元は原子と云ふ物質である、と云ふ實在派の說は十九世紀の自然科學が證明した假說であるが、今日では其の證

據が薄弱である爲、議論の根據が當に覆らんとして居ります。そこで今日では萬物の根元は物質であると言はずに、力であると言ふ說が認められて居つて、此の力とは何ぞやと云ふ事が廿世紀に於ける科學上の一大研究問題となつて居ります。故に實在派の永久不變の同一物は原子なりと言ふ說は、議論が立たぬ事になつて仕舞つたのであります。

次ぎに理想派に於て、永久不變の同一物であると云ふのは何であるか。獨逸に於けるカント以來の此の派の學者の說を綜合して見ると、一言で現せば目的或は活動といふ言葉を以て、之を說明して居る。此の說が卽ち目的學的活動主義（Teleorogical Energism）であります。

バウルゼン教授の說に依れば、我々の眞の自我、時と所とに依つて變らぬ永久的の同一物とは何であるか、と云ふと、夫れは目的の同一である。人間は目的を立て、理想を抱く事の出來るものである。自我の永續、不朽と云ふ事は、此の目的の永續、理想の不朽と云ふ事であると云つて居ります。此の說は素より完全なものではないが、今日の所では、最も眞に近いものであらうと思はれます。

此の同一と云ふ事は、獨り我々意識あり、目的を自覺せる人間のみならず、萬有卽ち天然物は勿論、人工物なる家屋とか、日用の器具とか、云ふものにも悉く一つの變らないものがあると云ふ事が出來るのであります。然らば何が變らないものであるかと云ふと、其の物を形成して居る材料は、刻々に種々の變化をして居るのであるから、其の材料が永久不變であると云ふ事は出來ない、其の目的が同一なのである。例へば此の眼であります。（と自身の眼を指されて）此の眼は十年前も今日も同じであると申しますが、それは眼を形成して居る物質が十年前と同じと云ふのではない。物質は慥かに異なつて居る、然し物を見ると云ふ目的は十年前も今日も同じであります。此の目的は十年といふ時により、又只今此處に居つても、外國に居つても所に依つて變らぬ同一のものであります。

我々が自然物や、人工物の價値を認めると云ふ事は、此の目的に適ふ性質を認めるのであります。宇宙間の萬物は、凡てある目的に適ふ樣に出來て居ります。此の性が卽ちナチユラル・ローであります。

そこで自我の眞髓は、一言で云へば目的である。自我は主觀的のものであるが、之を客觀化するならば、目的と云ふ事になるのであります。

自我の客觀——目的

今凡ての問題の根元である自我と云ふものを充分に深く考へる爲に、今度は夫れを客觀化して目的と云ふ方面から少し御話する事が必要であらうと思います。確信を得ると云ふ事、自己を知る、自我を確實にすると云ふ事はつまり此の目的を確立するにあるので、人間の價値ある生涯は必ず此の目的と云ふ基礎の上に築かれなければならぬのであります。

我が國の婦人に、生涯盡きない向上心がないのは何故であるか。私は今迄の經驗を反省して、此處である、婦人が自分の目的を自覺する事が出來なかつたからであると思ふのであります。自己と云ふものは解りました、又目的も解つて居りますがどうも夫れを實行する勇氣が出ない、或は今日の信仰を以て、生涯不幸にも幸福にも、變らず一つの目的に向つて集注する事が出來るかどうか、自分乍ら不安心に思ふ、と云ふ樣な事は思ひ違ひであります。夫れは未だ本當に自分が解らない、目的が立たないのであります。自分は何であるか、何の爲に生くべきであるか、斯う云う事が本當に解るならば、夫れは必ず熱烈なる要求假定となつて實行を伴ふものである。假令人が反對しても、如何なる境遇の困難があつても、如何にかして境遇に克つて、目的を貫ぬかざるを得ないのであります。

此の本當に解る、生きた信仰になる、と云ふ事は、只頭腦で考へたり或は讀んだり、聞いた丈けで出來るものではない。實行の努力が加はらなければならぬのであります。然し實行と云ふ事は、矢張り頭腦が解らなければ出來ない。頭腦が解つた丈けでは駄目であるが、頭腦で解る事は大切である。本當に解つて居らないでも、或は頭腦が出來て居らなく共、部分的の善行は習慣により、或は本性の傾向に依つて行ふ事が出來るかも知れないが、複雜な社會に立つて生涯一つの目的に向つて進み、日々統一ある生活をすると云ふ樣な眞に價値のある行爲は、深い思想と眞面目なる實行の努力とに依らなければ到底出來ないのであります。

此の目的の明らかに解つて居る事と否とに依つて、人間の生活にも、事業にも、如何に大いなる差違を生ずるか、蓋し計り難きものがあります。目的のある生活は計畫があり、統一があり、先見がある動的の生活で、其の生涯は一歩々々理想に近づいて行くのであります。之に反して目的のない生活は衝動的、部分的で、統一なく、計畫なく、同じ事を本能的に繰返して居る靜的の生活であります。我々に非常に力が出て、一階段の進歩を遂げた時は如何なる時であつたかと云ふと、目的を明らかに認めて少しも迷はず、熱心に集注した時であります。我々の滿足は此の目的を貫く處にある。人間の價値は此處に見出され

るのであります。

大目的と小目的

目的を定めて一貫した生活を送る事の價値は、今申した通りでありますが、茲にもう一つ考へて置かなければならぬであらうと思ふ事は、家庭を持ち第二の國民の教養に全力を盡して行かなければならぬ婦人に、銘々の目的を貫くと云ふ事が出來るか如何かと云ふ事であります。

婦人が人として、國民としての義務を盡す爲に、今迄の樣に家庭に這入るならば孤立して仕舞ふと云ふ事でなく、國家社會と共に進み、全體に連なつて分業的に何か一つの役目を全うして行く、つまり婦人も生涯を捧ぐべき目的をたて、目的を貫く事が必要であります。然し又一方には婦人として家庭を治め、第二の國民たるべき子女を養育すると云ふ天職がありますが、家庭を持つならば目的の爲に全力を注ぐ事が出來ない、目的を貫かうとするならば、家庭の爲に盡す事は六ケ敷い、そこで家庭を犧牲にすべきであるか、目的を棄つべきかと云ふ事が問題になるかも知れぬ、之が卽ち從來の婦人が目的と云ふ事を誤解して、男子は目的を以て進む事が出來るが、家庭を持つ婦人は目的をたてる事は出來ないと思つた原因であらうと思ひます。

我々は此處で目的と手段、或は大目的と小目的と申しても宜しい、其の區別を明らかにする事が必要である。大目的、眞の目的とも云ふべきものは、只物質、或は科學、文學と云ふ樣なものではない。之等は一方から云へば、目的を達する爲の手段であります。或は最終の目的、大目的に對して、之を小目的と申しても宜しいかと思ひます。然らば斯う云ふ事は手段であり、小目的であるから、どうなつても宜しいと云ふのであらうか。決してさうではない。手段を誤るならば失敗に失敗を重ねる計りで、生涯目的を達する事は出來ない。故に目的の爲に、大いに愼重に手段を考へなければならぬのであります。

家庭を持つ、第二の國民たるべき子女を養育すると云ふ事は、慥かに御婦人の大いなる目的であります。然し婦人が銘々に相當した目的をたてゝ進む、何かの分業を受持つ、專門家になると云ふ事は決して家庭生活を害するものではないのであります。我々の希望する專門家と云ふ意味は、偏した人ではない。專門家とは人生に必要な知識技能の或一方面を、普通より深く研究して何か一つの分業を全うして居る人であります。必ずしも學者、技術家、教育家、或は又何々家と云はれる人許りではない。育兒でも、家政でも、料理でも、裁縫でも、簿記でも、何か一つの方面に於て、組織的の深い知識を持ち、且興味

を持つて生涯之を研究し應用して、自分の頭腦を新たにし、人格を進め、之に依つて何か人の爲、社會の爲を計る事が出來るならば、之卽ち一分業を全うするもので、矢張り立派な專門家であります。

婦人が家庭の爲に働くと同時に、何か一つの分業を全うして、社會と共に進んで行くと云ふ事は非常に六ケ敷いのでありますが、不可能ではないのである。ミセスガボット（十餘年の間青年教育の爲に身を捧げ、妻としては立派に家庭を治め、又有益なる著者であつた所の）は「女子にも目的がなければならぬ、女子も亦目的の爲に生きる事が出來る」と云つて居る。時があるならば、我々は此の人の外に多くの實例を擧げる事が出來るのであります。

婦人は唯人に依賴して居ればよいと云ふ時代は既に過ぎ去つたのである。之からは婦人も亦目的を持つて、何か一つの分業を持ち、生涯新しい知識を養つて何處かで社會の進歩に貢献して行かなければ、家庭へ這入ると忽ち進歩が止まつて了ふのであります。結婚した時は夫と同じ思想であつても、三年五年の間目的を忘れて只機械的に家事をとつて居るならば、段々に頭腦が遲れて、夫の理想も、行爲の意味も解らない、進んだ新しい教育を受けた子女の心も解する事が出來ない憐れな母となつて仕舞ふのであります。斯かる婦人が夫のよき助力者であり、第二の國民の教道者となる事が出來るかどうか、夫を感化し、家庭を改善する事が出來るかどうか、勿論夫れは望むべからざる事であります。

婦人が目的を貫くと云ふ事が、家庭と衝突するものではない、却つて家庭生活を進める爲に必要であるのと同時に、婦人が目的を貫く爲にも、家庭の爲に盡すと云ふ事は大切である。衣食住、兒童教育、道德、其の他家庭に關する研究が、實際の家庭生活に於て試みられなければならぬのは勿論でありますが、文學、美術、其の他科學、宗教等でも、家庭を持つために、目的を貫く事が出來ないと云ふ場合は、餘りないのであります。

然し此處に少數の例外を考へるならば、個人の目的と家庭に對する責任と衝突する場合があるかも知れない。例へば日露戰爭に於ける廣瀨中佐の如きは、軍人としての目的を貫く爲に、我が子孫、我が家庭と云ふ樣なものも犧牲としなければならなかつたのであります。之と同じ事實ではないが、婦人にも斯う云ふ例は少くないのであります。我々が何か一つの目的を貫かうと思ふならば、必ず多大の犧牲と、努力とを拂はなければならぬ。獨り家庭のみではない、自分の凡ての欲望をも、生命を

も、犧牲としなければならぬ場合があります。斯う云ふ場合には何を目的とし、何を犧牲とすべきであるか、之は人間の大目的を考へ、又其の人の境遇により、才能により、社會の要求に依つて深く考へ、明らかなる理性と、先見の明と、正當なる決斷力とに依つて定むべきものであつて、一言を以て律する事は出來ないのであります。

然しつまり家庭の爲に働くと云ふ事も、家庭を犧牲にし、自己を犧牲にして、一つの目的を貫くと云ふ事も、終極の目的は一つである。然らば其の終極の目的は何であるかと云ふ事が問題となるであらうと思ひます。

人生終極の目的は何であるか

大目的、即ち人生終極の目的は、個人の目的も、國家社會の目的も、宇宙の目的も調和統一したものである。個人の目的も、宇宙の目的も、決して矛盾するものではない。必ず合致する所があるのであります。此處に全體の調和があり、我々の生活の價値があるのであります。

もう少し詳しく云へば、第一に大目的は內面から云ふと自我である。我が愛、我が興味、我が同情を調和統一した理想であります。之を外面から云へば、我々の愛するもの、大切に思ふもの、即ち我が君、我が親、我、我が家庭、我々の學校、我々の櫻楓會、國家、斯う云ふものを一つに統一したものであります。第二に目的は自動的意志であると云つても宜しい、即ちカントの云ふ自ら選擇し、自ら向ふ所の動機であります。第三に目的とは自他の融合であります。即ち强き愛に依つて自他の區別を除き去つたもの、他の人、或は團體、國家、社會を我に化したものであります。人間は此の目的に依つて、自己と他の人を同一に化する事が出來て、人間の弱點である嫉妬とか、憎惡とか云ふ樣な反感を悉く消滅させ、眞に人の善を喜び、平和を地に現す事が出來るのである。有限の身を以て、無限に生きる事が出來るのであります。言葉を換へて云へば、目的は個人と普遍體が一つになつたもの、又は一つにならうとする自動的意志であります。個人は其の有限の中に、無限を宿さうとして努力して居る。即ち自己を完成し、全體を完成せんとして居る。無限の完成を目的として居るのであります。

此の目的と云ふ事を、我が國では昔から如何云ふ樣に考へて居つたでありませうか。我が國の道德の標準、大和魂の眞髓は、一言で現せば忠孝と云ふ事であります。勅語には、克ク忠ニ克ク孝ニと云ふ御言葉がありますが、忠と云ふ言葉の意味を廣く解すれば、孝と云ふ事も、朋友に信と云ふ事も、夫婦相和

しと云ふ事も、凡て含んで居るのであります。忠とは何であるか。目的に對して二心がない、全身全力を目的の爲に捧げると云ふ事であります。我が國の主權者で在らせらるゝ　天皇陛下の聖旨を遵奉し　陛下の赤子なる國民の爲に、國家の爲に、目的を貫くと云ふ事であります。我が國の忠臣、孝子、節婦と云ふ樣な人は、生涯目的に仕へた人であります。

過渡時代に於ける行爲の標準

此の忠と云ふ事、目的の爲に仕へると云ふ事を忘れるならば、今日我々の依るべき道はないのである。之迄の舊道德では、傳說的の風俗習慣に從ふ事が善でありました。今日でも舊道德の眞髓はすたれないが、其の形式は變つて居る。萬般の文物が變つたのであります。道德獨り變らざるを得ないのであります。斯く舊道德は權威を失ひ、新道德は未だ建設せられない時に當つて、我々は如何なる標準に從ふべきであるかと云ふと、卽ち目的と云ふ事である。目的に適ふ行爲は善であり、目的に不忠なる行爲は罪である、惡であります。ミセスガボットの云うた言葉に、「人間の眞の價値は何か、人間の目的に適ふ事である。故に其の人の目的を知らざれば其の人の價値を計る事は出來ない。如何となれば、或人の價値、或人の善は、其の行ひが目的に一致するや否やに依つて定まるのである。」と云ふ事があります。之は獨り人間のみではない。萬物は目的に適ふか、適はないかと云ふ事に依つて價値が定まるのは如何なものであるか。人間には自身に目的がありますが、人工物には自身の目的はない。そこで之を作つた人間の目的に適つて居るか、如何かと云ふ事が標準になる、そこで最良の飛行機とは、空中を飛行すると云ふ目的に、最も適當して居る飛行機であります。

斯く人間の價値も、萬物の價値も、悉く其の目的に適ふや否やを標準として、評價すべきものでありますから、假令或る行爲は、其の一つの行爲としては、善き動機から出た事であつても、夫れが目的に適はぬものならば惡であります。故に我々が目的を忘れるならば、之は中心を失つたのである。統一點を忘れたのであるから、假令如何に努力しても、其の人の行爲は片々たるものとなり、矛盾したものとなり、其の生涯には一貫したものはなく、何等の價値も認める事が出來ないのであります。

そこで我々は、一言で言へば無限の完備とも云ふべき大目的に仕へる爲に、銘々に何か適當した役目、卽ち小目的を選んで目的の爲に自重し、人を愛し、人と結び、互に相扶けて、常に

新しい人格を生み、國家社會の進歩發展を生む母とならなければならぬ。我々は此の目的の爲に樂しみ、此の目的の爲に苦しみ、此の目的の爲に生きるのでなければならぬのであります。我々の眞の自己は何であるか、我々は何の爲に生きて居るか、昨日も今日も、我々の生活は目的に適つて居るか如何か、明日は目的の爲に何をする事が最も大切であるか、我々は今日此の問題に就いて大いに考へなければならぬ、同時に我々の一部分である我々の母校、我々の櫻楓會、我々の國家は果して目的に適つて居るか如何か。どうしたならば目的に適ふのであらうか、此の際深く考へて、もし改むべき所があるならば直ちに改め、新しい決心、新しい計畫を以て進みたいと思ふのであります。

明治四十二年十一月

故伊藤公爵を悼み其の生涯を懷ふ

今日は我々日本國民にとつて誠に感銘の深い日であります。伊藤公爵は我が國の爲に最も功勞の多い元勳であつたのみならず、世界の政治家として認められて居た人である。今日國民が心を一つにし、國葬を以て此の國家の恩人を葬つた日に當り、我々は日本國民として弔意を表すべきは勿論でありますが、殊に公爵は我が日本女子大學校設立の爲に深き同情と、有力なる援助を與へられました關係に依つて、我々が玆に哀悼の意を表するのは當然の事であるのみならず、此の際公爵の生涯に就いて深い意味を考へて置く事は、我が校風を養ふ爲にも至極大切の事であらうと考へます。

我々が公爵の訃音に接したのは、前週の水曜日でありました。其の日我々は丁度午後の實踐倫理の時をさいて、暫らく公爵の生涯を御話致し、公爵が本校に盡された事を思うて、遙かに公爵の英靈に對し、感謝哀悼の意を表したのであります。

今から十五年前に於ては、我が國の女子は高等女學校の教育を受ける丈けでも程度が高過ぎると云はれ、全國に僅十二三しかなかつた高等女學校にも、今日の如く澤山の生徒は見られなかつたのであります。斯くの如き時に我々は國家の將來を思うて、女子高等教育の必要を唱導したのでありますが、輿論は尙早論に傾き、不必要論が旺んでありましたにも拘らず、時の總理大臣伊藤公爵、文部大臣西園寺侯爵が賛成者となられたのみならず、自ら發企人となつて本校の設立を助けられ、且有力な方々の賛成を求められた事は我々の忘るべからざる事であります。若しも公爵が頑固な方であつて、女子教育の必要を認めら

れなかつたならば果して我が日本女子大學校は今日あるを得たか如何か問題であります。卽ち之が、伊藤公爵は本校最初の有力な發企人の一人であると私が申す所以であります。

公爵は如何なる方法を以て本校の爲に盡されたかと云ふ事は大體先日御話した事であり、且昨日竹越君からも御話があつた事でありますから之を省きまして、今日は伊藤公爵の生涯に就き、我々の修業上に有益である樣に考へる事が必要でありませう。卽ち伊藤公爵は如何なる人格の方であつたか、如何なる目的を以て、如何なる力を以て目的を貫かれたか。公爵の學問、公爵の修養は如何なる方法を以て行はれたか、かう云ふ問題に就いて考へる事はあなた方の最も要求する所であらうと考へます。

私は公爵と同鄕であり、又十七歲の時から教育に從事して、公の生地なる熊毛郡の學校に暫らく居つた事があり、其の後も度々同地へ行つた事があります。又維新以來の我が國の形勢に就いては親しく見聞して居つた事であり、其の後も數回教育上の事に就いて公爵に御目にかゝり、眞情を吐露して御相談した事もあり、議論をした事もあります。そこで私は公爵に就いては、種々感じて居る點が少くないのであります。

今日或人は公爵を目して一世の幸運兒となし、又或人は公爵を無類の天才であると申しますが之は果して本當であるかどうか、私は自分の知つて居る材料に依つて、御紹介したいと考へます。

公爵の成長せられし幼時の境遇

伊藤公爵は今申した山口縣熊毛郡の、或百姓の家に生れた方であります。公の兩親は一家を支へる事が困難であり、又其の他種々の事情の爲に、公爵は未だ幼少の時、萩の伊藤家の養子となつたのであります。伊藤家は如何なる家柄であつたかと云ふと、足輕でありました。足輕は武士の御共をするもので、身分は丁度武士と町人の間であるが、此の足輕の中にも又幾つかの階級がある、而して伊藤家は其の最下級の足輕でありました。

斯くの如く百姓の家に生れ、最下級の足輕に養はれた子供は、今や樞密院議長、從一位大勳位公爵であります。公爵も生前は多くの敵を持つて居られた樣であるが、其の死するや敵も味方も等しく之を悼み、嚴肅なる國葬を以て葬つたのみならず、我が

天皇　皇后兩陛下の御代拜があり、又英國を始め我が國に親交ある各國の皇帝は、競うて名代を派して、弔意を表せられた

のであります。斯くの如き光榮は實に異數の事であるから、そこで公爵は稀に見る幸運の人であると云ふ樣にも考へられるのでありますが、然し此の運命は、生るゝや自ら公に與へられたものではなかつたのであります。公爵の幼時は、今申した樣に寧ろ普通よりも不幸なる境遇に置かれ、審さに辛苦を味つて成長されました。若し公爵の生涯に幸運が多かつたならば、之は實に自ら招いた運命である。公爵が自らの力に依つて作つた幸運であると云ふべきであります。今公爵の生ひ立ちに就いて申しました序に當時の社會の空氣、卽ち公の成長せられた鄕里の傾向は如何なるものであつたか、私の幼時の記憶を喚び返して少しく御話致しましたならば、公が如何にして彼の如き大目的を立て、且生涯之を貫かれたか大方想像がおつきになるかと思ひます。

私が子供の時に深く印象されました事で今も猶其の時の光景を微か乍ら覺えて居ります事は、其の頃私は六七歲であつたかと思ひます。或夕方火の燃えて居る時に役所から使が馳つて來て、何時戰が始まるかも知れんから、大砲の音がしたならば直ぐにどこ〳〵へ逃げる樣にと云ひました。私の家から五六町離れた所には大砲があつたのです。

夫れから後の記憶も悉く戰爭とか、討死とか、切腹とか、實に殺風景なもの許りである。私の生れた所から奇兵隊の兵士が澤山に出ました。奇兵隊は戰爭の時武具で身體を保護しないのみならず、いざとなると着物迄も全部脫ぎ棄てゝ仕舞つて、鐵砲と刀を手にし、彈雨の中をくゞつて敵に肉迫するのである。彼等は自分の生命を捨てる事も、人を殺す事も少しも何とも思はないのであります。

十三の時、私はどうか番兵になつて戰爭に行きたいと思つて一生懸命父に賴みましたが、父は許すとも許さないとも云はない。三日の間待つて居りましたが父は一言も云はない。そこで自分は餘り子供であるから惡いのであらうかと獨りで考へ、大いに殘念に思つた事等もありました。

然し父は私が軍人になるのを好まないで、段々に學問に導いて吳れた爲に、私も目的をたてゝ勉强する樣になり、十七歲の時から教育に從事したのでありますが、丁度伊藤公爵の生地なる熊毛郡にも暫らく行き、山尾子爵の生れた土地にも暫らく居つた事がある。又私の家の近くに井上侯爵の別莊があつて、侯は若い時には度々此處に來られました。此の三人は前に國禁を犯して、英國へ勉强に行かれたのであるが、長州藩が外國と戰爭を始めると云ふ事を外國にあつて聞き込み、之は大變である、到底勝つ見込みはないからどうしても止めなければなら

ぬ。禁を破つて渡航したのであるからいま日本へ歸つたならば、或は松陰先生等の樣に殺されるかも知れないが、然し學問をするのも國の爲である、國が亡びるならば學問などしても仕方がないと云つて、學半ばにして危險を冒して歸り、藩公を諫めたのであります。

斯う云ふ樣な社會の有樣でありましたから、我々の如き當時の少年、青年は、皆將來國家の爲に死ぬる、國家の爲に働くと云ふ事を理想として居りました。彼も人である、我も人である、何でもして出來ない事はない、出來ないのはしないのであると、實に意氣が旺んなものでありました。

公爵は鄕里に於て斯かる空氣の中に生長され、又我々の如き其の頃の少年に、非常なる感化を及ぼされたのである。公爵の今日の精神、今日の功勞は、決して偶然になされたものではなかつたのであります。

公爵をして目的を貫かしめたる努力

公爵は生來多幸であつたのではない。若い時は非常に困難な境遇に置かれたのであると云ふ事は、少しくお解りになつたかと思ひます。そこで此の境遇に克ち、輿論の反對に克つて、遂に公爵が其の目的を貫き、今日我々の知る如き大事業をなされたのは、何の力に依るのでありませうか。

私が公爵に接した經驗から、又人から聞いた事から考へる所に依れば、公爵は決して天から自然に非凡の才能を與へられたものではない。公爵をして今日あらしめた力の一つは、彼の人に勝れたる努力であります。公は十六歲の時吉田松陰先生の門に入り、十八歲の時には木戸公に隨つて尊王攘夷黨に加はり、一、二年の間に東西の京を往來する事十六回であつたと云ふ事である。今日の如く汽車汽船の便のない時に於て、斯く迄奔走せられたのであるから、實に席の溫まる暇はなかつたのであります。此の間にあつて勉强をせられた公の苦心は、實に名狀すべからざるものであつた事と推せられるのである。又昨年憲法發布十周年記念の祝賀式に於て、或公爵に親近せる名士が、公爵に就いて誤解して居た事を自白された事がありますが、之に依つても公の勤勉なる平常を推す事が出來ると思ふ。

「我々は以前薩長の人に餘り勢力があるのを不快に思ひ、彼等は自分の爲に名利を貪つて居ると云つて、大いに反對した次第であるが、其の後伊藤公爵に接して、實に薩長の人の成功には理由ある事を知つたのである。其の感心した事實を一、二云ふならば、公爵は實に勉强家である。或時等は用事があつて幾度か御訪ねしたが一度も御目にかゝれない。之は每日晚く迄公務

を執掌して居られるので、本當に御留守であつたのである。或晩などは三時頃朝廷から歸つて來られたので、其朝早く五時頃御訪問致した所がもう起きて居られて、やうやく御目に懸つた。公爵が公務の爲に徹夜せられる事等は珍らしくない、之ならば成功するのも尤もである。前に無暗に不平を抱いたのは、未だ自らを知らなかつたからであると思つて、大いに後悔しました」と云ふ事であります。

老年に至つても公爵は、殆ど國家の爲に我を忘れて活動されたのである。統監の任を讓られてからも直ちに韓國に往來し、或は韓國皇太子教導の爲に、共に東北を巡遊し、歸來幾日ならずして滿州に赴かれる等實に一日も安居の暇はなかつたのであります。

斯く少年の時から晩年に至る迄非常に多忙な生涯を送られたのであるが、しかし公爵は如何なる多忙の際にも新しき知識を世界に求むる事を怠らず、寸暇を以て常に讀書せられた。我々が公爵を御訪問するならば、何時も必ず其の身邊に新刊の洋書四五册見たのであります。又公爵をよく知つて居る或學者の話によれば、公は漢學にも非常に深く通じて居られたと云ふ事である。詩もまた得意とする所で、晩年には書も大いに上達せられたのである。斯かる事は實に奇蹟の樣であるが、少しく考へるならば不思議ではない。理由は明白である。卽ち公爵は斃れても後止むの決心を以て、一生懸命努力せられたのであります。之は獨り公爵のみではない。世界の偉人は如何にして偉大なる人となつたのか、努力である、奮鬪に依つてゞある。彼の如く努力するならば假令幸運兒でない、天の惠みの薄い者と雖も、必ずや何かの目的を貫き、世界に何物かを貢献する事が出來るのであります。

公爵を成功せしめたる忠の精神

公爵をして今日あらしめた第二の原因は、忠の精神、卽ち公爵が目的の爲に全身全力を捧げて一日も怠る事なく、屈する事なく、忠を以て生涯を一貫されたと云ふ事であります。公爵も素より人間でありましたから、缺點がない事はない。個人としては誠に惜しむべき缺點はありましたが、政治家として君に仕へ、國を治める方面に於ては、實に忠を以て貫いた、尊敬し、信賴し得べき人格でありました。之は我が國民のみならず、世界から認められて居つたと云ふ事は、今日列國から表された同情に依つても、明らかなる事でありますから、事實を擧げて御話する必要を餘り認めないのでありますが、玆に一つ丁度適當なるものがあります。

追懐往事感無窮　三十三年夢寐中
顔色威容今當記　名譽興望古誰同
蕭曹房杜忠何比　蜀相楠公美暗通
墓畔題詩新綠樹　山鵑叶盡血痕紅

題松菊先生墓　春畝山人

之は公爵の自詠を、自ら揮毫されたものであります。人間の人格は其の人の言葉に依り、思想感情に依り、技術に依つて現るゝものである。二三日前私は本校評議員の村井吉兵衛氏を御訪ねして之を拜見し、公爵を紹介するのに、甚だ適當なものであると考へましたから、暫く借りて來たのであります。松菊先生と云ふのは、前に公爵が師事された木戸公である。卽ち之は本年五月に京都で木戸公の三十三年忌がありました時、公爵も墓參をされ其の時の感想を述べられたものであります。蕭、曹、房、杜之は何れも昔支那にあつた忠臣で、蜀相は蜀の宰相諸葛亮孔明である。之は木戸公が薨去せられた、三十三年前を追懐し、木戸公の忠を稱へられたものでありますが、此の詩に現れた精神によつても、公爵が如何に忠と云ふ精神を重んぜられたかと云ふ事が解るのであります。

公爵をして有終の美を保たしめたる大度量

第三に我々が公爵に學ばんとする所は公爵の大度量であります。卽ち人の過ちを許す、人の弱きを助ける、人と喜びを共にすると云ふ雅量が公爵にはあつたのであります。之は私が接して居つた時にも、又其の間に公私種々の人が來られて、色々相談せらるゝ態度によつても度々感じた事でありますが、今日はもはや時がないから、多くの事實を考へる事を止めて、我々は公爵の最後の態度に就いて見たならば、之に依つて全體を推し量る事が出來るであらうと考へます。

去る十月廿六日、公爵はハルピンの停車場に着し、露國藏相の出迎へを受け、多くの本邦人の歡迎を受けて歩を進められた時、ピストルの音を聞くと同時に、散彈を不意に打ち込まれたのである。然し公は神色自若として尙數歩前進されたが、遂に倒れんとし、傍なる二人の人に支へられて、漸く列車内に入られた。此の時公爵は如何なる態度を現はされたか。公は直ちに「誰がやつたか」と聞かれたのである。「韓人であります捕縛されました」と答へると、「馬鹿な奴ぢや」公爵は此の深い嘆息の言葉を遺言として永眠された。公爵が最後迄心配せられたのは韓國の將來である。「私は韓國の敵ではない、韓國の保護誘掖の爲に全力を盡したのである。韓國の敵は我々日本人ではない、汝自身である、韓國民の懶惰である、世界の大勢から孤

立し、文明から隱遁せんとする韓國の方針である。此の韓國の病弊を救はんとして苦心して居る自分を殺して何の利益があるか、彼等には自分の國の利害の關はる所が解らない、事の眞相が見えない、馬鹿なものだ、實に憐れむべき奴である」之が公爵の最後に遺された韓國に對する誡めの言葉の意味である。韓人が仇を以て公の厚意に報じたのにも拘らず、其の無智を嘆息して逝かれた寛仁の態度は、實に有終の美を保つたものと云はなければならぬ。

公爵は獨り韓國の保護誘掖の爲に力を盡されたのみならず、誠意を以て英國を友とし、米國、露國を友として其の學ぶべきをとり、常に世界の平和の爲、人道の爲に計る大度量があつたのである。此の態度が今日世界の友情を一身に集められた所以であります。

公爵の生涯により我等は何を學ぶべきか

公爵の一生を考へる時は公爵は公の爲に忙殺されて生涯を終られた。君の爲、國の爲に有らん限りの精力を盡し、遂に身體も生命も捧げ盡した。彼の生涯は實に大いなる犧牲の生涯であつたと云ふ事を、我々は深く感ずるのであります。

公爵は斯くの如く生涯を目的の爲に捧げ盡されたのであるが、然し果して充分の滿足を以て、永眠せらるゝ事が出來たであらうか。公爵の畢生の目的であつた憲法の實は、果して結ばれたであらうか。我が國民が憲法の眞意を解し、國家が一つの健全なる有機體となつて、分業が完全に行はれ、眞に立憲國の美を現す迄には未だ幾多の困難と戰はなければならぬのであります。而して我々は此の事を思ふと同時に、我々の畢生の事業、我々の目的、卽ち櫻楓會の目的と、其の使命に思ひ及ばざるを得ないのである。公爵が生涯非常なる努力を續けられて猶全く改める事の出來なかつた我が國の禍根は、恰も我々が今日感じて居る困難と其の根本は同じものであります。我々は櫻楓會を結んで、我が國婦人の病根を治し、世界の潮流から孤立隱遁して居る婦人の世界を有機的、分業的ならしめ、婦人を眞に其の目的に適ふ樣にしようとして大いに困難を感じ、努力奮鬪して居るのであります。公爵が生涯盡された目的も、我々が生涯を捧げんとする目的も、大小の差はあるがつまりは一つである。又此の目的に向つて全力を以て努力奮鬪する、忠を盡す人を許し人を助け育てると云ふ寛宏の態度も、同じでなければならぬのであります。

今日全國民が深き感動を以て國家の爲に失はれた偉人を葬らんとするに當り、我々は其の品性から學ぶべきを受け、且公爵

の目的、公爵が本校の爲に盡された意志を深く感じて、今後は益々一致協力し、國家の爲に、櫻楓會の爲に、女子教育の爲に、有らん限りの力を盡さなければならぬ。玆に我々は大いなる目的を以て一貫した生涯を見て、深い感動を受けると同時に、我々の生涯に就て充分に考へ、大いに決心する所がなければならぬのであります。

明治四十二年十一月

婦人の進歩に最も影響する二大原因

通信教育會員諸氏の來會を喜ぶ

今日は年末で、丁度御忙しい時であり、殊に日曜日に當りまして、家庭に御ゐでになる方々は御出掛けになり難い折にも拘はらず、通信教育會員諸氏が斯くわざ〳〵本校に御出で下さいました事は、櫻楓會員一同の深く喜びとする所で御座います。

實は此の前運動會を開きました時に、一寸皆さんに御目に懸りたいと考へましたが、御承知の通り當日は大層混雜致しましたので、其の折を得ませんでした。そこで其の後成可く此の會を開き度い考で御座いましたが、私が學校と櫻楓會との用務を兼ねて、暫く關西地方へ參りました爲に延引致し、斯樣に今日御出でを願ふ樣になりましたのであります。

扨て我が國に於て女子教育の必要が唱導され、其の方法を研究し始めましてから、最早凡そ三十七年になります。此の三十七年間の經驗を考へて見る事は、我が國女子教育の方針をきめる爲に、非常に必要な事であらうと考へます。然し今日は之に就いて詳しく申す時が御座いませんから、其の内容に就いては皆さんの御考に任せて置きますが、然し今日の女子教育は、如何なる變遷を經て進んで來たのであるか、又今日の婦人界の發展は、どれ位の程度かと云ふ事は、皆さんに大體見當がおつきになるかと思ひます。

確に外形丈けを見ましても我が國の女子教育が、此の三十七年間に長足の進歩をしたと云ふ事は、誰も疑はぬ所であります。殊に最近の十年間に於ては、今日輿論の認めて居る中學程度の教育、卽ち高等女學校程度の教育が非常に發達致しました。丁度此の女子大學の創立を企てゝ居りました頃は、我が國一般の輿論は高等女學校程度のものでも尙高過ぎるとし、全國にある高等女學校の數は僅十二三に過ぎなかつたものであります、夫れが此の十年間に百六十以上に上り、夫れと同時に數千しかなかつた生徒は、俄に數萬に增加致しまして、今日ではま

づ中流以上の女子は、家庭に這入るのにも高等女學校程度の教育は受けてなければならぬと云ふ樣になりましたのみならず、男子の教育期が段々延長されました結果女子の婚期も晩くなり、女子教育の程度も追々高まりまして、女子の教育は高等女學校丈では誠に不充分であると云ふ事も、一部の有識者の間には認められる樣になつて參りました。

今から二三年前には、本校大學部の如きはとても希望者を悉く收容する事が出來ないと云ふ有樣で、當時大學部に屬する學生の數は、八百九百と云ふ程に、非常な勢で增加致しました。此の二三年來殊に昨年からは經濟界不振の影響の爲、斯く盛んなる女子の向上心を見る事は出來ませんけれども、本年四月に創刊した女子大學講義の景況を見ますと、第一期の入會々員が殆ど四千人に上つて居ります。之に依つても女子の向上心は矢張り續いて居る、以前の盛況は一時の流行ではないと私は信じて居るのであります。

斯く過去と現在とに徵して我が國の女子教育を外面から見ますれば、確に之は非常なる勢で進みつゝあると申しても誤りではあるまいと考へられます。

女子教育の効果は女子の生活に現れしか

然し果して此の外面の數に現れたる如き勢を以て、眞に女子は進歩して居るか、女子の家庭生活に、子供の教育の上に、女子の社會的生活の上に、此の教育の結果は現れて居るかどうか。本當に學校に居た時の如き元氣を以て、卒業後も進歩して居るかどうかと云ふ深い問題になりますと、其處に種々疑問が起らざるを得ないのであります。

私は此の問題を考へるに當つて決して獨斷的に論ずるのではありません。又酷評を下す事も好まない。私は若い時から始終婦人の友となり、婦人の世界を開き度いと云ふ熱望を以て三十餘年來女子教育に微力を捧げて參りまして、婦人の世界には少からざる同情を抱いて居るものでありますから、不親切なる獨斷を以て消極的の判斷を下すと云ふ考は決してない積りであります。

二三年前私は三十五年振りで鄕里に歸つて、地方の家庭生活殊に中學、師範學校を卒業した男子の職業、高等女學校を卒業した女子の家庭生活に就いて、出來る丈深く調べて見まして、實に我が國の教育は、日常生活の上に其の効果を現して居らない、つまり我が國の教育は、其の方法を誤つて居るところがあると云ふ事を深く感じました。夫れから引續き我が國女子教育の結果に就いて調べて見ました所が、我が國の女子は學校に居

る間は人間として美しい生活を營む事が出來るのでありますが、卒業して社會に出で、家庭に入るに及んでは全く其の力を失つて、進歩ある生活を續ける事が六ケ敷いと云ふ事を見出しました。

一言で云えば、私は今日の女子教育の結果に就いて滿足する事が出來ない。人の事としないで自分の娘の事として極く露骨に云へば、私は我が國の女子に人格が出來た、生命が出來たと云ふ充分の自信を持つて安心する事が出來ない。我が國の女子は今日の有樣にあつて滿足すべきものではない。もう一つどうかして進歩の路を開かなければならぬと思ふのであります。之は私の獨斷ではない、慥に女子自身もさう思つて居るのであります。

然し私は只皆さんの反省を促す爲に今日斯かる事を申すのではない。どうかして其の深い原因を見出し、却つて積極的に、將來我が國の婦人を進める道を開きたいと日頃研究して居りますので、之を皆さんに訴へ、力を協せてどうか婦人の爲に一つの結果を現して戴き度いと考へるからであります。

婦人の進歩に大關係ある二つの原因

我が國に於て女子の學校教育は非常なる發達を致したのに拘はらず、其の効果が女子の生活に何故現れる樣にならないか。學校に居る間丈けでなく、生涯女子が進歩する力を何故教育に依つて與へる事が出來なかったかと申しますと、之には種々の原因が考へられますけれども、其の種々の原因を生じた量も深い大原因は何でありませうか、私は之に就いて研究しつゝあるのであります。

私は一方には絶えず女子の家庭に於ける境遇、及び今日の社會が女子に對する態度、即ち一言で云えば、今日の女子の境遇に就いて觀察致して居りますが、一方には女子の心理、女子の性情に就いて研究して居ります。此の二方面に就いて三十年來研究し、又自分の教育上の經驗を纏めて見まして、私は之が最も深い且重大なものであらうと思ふ二つの原因を見出しました。此の二つの原因を研究し、之を改善する事に着手しなければ、婦人は之以上に發達する事は出來ないであらうと考へられるのであります。

其の二つの中の一つは、あなた方御銘々の内にある原因であり、第二は外にある原因であります。

婦人の内心に深く潜める原因

此の中にある原因を研究するには種々の方面がありますが、

先づ第一着に我々が研究しなければならぬ事は、銘々の深い所にある心理狀態、自分の精神の奥底迄明らかにすると云ふ事であります。

今迄女子の心理研究はどう云ふ様に行はれたかと云ひますと、女子が自分で意識する所の經驗を調べ、之に重きを置いたので、つまり女子の精神の研究は、此の意識の範圍に限られて居りました。

そこで女子の教育、女子の活動、女子の反省と云ふ様な事も如何なる處に力を入れたかと云ふと、自分の目に見え、人の目にも見える所、即ち行儀を直すとか、言葉に氣を付けるとか、物を拵へるとか云ふ様な意識の表面に現れる所のものに力を入れて居つたのであります。

もう少し之を詳しく云へば、我々の自我と云ふものは自分が考へ自分が行ふ所の經驗である。教育と云ふものは此の意識を明確にし、意識の連合關係を複雜にする事であると、從來は考へられて居たのであります。所が段々世界の交通機關が發達して人類の知識がよく交換される様になり、人間の思想の傾向が、唯物論的から唯心論的に進んで來たのに從ひ、又多くの學問の分業と共同の働きに依り、各學問の比較研究の結果が段々に現れて、今日では人間の心理、人間の精神と云ふものは、決して意識に現れた所の現象のみには止まらないと云ふ事が見出されました。意識に現れた所のものは一時的の現象に過ぎないので、猶其の奥には一種量り知るべからざる深い源があると云ふ事が解つて來たので、之を私は我が國女子教育の經驗に應用して考へて見まして、大いに見出す所がある様に感じました。

根本的修業はサブコンシヤスネスを改善するにあり

然らば其の婦人自身にある深い原因とは何であるかと云ふと、之は皆さんが近頃の心理學を御學びになるならば、直ちにお解りになるであらうと思ひますが、此の深い原因は、學術語ではサブコンシヤスネスと申します。之を我が國では、潜在意識とか、或は潜在精神とか云ふ様に譯します。何れでも間違つては居らないのでありますけれども、どうも丁度其の意味の全體を現す言葉が我が國にはありませんから、原語で覺えてお置きになる方が便利であろうと考へます。昔は之を遺傳とか、本能とか、天賦の性とか云ふ言葉を使つて漠然と考へて居りましたけれども、今日では我々の傾向、我々の品性、才能と云ふ様なものは自分で拵へたものゝみでない。實は自分の生れぬ前親の生れぬ先の親からも大いに作られて居る、つまり長い間の人類的協同に依つて作られて居る自分の意識せぬサブコンシヤス

ネスから來たものが多いと考へる樣になりました。

例へば此の室を只今照して居る光線が、其の源は太陽から發し、夜中室にともす電燈には必ず其の電流の源があつて、其處に現れる光や熱は、其の源から來て居る一時的の現れに過ぎない樣に、我々の今日持つて居る意識、或は精神は、猶其の深い奧にあるサブコンシヤスネスに大いに影響せられて居るのであります。故に我々の才能を伸ばし、缺點を改善するのには、此の深い原因から改めなければ本當の事は出來ないのであります。

そこで丁度之と反對の考がありますから矛盾を避ける爲に一寸申しますが、英語で self-made と云ふ言葉があります。又實際自分で自分を作つた人は我が國にも少くないので、此の自ら作る自立自修と云ふ事は、ある意味から言へば慥に出來る事であり、又人間にして誠に價値ある行爲でありますが、如何して自立と云ふ樣な事を人間は尊ぶか、何故に如何なる困難に遇つても自立して屈しないかと、もう一つ深い原因を考へて見ますと、其の土臺は決して自分一人で作つたものではないのである。昔は之を天と云ひ、カントは之を實踐理性と申しました。今日の研究によれば、之は長い間の人類的協同に依つて自分の意識に上る樣になつて來たのであります。

夫れ故我々の經驗とか、知識、品性と云ふ樣なものも、全く自分一人の力で出來たものではない。我々の知らない遠い先祖が、長い間に作つて還して行つたサブコンシヤスネスと云ふ土臺の上に、我々の才能も、人格も、傾向も、經驗も築かれてあるのであります。御婦人に自立が出來ない、目的を貫く事が出來難いと云ふのも、之は決して其の人の罪ではない。昔々の祖先から讓られた弱點である。故に今日女子を進めるとか、品性を改善するとか云ふ事は、只今迄の樣に意識に上つたもの、形に現れた事に計り注意しても其の効は少い。寧ろ其の源を尋ねて、其處から改めなければならぬのであります。

然らば此の我々の知らない、遠い祖先から讓られた原因、サブコンシヤスネスと云ふものは、我々の力で改善する事の出來るものかどうと云ふと、慥に出來るものであります。之はどうしたならば宜しいかと云ふと、つまり一言で云へば善い暗示を與へると云ふ事であります。

目に見える物質上の物でも、精神界の事でも、停滯を防ぎ其の進歩改善を計るのには、之に適用すべき原理は一つである。即ち新要素の注入に依り、其處に新しい關係を作ると云ふ事で、善き暗示は精神の發達に大切なる新要素であります。

此のサブコンシヤスネスと云ふ事、暗示と云ふ樣な事は、も

つと詳しく御話致しませんと御解りになり難いかと思ひますが、遺憾乍ら今日は其の時が御座いません。丁度之は先日來、もう少し詳しく校内の會員に說いて居ります。其の内に雜誌に纏つて出るでありませうから之に就いて一層深く御研究になり、之を應用して考へて御覽になるならば、得る所が御ありになるであらうと考へます。

第二　客觀的方面より見たる原因——境遇

然らば女子の教育は、精神は精神の源に溯つて此のサブコンシヤスネスの改善を計りさへしたならば夫れで成功するかと云ふと、之丈けでは本當の効果は見られない。もう一つ之に伴つて進めなければならぬものがあります。之が前に申しました第二の外にある原因で、之に就いて御話致すのが私の今日の目的でありますが、餘り時間が御座いませんから極く大體申す丈けに止めて置きませう。

此の頃私は講義錄に目的論を出しかけて居りまして、何故に我が國の御婦人の力が伸びないかと云ふと、つまり客觀的方面の目的が確立しないからであると申し、少しく此の考を發表し始めて居ります。此の目的を立て、之を貫くと云ふ事も、今申す境遇を開くと云ふ事もつまり其の内容は一つであります。

此の境遇と云ふものも、只今サブコンシヤスネスの所で少しく申しました樣に、矢張り自分一人の力で出來たものではない、人と人との一致協力の働きに依つて出來たものであります。

之迄の考へ方では、修養するとか、或は學問するとか云ふ事は、全然自分の考へに依り、自分一人の努力に依つて出來るものであると云ふ事でありました。夫れ故深山へ這入つて一人で沈思に耽り、或は天地の神に祈るとか、或は獨りで朝から晩迄讀書するとか云ふ樣に、全然社會に離れて一身を神聖に保つたならば、夫れで修養も出來、學問も出來ると思つて居たのであります。所が今日の心理學では、我々の精神、知識、或は我々の信仰と云ふ樣なものは、決して我々一人の力で出來るものではない。如何に豐富なる天才を與へられて居る人と雖も、若しも社會から全く孤立して居るならば、決して天才は發揮されないのみならず、却つて低能兒と何の選ぶ所もなくなるに相違ないと云ふ樣になり、其の結果境遇、或は社會と云ふものは人間の進歩に非常なる關係がある事を認められました。

前にはつまり極く單純な概念が出來て、之が段々複雜な概念になると考へ、ベーコンの如きも、人心は白紙の如きもので、夫れが段々に概念の聯合に依つて進むのであると申しました。

そこで教育と云ふ事も、昔は銘々の心をよく教育して行きさへすれば、夫れで宜しいと云ふ事でありましたが、今日の進んだ考では決して爾うではない。我々の品性、我々の實力、信仰と云ふ樣なものも、人と協同の働きに依つて出來る、社會的に人の心と自分の心と關係を持つ樣になつて始めて發達するものであるから、社會と交通する方法を教へる事が大切であると云ふ事を見出したのであります。

聾啞盲目の一婦人は何に依りて學者となりしか

今申しました考を證明するには種々適例がありますが、其の中の一、二を御話し致しますと、前に私は米國に居りました頃に直接觀察致し、其の後も興味を持つて引續き觀察して居る事があります。夫れは有名な米國のヘレン・ケラーと云ふ婦人で、此の人は生後八ケ月の時に明を失ひ、其の後間もなく耳も聞えなくなりましたので、從つて話す事も出來なくなりました。夫れから其の上に又皮膚の病氣をしました爲、味覺がきかなくなりましたから、五官の中四官が失はれ、殘る所は僅に唯觸官のみになりました。

然るに此の人の先生は、此の唯一つの觸官を利用して社會と交通する道を開きましたので、彼女は之に依つて大學教育迄も受け、卒業後は更に進んで種々研究を重ね、只今では多くの著書もあり又雜誌などにも屢々寄書して居りまして、確かに學者として世界に紹介せらるゝ婦人となりました。

此の人の先生の經驗を聞きましたが、ヘレン・ケラーは七歳になつても、未だ我と云ふ考が出來なかつた。夫れから世界の凡てのものには名があると云ふ事も知らなかつたのであります。然るに或冷めたい朝、此の先生が水を汲み上げました時、彼の女は例の觸官に依つて或感じに打たれました。そこで先生は直ちに此の感じに結び付けて water と云ふ名を彼の女の掌に書いて教へました處が、ヘレン・ケラーは此の時始めて、世界の物には、皆或符號があると云ふ事を知つて、其の顏には非常なる喜びが輝き、夫れからは大いに希望が現れて、其の日の中に忽ち數十の名詞を覺え、之が端緒となつて段々に知識、品性が發達し、遂に今日あるに至つたと云ふ事であります。

ヘレン・ケラーに若しも此の社會との交通を苦心して開いて呉れた所の親切な先生がなかつたならば、彼の女は只一個の白痴者として生涯暗黑の裡に終つたに相違ない。之に依つても社會的關係、境遇と云ふ事が、如何に我々の進歩に大切なものであるかと云ふ事が解るのであります。

そこで我々が進歩發達を願ふならば、人と交はり、社會と交

通して刺戟を受け、種々善き暗示を受ける事が大切でありますが、もう一つ缺くべからざる働きは、此の受けた刺戟を一つの知識に纏め、多くの暗示の中から善き必要なものを選んで、一つの理想、一つの信仰にすると云ふ事であります。此の働きがなければ多くの刺戟を受けても唯個々の事を知り、衝動的に活動するに過ぎないので、餘り發達の上に効果はないのであります。故に自分の考を以て知識を構成し、原理を見出し、信仰を作ると云ふ事が甚だ大切であります。

近世哲學の開祖デカルトは「我思ふ、故に我在り」と云つて居ります。然し此の考へる、知識を構成すると云ふ事も矢張り自分一人の努力では出來ない。何故ならば我々には斯かる働きを起させる所の刺戟がなければならぬ。而して此の刺戟は人と考を交換し、社會と交通する事に依つて多く與へられるものであります。

もう一つ其の例を申しますと、今日の世界に於ける弱國、或は保護國と云ふ樣な國、譬へば印度、埃及、近くは支那、朝鮮の如きは、どうして獨立の體面を保つ事が出來ない樣になつたかと云ふと、一言で云へば外國文明の輸入を排斥し、又世界の文明にも何等の貢獻もしない。つまり世界との交通を斷つて孤立したからであつて、之は我々個人の間で進む事が出來ない弱者も其の境遇は一つであります。

之に反して英國とか、米國とか、獨逸とか云ふ樣な强國はどうかと云ふと、最も廣い境遇に立つて盛んに世界的交通をして居るのであります。近頃新進の勢を以て進んで參りました所の獨逸は、孜々として國力の發達に力を盡して居るにも拘らず、猶英國に及ばないものがあるのは今日に於ける世界の交通機關である海上の支配權を持つて居らないからであると云ふ事に氣がつき、二、三年前から十年計畫を以て毎年盛んに大船巨艦を建造し、國内の運河を開きなどして海上權を掌握し、世界の交通機關を支配する權力を得ようとして非常に焦慮して居ります。

國力の發達を計る爲に、斯く世界の强國が交通機關の完備に全力を注いで居るのは何故であるか、其の意味は玆に申す迄もなく皆さんが御解りになつて居られるであらうと思ひます。

夫れから丁度我が國に於ける昨今の經濟狀態も、此の適例であります。凡ての銀行には金が餘つて居るが、銀行家は之を思ふ樣に融通させる事が出來ない。工業家は一生懸命製造し、商業家は之を仕入れても買手がない。農業をする人は今年非常な豊作であつたが、此の產物を買ふ人がないので、大いに不自由を感じて居る。つまり資本も物品も澤山あるのであるが、其の

間の交通が閉されて居る爲に、各方面の事業が皆蹉跌を來して居る。若しも此の儘で何時迄も交通の道が開けないならば、我が國の進歩は此の爲に大いに害はれるに相違ないのであります。

そこで一言で云へば進歩發達、或は文明と云ふものは社會的交通に依つて出來たもので、最も廣く最も頻繁に交通したものが、最も多く進歩すると云ふ事が出來るのであります。

婦人進歩の爲に先づ交通機關の發達を計れ

然るに我が國の御婦人は如何であるかと云ふと、少しも交通の道が開けて居ないのみならず、御婦人自身が餘り其の必要を感じて居らない爲に、自ら其の交通を斷つて居る。我が國に於て家庭内の事が最も後れて居るのは、矢張り家庭を支配する御婦人と、御婦人との間に交通がないからであります。

今迄の日本の婦人は、唯自分で考へた事、行つた事の外は知らない、婦人の世界は實に狹かつたのであります。そこで自然、品性も頭腦も小さく、偏頗で感情的主觀的になり、人の嫌ふ婦人の五病などに囚はれ易い樣になつたのであります。

今日私が皆さんに望む所は、御婦人も今後は社會的協同的の生活をお開きになる爲に、大いに力を注ぐ事で御座います。此の交通機關を作らないで孤立して居つては、到底進歩する事も、修養すると云ふ事も不可能であると云ふ事を、眞に解して戴きたいと云ふ事であります。

此の交通機關とはどう云ふものであるかと云ふと、之は種々ありますが、今日我が國婦人の境遇として最も開き易い機關は讀書でありませう。然し讀書と云ふ事も、唯多くの本を讀みさへすれば宜しいと云ふ事ではない。今日迄の我が國の教育は分量的であり、注入的であつた爲に、其の効果が少ないのであります。あなた方が學校で注入した知識は、今日ではもう古びて居る。今日の如く世界の交通が頻繁に行はれる時に於ては、昨日の新知識はもう今日は古びて居る。今日は又其の以上の發見があるのであります。故に今日は今日の知識を養はなければならぬ。まして昨年注入して置いた知識、二、三年前に注入した知識のみで、其の上に新要素を加へる事がなければ、其の人の頭腦は古び、進歩は後れて大なる損害を蒙らなければならぬのであります。

そこで我々は生涯世界と盛んに交通して、益々新たにならなければならぬ。即ち思想の世界の交通機關を支配する力である讀書力、思考力、研究力と云ふ樣なものを養ふ事は、御婦人の目下の急務であります。

此の女子大學講義は、御婦人に新しい知識を供給する交通機關となる目的を以て始められ、益々其の目的に向つて進んで居るのであります。然し眞に御婦人の世界の交通を盛んにするのには獨り講義錄許りでなく、此の外にも圖書館とか、講演會とか、其の他種々の機關が必要であり、又もう一つ物質的經濟的方面の交通を開く爲には、御婦人の組合と云ふ樣な組織も出來なければならぬ。斯う云ふ事が出來る樣にならなければ、我が國婦人の發達は、到底不可能であると申しても宜しいのであります。

第二の此の客觀的原因に就いては、未だ種々御話し致したい事が御座いますが時が參りましたから之に止めて置きます。そこで今日は第一の原因、第二の原因と分けて、二つの方面から婦人の進歩に必要な原因に就て御話致しましたが、之は決して二つの原因が別々にあるのではない。お解になりよい爲に、一つのものを主觀的方面から客觀的方面から觀察してお話したので、其の本は一つのものであります。

今日迄御婦人の進歩が甚だ遲々として居りました原因は、慥かに御婦人が自己と云ふものに就いて根本的に考へる事が出來ないで、自己と云ふものゝ解釋が誤つて居りました爲に交通機關の必要を認めず、一致協同の働きを起さなかつと云ふ所にあるのであります。故にどうか皆さんは御婦人と御婦人と、家庭と家庭と、御婦人と國家社會、御婦人と世界及び宇宙の精神的境遇の交通を開く事に力をお注ぎになり、自己を進め、婦人全體の發達をお計りになることを切望致します。

（「櫻楓會通信」第二十七號・櫻楓會員並びに通信教育會員會合に於ける談話）明治四十二年十二月

年末に際し會員に送る書

本年も剩す所僅少に相成候。日本全國及海外にある我が櫻楓會員は、如何なる感懷を以て今年を送り、又新年を迎ふる爲に如何なる決心をせられしか、目下に於ける余の熱望は、親しく會員諸子に面會して、卒業後に於ける其の經驗及當時の感想を聽き、又共に力を協せ、意見を交換して、今後十年間に於ける計畫を確立せんとする事に候。余は此の希望を以て數日前關西二三の支部を訪ひたれ共、尙會員全體の狀況を巨細承知致し度、依りて一書を送り、諸子の返信を得て、幾分此の目的を達せんと思考したる次第に候。

顧れば我が校は創立後既に九年を經過し、近く十年の一紀元を迎へんと致し候。今日迄の十年間は、一言以て言へば女子高

等教育の經驗時代にてありし、久しく荒廢に委したる婦人界は、僅に一部分開拓され、諸子は此の主義に於ける種子として、各方面に傳播せられ候。來るべき十年は活動の時代、此の種子が萠芽を現はし、花を着くる時なるべし、我が櫻楓會員が眞に生涯進歩發達して、其の使命を完うするや、否、之れは今後の十年に於て區別せられるべく、櫻楓會の運命も、此の十年間に於て決せらるべし、獨り櫻楓會員櫻楓會のみならず、我が國婦人の將來、我が國婦人團體の運命も亦之れに依て定めらるゝ事決して尠少ならざるべきを信じ候。櫻楓會員に於て其光明を認むる事能はざれば果して何ものに向って希望を囑せん、我が櫻楓會員が、此の際深く自己を反省し、社會の要求を聽き、世界の大勢を察知して、櫻楓會の使命を、一層切實に自覺せられん事は、余の希望して已まざる所に有之候。

毎年余は諸子と告別するに當り、諸子は卒業せしに非ず、今より社會の大學に入學せんとするなりと云へり。諸子又熱心に生涯の進歩向上を約し、目的に向て、生涯努力奮鬪すべきを誓つて去られたり。社會の大學に入りたる我が卒業生は、果して能く困難に堪へて、益々實力を養ひつゝありや、其の品性は彌々磨かれつゝありや、諸子の境遇は年々幾分宛にても開かれつゝあるか、之れ日夜余の念頭を離れざる問題に候。校内會員は今後十年に於て充分なる活動を現はすには、準備に於て猶完全せざるものあるを深く感じ、今後三年は、專ら此の準備に熱注し、活動の原動力を貯ふる必要あるを認め、萬難を排して、斷然之れが實行に着手せんとする機運を來し候。

各地にある諸子の現狀は果して如何。諸子の進歩發達を阻害するものは、我れ等互に協力して、如何なる困難あるも之れに克ち、近く來らんとする第十年紀迄に一大集注を作りて、女子高等教育の價値を發現し、一致協力の實を擧げざるべからず候。

諸子が母校にありし時は、年末年始に際し、必ず過去の反省と、新年に對する決心計畫を書して余に答へられたるが、今日諸子は多忙なるべきも、斯く生涯の區劃をつくる時に當り、眞面目に過去を反省し、將來に就て熟慮する事は一層の心要之あるべし、就ては左記の問題に基き、卒業後の經驗、將來に對する方針等實狀を各自余に通信せられ度、切望致し候。諸子の經驗は之れを統一して、櫻楓會員及後進者の指導に資し度候間、可成一月一五日迄の間にお認の上、御送附被下度候。

女子高等教育の過去十年間の結論は、諸子の經驗を措きて他に求むべからず。此の際我れ等は一致協力して、過去十年間の結論を愼重に考へ、來るべき新紀元の計畫を確立するは、目下

の急務に有之候、匆忙の際意を盡す能はず、然れ共諸子は余の眞意を了察せらるべきを信じ候　早々不一

（「櫻楓會通信」第二十七號）明治四十二年十二月

新年に於てよき氣分を作れ

今よき暗示を受けよ

昨年は一部の思想界が割合に活潑に運動した以外は、我が富源の第一要素たる五穀豊穣なりしにも拘らず、到る所に不景氣の聲を聞き、社會一般極めて沈衰の狀態に陷つた。然し今や疲れた年は逝き、玆に新年の曙光の巡り來れると共に、人の心はまた若返り、洋々たる希望を抱き多くの計畫を以て豊かなる日月に望みを嘱して居る。この時に當り我々は互に最もよい暗示を受けて改めて社會によい氣分を作りたいと考へる。

先づ昨年の社會の沈衰は何が爲であつたらうかを調べて、其の原因を取除く事が大切である。余は之を以て次ぎの二つの主なる事實に歸せんと欲する。

其の第一は國民が開國五十年を迎ふると共に、自然過去を追想し、驚くべき五十年の進歩と成功とに誇つて、小成に安んじたりし氣味はなかつたかと云ふ事である。昨年に於ては開國五十年の祝典があり、憲法發布二十年の記念を祝した。國民は之等の催しのある度毎に、維新の大業を成就し得たる力を寧ろ不可思議に思ひ、憲法の發布を見ては、一朝にして歐米數百年の文化の粹を集め得られたる我が國民の頭腦を誇り、更に日清、日露の大捷を思ふに及んでは、我が國民も決して歐米先進國の人々に優るとも劣るものではないと考へた。而して之を成就した元老達は所謂功成り名遂げて、第一維新の一段落を告げたる思ふに至つた。

加之外國でも從來東洋の一小島國として、餘り眼中に置かなかつた日本が忽ち世界に雄飛し初めたのを見て、その偉大なる力は奈邊に潜んで居るかを頻りに研究しつゝ、曰く武士道なり、曰くその教育なり、曰く何々として、遂には我が米飯迄を稱讃するやうになつて來た。此に於てか國民の自信力は稍々嵩じて、或は自負心と變じたのではあるまいかと思はれる。そこで今更に保守の傾向が優勢を占めて、我が武士道に歸れ、報德主義を奉ずべし、孔子教を復興すべし、我が衣食住は改むるに及ばずと考ふるに至つた。爲に國民一般の氣分も亦消極に陷つて、唯々持てるものを失はざらん事にのみ努め、質素儉約を第一の教條とするの傾きを生じた。これ國民の元氣を沈衰せしめ

た主なる原因ではなからうかと思はれる。

第二の原因は目下の經濟難に囚はれて終つた事である。戰後二十億の國債は國力に比して可成り重い負擔であるが上に、歐米に於ても今日では我が日本を以て對等視する樣になつたので、貿易上、信用上、今迄のやうな除外例には取扱はれなくなつた。從つてそれに相應する實力がなければ如何ともする事が出來なくなつた。しかも國內の人氣は銷沈して居る。いくら豐年であつても、賣買が活發に行はれないから當然金融の切迫となる。さればと云つて我々が屢々云ふ如く、富國の財源にも乏しく、天產物に加工して價値を添ふるに足る工業も未だ振はず、之が工業の基をなす科學的の研究も未だ微々たるものである。此に於てか國民は失望せざる得ない。しかも社會一般の人々は自然の機至つて、何時か現狀を回復する時があるだらうと思ひ、敢へて人力に依つて之を回復するものなきが如くに感じて居るのは大いなる誤りではなからうか。

回想にのみ耽るは利益ならず

年が更まるとも人心の態度が改まらなければ社會の氣運は回復するものではない。我々は今暫く右に述べた二つの原因を取除く事に思ひ至らなければならない。其の第一の困難は實にわれから好んで作り出したものである。成程、我が國過去五十年の成功は眩惑するに足るものがあつたであらう。然しそれは國民が國の成敗を賭して死を決し、一意專心、國家の進步發達を計つたからである。勿論刺戟に遇つて國民があれ丈けの元氣を出すに足る潛勢力はあつたにしても、その儘に安んじて居つたならば元氣は一時に消えて終つたのであらう。畢竟、異數な努力を以て列强の列に後れて居る進步を追うたからである。況んや現今少しく眼を擧げて世界の大勢を見れば、無線電信も架れば空中飛行機も飛ぶと云ふ有樣で、交通機關の發達は實にめざましきもので、昨日アメリカに發明されたものは、今日倫敦に行はんとすとも難からざる有樣である。されば各國は自分の國々で發明發見するのに加へて、世界の大勢の氣運を知つてその粹を集めん事に努力して一瞬時も止まらないのである。かゝる時に當り我が國獨り過去の僅なる成功を誇つて小成に安んずる事どうして出來ようぞ。

第二の困難たる經濟難も、今に於て愚痴がましく幾ら繰返しても仕方のない事である。國民は當然二十億の借金をして居るのであるから、之を返濟する途が立たなければ如何にしても逃れる途はない。故に徒らに悲觀する許りでなく、益々積極に事業を營んで行かなければならず、人も作つて行かなければなら

ない。殊に人を作ると云ふ事、卽ち教育と云ふ事が稍々もすると迂遠なる途であり且非常の消費をする樣に考へて、世の氣運が不況に赴くと共に教育も亦衰微するが、これ實に目先きのものより見えぬ哀れな仕方である。余は常に考へて居る。我が國現今の如く貿易も振はず、工業にも望みはなく、天產物にも乏しいのを何に依つて回復すべきであらうか。實に國民の教育に力を注いで人物を見出し、頭腦を見出し、手腕を見出して、異常の發達に俟つより外途がないと信じてゐる。今日に於てなほ此處に氣付かずば、實に悔いても及ばぬ時が來るであらうと憂ふるのである。之は獨り男子のみを教育して足れりとするのではない、否第二國民を作る其の母を教育して未知數の力を加へ第二國民をして益々偉大ならしめなければならぬ。若し第二國民に於てなほ成就せぬ曉には、更に次代の國民を俟つて教育し、二代三代は棄石になる覺悟を以て、準備を怠らない樣にしなければならぬ。

此に於てか殊に女子に向つて一言しなければならない。幾代か教育せらずに今日に至つた女子は、誠に過去の遺傳も乏しいであらう。明治になつて教育せられたと云ふものゝ、男子に比して未だ遙かに不完全の教育であつたらう。しかも社會は女子の爲に極めて不利な境遇である。然るに社會が男子と同じくその雙肩に重い責任を負はしむる事は、寧ろ誠に慘酷の如く見える。然しながら責任と云ふ事は人を非常に教育するものである。もし眞に女子がその重大なる責任を果さなければならぬとしたら、どうして碌々として意味なき生活に安んじて居る事が出來よう。眞摯に智德を磨いて、己の爲に、國家の爲に、人類の爲に、任されたる重任を果さんとする勇氣を出さしむる事は確である。

斯くして、男子も女子も己の責任を自覺する所あれば、止むに己まれぬ力が湧き出て、而して自然に社會の氣分は改まり、國家沈衰の狀態の回復も遠きにあらざるべきを信ずる。

（「家庭」第二卷第一號）明治四十三年一月

隱れたる我の研究

內容の充實、實力の培養と云ふ事は、今日我々が最も熱望して居る所のものであります。此の內容の充實とは如何云ふ事であるかと云ふと、一言で云へば個人としては人格を作り、頭腦を豐富にし、境遇を開くと云ふ事、つまり眞の自我を見出し自我の內容を豐富にし、擴大すると云ふ意味であります。

此の前私は此の問題の土臺である「我」と云ふものを明らか

にし、根本的の修養をとる爲に、先づ自我の客觀的方面を目的論から說き明しました。此の目的を自覺し、熱望し、或は選擇するものは何かと云ふと、夫れは我々の主觀の働き、意思とか、傾向とか云ふ樣な精神作用である。若しも此の主觀の働きに誤りがあるならば、我々は目的を立て、目的に向つて奮鬪しても勞して功がないのみならず、或は却つて有害な結果を生ずるかも知れないのであります。品性を高め、實力を養ふと云ふ事は只自制克己に依つて、多くの知識を覺える事に依つて出來るものではない。よく內部の精神作用を知り、夫れに適當な方法を採らなければあまり功はないのであります。

そこで今日は自我の主觀的方面、卽ち我々の精神活動に就いて、殊に今迄我々自身にも氣付いて居りませんでした所の極く深い所に隱れて居る精神活動に就いて御話し致し、我々の精神力を增進し、實力を培養するのには如何したら宜しいかと云ふ方法に及ぼし度いと考へます。

我々の精神活動の關係を說き明す爲に、上の圖解（下図）を假りて御話致しましたならば、お解りになりよいかと思ひます。

此の圖の一番眞中に集注して居るのが、我々の目的に集注して居る意識であります。第二の活動的意識は此の第一の意識よりももう一つ複雜で、從つて意識の度は少し弱いのである。第三の放散せる意識は、活動的意識よりももう一層漠然としたものであるが、然しこゝ迄は矢張り我々の自覺して居る精神活動であります。第四の潛在意識は、自我意識と無意識との間にありますが、之はどちらに近いかと云ふと寧ろ自意識の方に近いので、其の精神活動は我々の意識には現れないのであるが、こゝ迄は兎に角我々の精神活動の區域內である。潛在意識の區

精神活動の關係

域は、意識のそれに較べると非常に複雑であり又中々廣大であります。第五の無意識は潜在意識よりももう一つ意識に上り難い活動で、例へば我々の生理的の運動、即ち消化機關、呼吸機關の活動等は容易に我々の意識に上り難いもので、斯う云ふ活動を無意識の働きと云ふ事もあり、時に依つては潜在意識と、無意識とは同意味に用ゐられる事もあるが、多くは意識に近いのと、もう一層遠いのと、其の程度に依つて區別されて居る樣であります。

故に意識と、潜在意識と、無意識は各々異なる精神活動ではなく、我々が自覺するのと自覺しないのとの其の程度の差であつて、實體はつまり一つであり、其の内容の種類の種々である事も其の活動の有機的である事も同じであります。

意識は言葉を換へて云へば我々の人格であり、生命であるが、此の意識の淵源となり隱れた根となつて居るものは潜在意識である。そこで潜在意識が直接間接に我々の思想、行爲に影響する力は實に非常なものであります。斯う云ふ精神の淵源が我々の意識の屆かない所にあると云ふ事は近頃心理學の進歩に依つて明らかにされたのであつて、勿論此の心的現象は昔からあつたものであるが、心理學の研究の發達して居らなかつた時代に於ては、此の現象は迷信的に取扱はれ、宗教家は之を奇蹟としたのであります。

今日心理學、社會學等の方面に於て、最も力を入れて研究して居ります所は、意識と潜在意識との關係、或は意識と宇宙と物質との關係で、其の間に存在して居る潜在意識の關係に就いては、大いに注意を拂つて益々研究の歩を進めて居ります。之は獨り心理學、社會學の傾向であるのみならず、今日では宗教にも、科學にも、文學等にも、大變斯う云ふ傾きが出來て參りました。キリスト教などで、クリスチヤン・サイエンスと云ふのは、心理學的宗教と云つてもよいので、又科學の研究も十九世紀には唯物論に傾いて居りましたが、二十世紀の研究は唯物質を研究するのでなく、物質の底にある潜勢力を見出さうとする樣になつて居る。文學の傾向も唯現象事實を現すのに止まらず、事實の根柢に潜んで居る意味迄も見出さうとする樣になつて來た事は事實であります。

夫れで今日深い精神上の研究に志し、根本の修養を要求する者は、此の潜在意識に關する研究を始める事が大いに必要であらうと考へます。

サブコンシヤスネスの内容

潜在意識とは英語のサブコンシヤスネスで、サブと云ふのは

第二、或は次ぎと云ふ意味で、コンシヤスは意識でありますから、我が國では第二意識、或は潜在意識と云ふ言葉が代りに用ゐられて居ります。然し此の譯語はどちらも、丁度サブコンシヤスネスの内容を云ひ現しては居ないが、外に適當な言葉もない様である。そこで斯う云ふ機會に言葉を覺えて置く事も必要であらうと思ひますから、之からはサブコンシヤスネスと云ふ言葉を使つて御話致しませう。

以前の考では、サブコンシヤスネスと云ふものは第二意識、或は第二人格とでも云ふ様なもので、第一人格、即ち意識よりも之はもう一つ深い所にある。而して假令肉體は亡び第一人格は滅しても、第二人格は靈體となつて、限りなく續いて行くものであるとして居りましたが、意識と潜在意識は斯く別々に存在するものではないのであります。

夫れから又サブコンシヤスネスを半意識と解釋した人もあり、或は病的意識とした人もありますが、之では一部丈けで、決してサブコンシヤスネス全體の内容を現しては居らない様である。スタウト教授はサブコンシヤスネスを性癖（ディスポジション）と云ひ、ハミルトン氏は之を無意識的精神改造（アンコンシヤスメンタルモディフケーション）と云ひ、サブコンシヤスネスに就て、最も深く研究したマイヤーは潜在意識（サブリミナルコンシヤス）と云つて居り、モルガン氏は縁端意識（マージナルコンシヤス）と云つて居る。心理學者ジエームス教授は、サブコンシヤスネスは新しき精神的現示の淵源であると云つて居ります。そこで私はサブコンシヤスネスと云ふ事を、最も廣い意味で考へたいと思ひます。

最も廣義で云へば、サブコンシヤスネスは意識の燒點に現れない精神活動の總體であつて、其の中には我々が先祖から個人的に、社會的に受けて居る遺傳、或は我々が後天的に習得した習慣及び神聖原理、或は神とも云ふべきものが潜伏して居るのである。即ち我々の無數の先祖、我々の多くの過去の經驗が潜伏して居る、意識以下に隱れた世界であります。今日科學上で云ふ本能遺傳、或はカントの實踐理性、シユライエルマヘルの所謂感情、其の他昔の宗教家の考へた神の力、或は本心、良心と云ふ様なものは、皆此のサブコンシヤスネスの中に包含されて居り、或は其の根柢がサブコンシヤスネスの中に置かれてあるのであります。

何故かと云ふと、本能は我々の遠い祖先から傳へられた遺傳で我々の意識には上らないが、重大なる支配力を持つて居るものである。個性は廣義に云へば一種の本能で、我々が生れ付き違つた性向を持つて居るのは、其の根本は矢張り幾千年間に於ける遺傳の結果であり、實踐理性、或は良心と云ふ様なものは、意識に現れる精神作用であるが、先天的に附與せられて居

るものであると云ふ其の性質から考へると、其の根本は矢張り一種の本能であると見ても宜しいのである。夫れからシュライエルマヘル等神祕派の說く神は、目で見る事も、推理する事も、經驗に訴へる事も出來ないので、只內的直觀に依つて神に接するのであるから、今日の心理學、形而上學の知識を以て此の考を統一すると、サブコンシヤスネスの中へ這入るのであります。

兎に角我々の精神、我々の力は、意識に上るもののみではない。其の根源はもう一層深い所にあり、又もう一層强い力が備はつて居る。卽ち意識の屆かない所に無限の力があるので、之を自覺してサブコンシヤスネスの中から力を引出し、之を實現する事が、人間の活動の目的であります。

サブコンシヤスネスが思想行爲に及ぼす影響

嘗て我々の作つた觀念、我々の築いた品性、我々の行つた行爲は、決して其の時限りで消え失せて仕舞つたものではなくして、皆我々のサブコンシヤスネスの中に貯へられてあるのである。而してサブコンシヤスネスの傾向は、慥に意識の世界に、不知不識の間に大なる影響を與へ、或條件の備はる機會があれば、サブコンシヤスネス中のものが、再び意識の世界に現れる事もあるのであります。

第二には我々の生命を營んで居る精神活動も、我々の知識の指導を受けないで、自分でも知らぬ間に、サブコンシヤスネスの支配に從つて動く場合が少くない。之は丁度一省には大臣の下に次官があつて、大臣の手許迄行かずに、次官の考で處理されて仕舞ふ仕事も澤山あるのと同じ事であります。

第三サブコンシヤスネスは斯く我々の生涯に大なる影響を與へるのみならず、又個人的にも社會的にも遺傳し、感染して益々其の支配力を逞しうするのであります。そこで我々の修養は、唯人の目の前で善事を行ひ、或は行爲の形式等にのみ注意したのでは本當の人格は出來ない。根本の此のサブコンシヤスネスから改善し、サブコンシヤスネスを豐富にするのでなければならぬのであります。

サブコンシヤスネスの傾向は善か惡か

サブコンシヤスネスの改善と云ふ事を考へるに當つて先づ第一に考へなければならぬのは、サブコンシヤスネスの性質は善であるか、惡であるか。或は善惡混合であるかと云ふ事である。此の答に對しては、善もあり、惡もあつて不完全なものである。然しサブコンシヤスネスの根本の性質は善である、完全

に向つて進まんとして居る傾向であると答へて差支へない。此の善惡と云ふものも、昔は絶對に異なるものであつたが、今日の考では之は相對的のものである。絶對の善もなく、惡もない。進歩したものは善であり、進歩のない固定したものは惡である。故に前には善であつたものでも、固定して仕舞へば惡になる事もある。我々には、先祖が人間らしい生活に入る前の、野卑なる、甚だしきは野獸的なる遺傳もあり、又人間の境界へ這入つてから後も多くの罪惡が行はれ、其の惡本能、惡習慣も慥に我々に傳へられてあるのに相違ない。之を以て中世紀の宗教家は、人間は先天的に罪の子であるとしたのである。此の惡要素が源となつて、我々の意識的生活にも多くの缺點惡習を生じ、罪惡を見るのは實に已むを得ぬ事であります。

然し之と同時に、我々には又先祖から受けついだ善傾向がある。此の善傾向と惡傾向は常に矛盾衝突を來し、長い間人間は善傾向を助け惡傾向を滅却しようとして奮鬪して居るのであるが、どうも内の誘惑に克ち、外の境遇に耐へる事が六ケ敷くなつて、時に人生の價値を疑ひ自暴自棄に陷らんとする事も少くはない。而して此の苦悶から人間を救ひ、永遠の生命を與へる事は或時代には物質的文明を以てよくする事が出來ると考へられましたが、然し事實に於て之は出來なかつたのであります。

然らば云ふ迄もなく人間を救ひ得るものは精神の力であり、誰でものサブコンシヤンスネスの奥に潜伏して居る神聖原理とも云ふべきものでなければならぬ。此の神聖原理は、誰もの心の底に必ず備はつて居るものであつて、之が卽ち性善説が稱へられた所以であり、カントが實踐理性を主張した所以であり、昔から宗教の力で人が救はれた所以である。如何なる惡暗示も、遺傳も、此の神聖原理を全然滅して仕舞ふ事は出來ない。此の善き精神が源となつて、丁度肉體が原形質に依り生命を發する樣に、精神上に限りなき生命を生じ、如何なる弱い人も惡習を有する人も、驚くべき變化を來し、生れ變る事が出來るのである。我々が神は外にあるものではない、内にあるのであると云ふのは之である。之が卽ち我々の人格の中心であり、社會と云ふ有機體を統一する原理であつて、或人は之を神と云ひ、或人は生命と云ふのであります。

兎に角斯樣な全然滅す事の出來ない、永久不變の原理が人間の精神の中に存在して居る事は、誰も否定する事の出來ぬ事實であり、又我々は自分の意識的經驗に訴へても之を信ぜざるを得ないのであります。然し我々のサブコンシヤスネスの中には、惡い傾向が中々勢を逞しうして居る事も事實であつて、此の惡傾向を段々滅ぼし、善傾向を助長して一層旺んな精神力を

得ると云ふ事は中々骨が折れるのである。然らば如何にすればサブコンシヤスネスを改善する事が出來るかと云ふ事は續いて起る問題であります。

サブコンシヤスネス改善の方法

此の問題に一言で答へるならば、我々の暗示を受ける感受性と、暗示を與へる働きに依ると云ふのであります。

暗示とは、他の言葉を假りて説明すれば我々の模倣性であり、動機の方から云へば同情と云ふ事になる。我々の傾向には特殊性と普遍性との二方面があるので、此の普遍性が卽ち我々の感受性である。此の感受性に依り、善き暗示を受けて、サブコンシヤスネスを改善する事が出來るので、此の前、「我の研究」の所で申しました自我の擴大、卽ち身體我を家庭我にし、家庭我を國家我にし、宇宙我にすると云ふ事は、矢張り此の感受性を働かせて其處に一つの同化作用を起し、自我意識を向上させるのであります。

昔の教育は耳で聞く事であり又本を讀む事でありましたけれども、夫は丈けでは眞の教育の價値は現れないのであつて、我々は目を以て觀察し、耳で聞く許りでなく、頭腦で考へ、次ぎに筋肉を働かせて活動に現さなければならぬのであります。而して此の活動を起すのには、何か一つの原動力となる暗示がなければならぬ。我々は此の暗示に依つて頭腦の中に何かの新しい觀念を作り、舊觀念を去つて新しい活動を起すのであります。そこで今日の教育は、つまり暗示を受ける感受性を強くし、又暗示の善惡を辨別する意識の力を養ふと云ふ事である。我々が人格を作ると云ふ事は善き暗示を受け、善き活動を起すと云ふ意味である。故に我々教育の結果人格の價値は、我々が或暗示を受けて、如何に反應するかと云ふ事に依つてきまるのであります。

然し只今申しました樣に、暗示には善い暗示もあり惡い暗示も少くないのであるから、之を選擇するのには意識の指導に依らなければならぬ。此の暗示と意識と云ふ事に就いては、後日もう少し詳しく御話致す考であります。

先日來私は婦人の發達と云ふ事に就いて深く考へました末、之が大なる影響を與へて居るものであらうと考へました事は此の暗示であります。我が國の婦人は長い間實に根據のない、誤つた暗示をかけられて居つたのである。女子は小人である、女子は罪惡の塊である、女子は體力に於ても腦力に於ても劣等の人種である、精神力も薄弱である。到底女子は救ふ事の出來ない無能力者であるから、女子に教育を與へる事は不必要であ

る。思想を與へる事も要らない。唯從順にして居れば宜しい、人に依賴して居るべきである、と。斯う云ふ事を暗示して、社會は女子を從順にし、謙遜にすると考へたのである。然るに事實は如何であるか、女子の外形を卑屈にし、內心を强情頑固にし、我が儘にし、虛榮にしたのである。女子を益々無智無能にして、罪惡に近づかしめたのであります。あなた方婦人が不知不識の間に社會から受けて居る斯う云ふ惡い暗示が如何にあなた方を消極的にし、無氣力にし、あなた方の信仰を破り、自信を奪つたか知れないのである。我々は此處で積極的に女子の責任を自覺し、天職に向つて奮鬪して、社會から善き暗示を受け、又善き暗示を自分自身に與へ、周圍の人に與へ、社會に與へて、サブコンシヤスネスの中から惡い暗示を驅逐し、益々之を改善し、豐富にするならば、我々は此處から實に强い力を得、此處に生命の源を見出して、實力を養ひ、限りなく進歩する事が出來るのであります。

（「櫻楓會通信」第二十八號）明治四十三年二月

將來女子の爲すべき仕事と學ぶべき事柄

女子の革命時代である

十九世紀下半期より、歐洲の文明は一大進歩を來たし、所謂る日進月歩の有樣であります。さうして、東洋に鎖されて居た我が日本は、開國五十年間、世界に類ゐなき進歩發達を遂げ、世界の强國と對立するに至つたのであります。この大變化を受けたる日本は、外形に於ても變化を起し、內容に於ても變化を來す可き筈でありますが、今日の有樣では先づ外形だけ調ふて來たので、內容の整理はこれからであります。故に明治の維新は男子的の革命時代であつたが、今日は女子的革命の時代であると云はねばなりませぬ。男子が國家の陣頭に立つて明治の維新を企てたやうに、女子は家庭の上に立つて第二の維新の革命を起さねばならぬ時代であると思ひます。

守舊は易く進歩は難し

元來男子は進歩改良を好み、女子は保守的現狀維持を好みます。故に男子の仕事は、歐洲の文明と相劣らぬ程に達してゐますが、女子の仕事は依然舊態を變へませぬ。私は先年鄕里山口縣に十年振りで歸鄕して見たが、十年前と十年後の今日と、家庭の狀態が少しも變つて居ませぬ。汽車とか電氣とか言ふ文明の

利器は盛に採用されて居るけれども、臺所に瓦斯を使ふて居る家も無く、十年前の竈は依然として臺所に据付けられ、水道とかポンプで水を吸むことはしないで、竹のはね釣瓶で水を吸んで居ると云ふ風であります。其他家族の有様、精神上物質上に於て少しも變化が無い。發達が無い。これは畢竟女子の保守的思想の結果に過ぎぬのであります。元來古風を守る事は最も安いのである、現狀維持は行ひ易い仕事である。然るに少しでも進歩、改良は困難な仕事である。然るに婦人は出來得る限り現狀維持説を主張するものである、しかし今日では最早世界の趨勢上現狀維持は許さない、生存上現狀維持は出來なくなる位置にあるのであるから女子も大に改良を計らねばならぬのであります。

女子教育の將來

女子の教育もまた時代に適應して往かねばならぬ。明治維新後女子教育の發達の道筋を尋ねて見ると、時々伸び縮みがある、これは、一面社會上の輿論や關係にも原因して居るが、一面には女子の保守的思想から來て居るのである。新らしき學問を爲し、新らしき家庭を作ることは先例なき仕事だけに非常に困難であつて、又た錯誤がその間に生ずるのである。たまたま女子の進まんとする後ろからして引留めやうとする古い思想さへある。故に女子教育が非常に困難に陷るのであるが、しかし舊來の日本のやり方が決して善良なのでは無い。只舊慣を守つて居れば無難であると云ふまであります。これは是非共改良を加へなくてはなりませぬが、現今の女子はこの困難の衝に當ることを避けて、成るべく次の時代の女子にその困難の革命を讓らうとして居るのでありますが、併し時代はこれを許しませぬ。現代の女子が革命を企てるのでなければ、到底出來ないのであります。

家庭の仕事がかうなる

文明の仕事はみな分業になるのは、經濟上の原則から來るのであります。工業商業皆分業であります。一本の針を作り出すにさへも、數百の分業が行はれて居ると云ふ程でありますから、家庭の仕事もやはり分業的にならねばなりませぬ。洗濯をするものは洗濯屋に裁縫は裁縫屋に、ペンはペン屋に限り、料理を能くするものは料理屋に限ると云ふ風になつてみな專門の仕事が別れて來ます。その他家庭の仕事も萬事組合的になつて來ると思ひます。生產組合や產業組合が便利であるやうに、家庭と家庭との組合が出來て、お互に經濟的にまた便利に仕事が

出來るやうになることと思ひます。假令ば飯を一軒一軒焚くのを止めて、數軒連合して飯を作つて互に分配するやうな事も出來るであらうと思ふのであります。

精神的指導者たる任務

日本の家庭に於ては、精神的の改良を計らねばならぬが、これは宗教の力によらねばなりませぬ。世界の宗教はおひおひ統一される傾向を以つて居ますが、この宗教的觀念を社會に傳へて、社會の精神的指導者となるものは、高等の教育を受けたる婦人で無くてはならぬと思ひます。善き教育を受けた婦人は、四周に在る人を感化せしめて、自己の人格に同化せしむる力を持つて居るのであります。婦人一人が能く教育されることは、その婦人一人の爲でなくその親兄弟ならびにその子孫にまで及ぶのであります。これ等の婦人が相團結して、濁れる社會の空氣を清めて、新鮮なる社會を形ち作ることをつとめねばなりませぬ。男子の方は既に固定されて、どんなに能く教育しやうとしても、その改良は困難であるが、女子の方はまだまだ餘地がありますから、この宗教的思想を養成して、社會なり家庭なりの精神的改良を計る事が出來ることと確信して居ります。

（「婦女界」第一卷第一號）明治四十三年三月

櫻楓會來年度の方針に就いて

本年に於て我が日本女子大學校は、創立以來十回の年を重ね、近く來年には第十周年を迎へるのである。從つて本校の第一回生と共に生れた櫻楓會も今年で十歳になつたのである。

今日迄の十年間は如何なる時であつたかと云ふと、一言で云へば母校も櫻楓會も創業の時代であつた。我々は一日も安心する時なく、絶えず精神を緊張し、全力を擧げて事に當り、或時は自分の力以上の困難を背負ひ、非常なる奮闘をつゞけて來たのである。そこで今後の十年卽ち第二期に於て、我々は如何したならばもう一層個人を進め、團體の生命を作つて、もう一つ發展する事が出來るであらうか、之は大いなる問題である。昨年の夏以來私は此の問題に就いて深く考へあなた方にも、國家の爲、櫻楓會の爲、自分の爲、深くお考へになつて、此の際決心をお現しになる事を希望した。夫れから今日迄の十年間卽ち第一期の結論の資料として、又今後の方針の參考とする爲に、卒業後に於けるあなた方の經驗、現狀を明らかに知る必要を感じたので、便宜上會員を二つに區別し、校内の方々には昨年の夏以來個人面會を致し、又毎週水曜に私が司會して修養會を開

き、或は銘々から論文を出して貰ひなどして其の考を集め、又校外地方の方々からは所感を書いて通信して下さる樣に申し、之はもはや澤山に返事が來て居るが、目下整理中である。

そこで今日あなた方は、どう云ふ考を持つておゐでになるかと云ふと、細かい所は銘々違つて居るが、兎に角大體から云ふと、各々其の方面に於ては一通り經驗も積み、社會からも相當に認められる樣になり、自分は益々進歩しようとして、努力して居るのであるが、どうも深く省るとまだ實力が足らない、此處迄は進んで來たのであるが、もう一歩進んで國家社會の要求に應じ、目的を達するのに此の儘では中々行けない、どうかして大いに根本から力を養はなければならぬと云ふ事である。

此の實力の培養と云ふ事は、從來と雖も決して努めなかつたのではない。今日迄我々は個人の進歩と云ふ事に大いに注意して來たのであるが、然し創立の際であつたから、母校、櫻楓會の發展を計り全體の大勢を作るのに急で、個人の成長のために、充分適當な境遇を作る事は、中々充分には出來難かつたのである。然し今日では創立の事業も兎に角一段落を告げたのであるから、今後三年は寧ろ少し方法を改め、個人の成長を計る事に大いに力を入れる事が必要であらうと氣付いた。之が今度の新しい計畫をたてた主なる動機である。

私の長い經驗を考へると、どうも御婦人には靜止固定の傾向が強く、少しでも油斷するならば停滯を來し易いのである。從來の舊い習慣に克ち、一歩でも先きに出ると云ふ事は非常に困難な事であるが、殊に御婦人には出來難い樣である。學校に居る間は中々進歩が速い樣であるが家庭へ這入ると、舊い風俗習慣に克つて進む事が出來難い。之は獨り家庭のみではない。我が櫻楓會も、母校も、今日迄は創立時代であつたから、固定する事は、境遇上どうしても出來なかつたのであるが、今日では一つの校風が出來、秩序、習慣が段々に作られてあるから、餘程の決心を以て改善に努めないと、固定して仕舞ふ恐れがあるのである。然し之は今迄の習慣、風習と云ふ樣なものに反對するのではない。習慣と云ふものは慥かに大切なもので、或意味から云へば、教育の目的はよき習慣を作るにあると云ふ事も出來る。然し固より習慣と云ふものも不完全であるから、これで出來上つた、もう之でよいと安心して、改善する事を怠るならば、我々は一つ所に固定し、生命のない形式に捉はれて、種々の弊を生ずる恐れがあるのである。現狀を保ち、同じ事を繰返して居る程樂な事はない。現狀から一歩宛進む、卽ち改善と云ふ事は非常に困難であるのみならず、時に危險を伴ひ混亂を來すのである。故に之を能くするのには非常なる努力を要するの

である。そこで勇氣のない人は改善を喜ばないのであるが、勇氣に滿ちて居る若い者は決して固定を喜ばない。常に若い者は境遇を變へ、變へる毎に一層善く大きく、深く進めて行くのである。一言で云へば老人は靜的であるが、若い者は動的であつて、老人と青年との眞の區別は決して年齡にあるのではなく、實に此の態度の如何にあるのである。

今申した意味で、我々はもう一つ櫻楓會、母校を若返らせなければならぬ。同じ事を繰り返す樣になつては進歩は出來ない。私は實に六ケ敷い事を皆さんに要求する樣であるが、之が出來なければ個人を進める事も、會の發展を計る事も出來ない。櫻楓會の目的は達せられないのである。決して一つ所には止まらない、固定しないで、益々改善して行くと云ふのが、我々の主義でなければならぬのである。

そこで斯う云ふ必要から、あなた方の要求、經驗を參考として、社會の要求を考へ、母校、櫻楓會の將來を慮つて、今度一つの新しい計畫を立て、副會長、幹事會に相談した所が、皆さんが賛成と云ふ事であつたから、愈々大會で全體に謀つて、皆さんが同意ならば、實行したいと思ふのである。此の案は、つまり内容の充實、實力の培養、會員の成長と云ふ事を目的として立てたもので、方法等に於ては、今迄とは自然違ふ所があるのである。之は追々に三部の計畫、本部の組織、其の他種の方面に現して實行して行きたいと思ふのである。來年度に於ける三部の計畫には、幾分此の方法を入れたい考である。夫れから本部の組織は此の際もう一つ改める必要があらうと思ふのである。

今迄本部に直接働いて居た人々の實驗を聞くと、中々仕事が複雜で責任が重いから、自分の力を養ふ爲に時や力を用ひる餘裕が作り難いと云ふ事である。私は何、決心するならば出來ない事はないと勵まして、創立の際から隨分無理かと思ふ事も、どうしてもそれをしなければならなかつたので、瘠馬に鞭つて進んで來たのである。然しものには程度があるから、何時迄も無理を押して行く事は宜しくない。矢張り全體と矛盾しない方針を執つて、此の際大いに個人の力を養ひ第二發展の準備をしてはどうであらうか。今迄長く櫻楓會の爲、母校の爲に盡して來た方々で之からもう一つ勉强したい、專ら自身の修養に暫く力を入れたいと要求しておゐでになる方は、適當な後任が得られゝば其の要求を容れる事にし、其のあとは比較的都合のつく人と、若い人が引受けて、内を養ひ、内を充實する事に力を集注したらどうかと考へたのである。

然し之では辭する人も、引き受ける人も、一層責任が重くな

るのであるから、愈々具體的に案を立てる時になつて、中々決心が出來難く、爲に長い間の熟考を要した。然し我々は易き道を捨て自らの弱點と戰つて、速かに第二發展の用意に着手しなければならぬのである。

今日迄に案の立つた所を申すと、第一は幹事長である。之は御承知の通り井上幹事長の留學中平野さんが今日迄代理をして下さつたのであるが、平野さんは今後高等女學校の教育の方に大いに力を入れたい、又寮監長の責任が之からもう一つ重くなる譯であるから、此の際どうか幹事長の責任を解いて、一方に力を集めさせて貰ひ度いと云ふ希望である。井上さんは三月頃歸朝の筈であるが、井上さんは家政學を專攻して來たので、歸朝後家政學部の家政學を擔當して貰ふ筈である。此の科目は前から家政學部の主要科目として設けてあつたのであるが、適當な人がない爲に、今迄は家政學部に於ても、家政に必要な基礎學の知識を與へるのに止まつて居つたが、之からは此の科目に於て知識の統一活用を計らうとするので、中々骨が折れるであらうと思ふから、多分井上さんが幹事長の方は引受ける事は出來まいと思ふ。

此の外の幹事中の年長者は、創業以來大抵毎年選ばれて來たので、これも今日迄は已むを得ない事であり、又必要でもあつたのであるが、此の上同じ人で續けると云ふ事は、或は一つの型が出來て仕舞ふ恐れがあるから、此の際辭任して新しい人に替つて貰ふ事が、將來の爲に必要であり、又此の儘無理をして續けて行つては、足らない力が盡きて仕舞ふかも知れないから、幹事の候補者にも今度は立つ事を辭し度いと思ふ、と云ふ御相談があつた。私も幹事の方々と同感であるが、然し若い人が幹事長になつては中々やり難いだらうと思ふ。そこで已むを得ないから當分幹事長は缺いて置く事にし、議長を新しい幹事の中から代る〳〵選出して、幹事長の責任は當分幹事の共同責任にして置いてはどうであらうか。今迄の習慣から考へると之は大いに不安なやうである。今迄長い間經驗を積んだ人でも中々困難に感じた所であるから、若い經驗の少い人ではどうであらうかと懸念する人もある。勿論我々も之が最良の方法と信ずるのではないが、今日の場合では最も適當な方法であらうと思ふのである。責任を負ふならば、若い人でも隨分力を現すものである。全體が一つになつて力を協せて助けるならば、若い人でも必ず充分に責任を盡す事が出來るに相違ない。全體が此の態度にならなければ如何に經驗あり、力量ある人と雖も、決して働けるものではないのである。故に今迄の習慣から推して、餘り心配する必要はあるまいと考へる。

夫れから三部長は、力が不足であるから、此の際もう一つ勉強する爲に辭し度いと云ふ事である。幹事長も部長も、任期は四年であつて、今年は就任以來三年目であるが、其の一年程前から名は幹事長、部長といふ樣に定まつて居ないが、實際其の責任は盡して來たのであるから、實務を執つた時から云へば四年になつて居るのである。兎に角此の際もう一つ力を養つておく事は將來の爲大切であるから、適當な後任者があるならば希望を容れたらどうかと思ふのである。もし此の希望を容れゝば、部長を改選しなければならぬのであるが、部長は其の部員の中から互選すると云ふ事になつて居る。之は一寸考へると宜しい樣であるが、實行上から考へると、候補者でもないと、互選するのにしても當てが無くて誠に困る。或は又折角選んでも、其の人は引受ける事の出來ない事情があつたりすると、又色々時を費さなければならない樣になるから、矢張り幾人か候補者を考へておく方が宜しいかと思ふ。今日では社會部教育部には、大抵候補者が得られさうであるが、家庭部にはどうも見當らない。又家庭部長は比較的事情が許すので、半年一年を強ひて爭ふ譯ではないと云ふ事であるから、後任者を得る迄留任する事にしてはどうかと考へる。

それから會計主任の中村さんは、健康を損じて居るので靜養が必要であるのに、どうしても必要があつたので、今日迄長い間無理して居たのであるから、今度辭したいと云ふ事で、私も尤もであると思ふが、どうも中々適當な後任者がない。そこで已むを得ないから、後任者を得る迄之も用じく留つて貰つたらどうかと考へるのである。

今申した幹事長と、會計主任、三部長は、何れも任期が四年であるが、之は少し考へものである。前に四年に任期を定めた理由は、就任して一通りの經驗をする迄には略々二年程の時がかゝるであらう。それから又自分のたてた一つの計畫を實行するのには少く共二年の年月が必要であるから、四年より短くては困るであらうと考へたのである。然し今迄の經驗から考へると、あまり任期を長くして置く事は必要でないのみならず、却つて色々な不便がある。何故かと云ふと、假令無經驗の人が新たに就任しても、今日では段々に仕事の秩序も立つて居り、又前からの經驗も傳へられる事であるから、さう長い時を費さなくとも仕事に慣れる事が出來る樣である。又四年と云ふ年月は可なり長いから、此の間續いて責任を持つ事は事情の許さない人が多い。又或は事情は許しても四年の間大いに働いて、少しも弱らないと云ふ丈けの力は中々貯へられないのである。そこで私は此の四年をもう少し短縮して、三年にしてはどうかと思ふ。

次ぎに幹事であるが、之は一回生で之迄毎年殆ど選ばれて、長く責任を盡しておゐでになつた藤原さん、弘田さんは、前に申した理由で辭したいと云ふ事であり、小橋さん、大橋さんは今度幹事に選ばれるならば、自然今迄幹事長のして居た事がそこに行く樣になるかも知れない。然るにお二人とも今迄隨分無理をして來たのであるから、若し事情が許すならば矢張り此の際力を養ひ度い、此の上にもう一つ重い責任を引受ける樣になるならば誠に困ると云ふ事である。さうすると自然幹事の候補に立つ事を辭して居らなければならぬ事になるのである。そこで來年度からはもう少し若い人の中から、幹事を選ぶ樣になるかと思はれる。

尙此の外にも種々の變動が必要であるが、細かい事は大會に於て、御相談して定めたいと考へる。何時でも新しいものが生れ、新しい發展を來す迄には、どうしても多少の混亂と不安を免れないものである。之を恐れて居るならば到底進歩は出來ない、發展は出來ないのである。私は會員の今日の決心に對して大いに望みを屬し、將來の爲に其の決心の貫徹を計り度いと思ふのである。之は獨り校内の會員丈けを申すのではない、櫻楓會全體の方針が今後は内容の充實、實力の養成と云ふ事になり、會員銘々が此の際大いに決心して、將來の發展の基礎をお作りになる事を深く希望して已まぬのである。

（「櫻楓會通信」第二十九號）明治四十三年三月

眞の美人とは何ぞ

美人に就て話すには、先づ美といふものゝ標準からして決めてゆかねばならぬが、審美學で云ふ美の標準はとにかく、普通は感情的、個人的のものであつて、決して一般的、普遍的のものではない。從つて、甲の美とする所、必ずしも乙の美とする所ではないので、その間の逕庭は美を選ぶ人々の審美的意識の高下にまつて種々に分れる。

然しながら一般に肉體の美と云へば、健康、均整、調和といふやうなものを指すので、単に美貌と云へば、多くは顔色の美しく、眼鼻立の整ふた顔を指すやうである。これは、普通の人々にとつては是非もないことで、顔面乃至體格の形式的の美が、直ちに彼等の官能を通じて感情を動かすからであらう。然し一方には、顔は醜くても、其の人に接して決して不愉快の感が起らぬのみか、却つて世の所謂美人よりも敬愛すべきものがある。これ美は必ずしも外形にのみ限るべきものにあらずして、心の美しい人、卽ち

心に調和あり、均整ある人

は、自然これが表象となつて外に現はれて来ると云ふ事が分る。さればと云つて、世の中でよく云ふやうに、美人なるものが必ずしも毒婦でもない。美貌を鼻にかけ、一向修養もせず、知識をも求めないと云ふのは、下層社會の人にある事で、相當な家庭に養つたものは、概してさやうな弊風はないやうである。要するに先天的に、顔の美醜と、精神の美醜とが、正比例をも反比例をもなして居らぬのである。心が訓練せらるれば美人は彌よ美しく、醜婦も決して美貌に劣らぬ美しさがあるものである。故に眞の美は健康の優れたる人、感情、慾望の統一して、調和した圓滿な生活を營み得る人、常に修養に努め、実力を養ふて老いざる人、一口に云へばその人格にありと云ふ事が出來る。而して

人には元來各々一ケ所の美はあるもの

で、その美を豊富にすべく努力して怠らざれば、遂には他の缺點がその美の爲に掩はれて眞の内容的美、人格的美を現はして來るものである。繰返して云ふが、美はその人の人格の表現である。而して、斯る美は今日の進んだ教育を受けたる人には、誰にもあるものであつて、又無ければならぬ筈のものである。而して又、この種の美は自らも喜ばしく、同時に他人にも滿足を與へるものであるから、美の内でも最も高尚なものと云はなければならぬ。自分は、この種の美に美の標準を置いて、肉體の美並に精神の美を養ふことを人々に望むものである。

然らば、この種の美を如何にして培養增進すべきか。こゝに

教育上の美育の必要

が起つて来るのである。

先づ外形の美を整ふるには、美の撰擇力を養ふことが大切である。人が、着衣なり裝飾品なりを選ぶのは、皆その人々の趣味性によつて選ぶのであるから、趣味識の下劣な人は自然下劣な美の撰擇を行ふ。故に、趣味性は絶えず高尚にし、上品にするやうに努めなければならぬ。で、学校教育などでこの趣味意識の向上發達をはかるには、一つは、消極的に何々すべからずといふ禁制と、今一つは、積極的に自ら撰擇するの力を養ふことを必要とする。けれども、前者は動もすれば角を矯めて牛を殺すやうな場合が多いので、今日の教育の原理に戻るものである。だから、矢張積極的美育によつて、各人各個の美意識を高尚にし、外力に制せられずして自ら美を撰擇するの力を養はな

ければならぬ。これを着衣にして見れば、華美に走らず、質素に過ぎず、各人の境遇資格に適當なる服裝を選ばせるの判斷力を養はなければならぬ。

既に外形の美が整ふたならば、次に當然の順序として身體の美を培養する必要がある。けれども、肉體の美と云つても決して白粉をつけ、紅をつけよと云ふのではない。かゝる化粧品、裝飾品は却つて眞の肉體の美を殺すものである。

眞の肉體の美は、内面の健康より發する

光輝でなくてはならぬ。皮膚は例へば硝子の如きものである。此透明な硝子を通して、循環よき血液、發達したる筋肉が何のさはりもなく、外に現はれたものでなくては、眞の肉體の美であるといふことは出來ぬ。卽ち、眞の肉體の美は健康の美である。

最後に最も重んずべき事は精神の修養である。單に外形の美なれば、心の變化すると同時に種々に變化する。蓋し、心の種々の變動は、直ちに顏面筋の收縮狀態にその儘現はれるからであらう。身心は極めて密接な關係を有するものであるから、自身の心を自身に支配し、我儘を取去り、平和、圓滿なる心を保ち得る者は、外形の表現も自然調和を得るやうになる。

これに就て米國の婦人を見るに、彼等は彼等國民の宗教上の觀念から、或は移住の始め女子の少なかつた爲めに、非常に大切にせられた結果、自然自重心に富んで居り、且つ國土に比して人の尠なかつた爲め、男子に劣らず働らかねばならぬやうになつたので、自然活動力に富んで居る。故に動もすれば疎暴に流れ易いが、然し教育あるものは飽迄も其の長所を把持して、しかも柔和溫順なる美しき婦人である。然るに日本の婦女子は昔から消極的に教育せられたので、精力を外に向けて發展させることの出來ぬ爲めに、柔和のやうであるがなか〳〵頑固であり、頑固であるかと思へば一向意志がないと云ふ矛盾極まる複雜な心理狀態に陷つて居る。それが原因となつて、家庭の不和を來すことが多い。自分は斯る教育を、少くとも今後は是とすることが出來ぬ。女子と雖、活動力、向上心の大切なる事は、男子と同樣である。强ひてこれを抑へて外へ現はさしめざれば、却つて惡影響を持來す計りである。

この惡影響を除く爲めには、是非共女子の活力を外に向けて發展せしむる必要がある。從つて學校などでも、成る可く學生が自動的に發表する機會を與へ、教師は之れに適当な指導を與へてゆく必要がある。而して體育等は益々奬勵して、意志の通り自由に働き得る身體を訓練する事は大切である。これ女子の

生命なりと迄考へし、溫順優美の德と、相悖るべきものではなく、我々は健康なる身體を通じて、美はしき人格を遺憾なく發揮しつゝある人、眞にこれをこそ美人と云ふ事が出來ると考へる。

（「無名通信」第二卷第一號）明治四十三年一月